

# 40周年記念誌

**CNDI**

千葉県非破壊検査研究会

千葉県非破壊検査研究会  
40周年記念誌

# 40周年記念紙 目次

## 第一章

### 記念式典写真

創立総会	2
10周年	2
20周年	3
30周年	3

## 第二章

### 発刊の辞

千葉県非破壊検査研究会 第7代会長 小井戸純司	6
-------------------------	---

### 祝辞

千葉県商工労働部産業振興課	課長	飯田卓也	8
一般社団法人日本非破壊検査協会	会長	井原郁夫	9
一般社団法人日本非破壊検査工業会	理事長	長岡康之	10
神奈川県非破壊試験技術交流会	会長	笠井尚哉	11
協同組合千葉県鐵骨工業会	理事長	栗原 宏	12

### 40周年に寄せて

顧問(第4代会長)	元千葉県機械金属試験場	白井越朗	13
顧問(第5代会長)	元発電設備技術検査協会	岸上守孝	15
顧問(第6代会長)	NPO 国際建設技術情報研究所 理事長	藤盛紀明	17
副会長	千葉県産業支援技術研究所 所長	山田 満	18
幹事・監事	元JFEスチール株式会社東日本製鉄所	守井隆史	20
幹事・監事	栄進化学株式会社茨城工場 副工場長	相村英行	22
幹事	立川NDTテクノ 代表	立川克美	24
幹事	株式会社ダンテック 関東支社 副支社長	高橋厚志	28
幹事	JFE大径鋼管株式会社	高橋英司	29

### 第三章

40周年記念式典・祝賀会の報告	32
-----------------	----

### 第四章

#### 研究会について

歴代会長	38
組織	39
会則・要領	40

#### 研究会会員

会員名簿	44
会員・企業紹介	45

#### 研究会活動

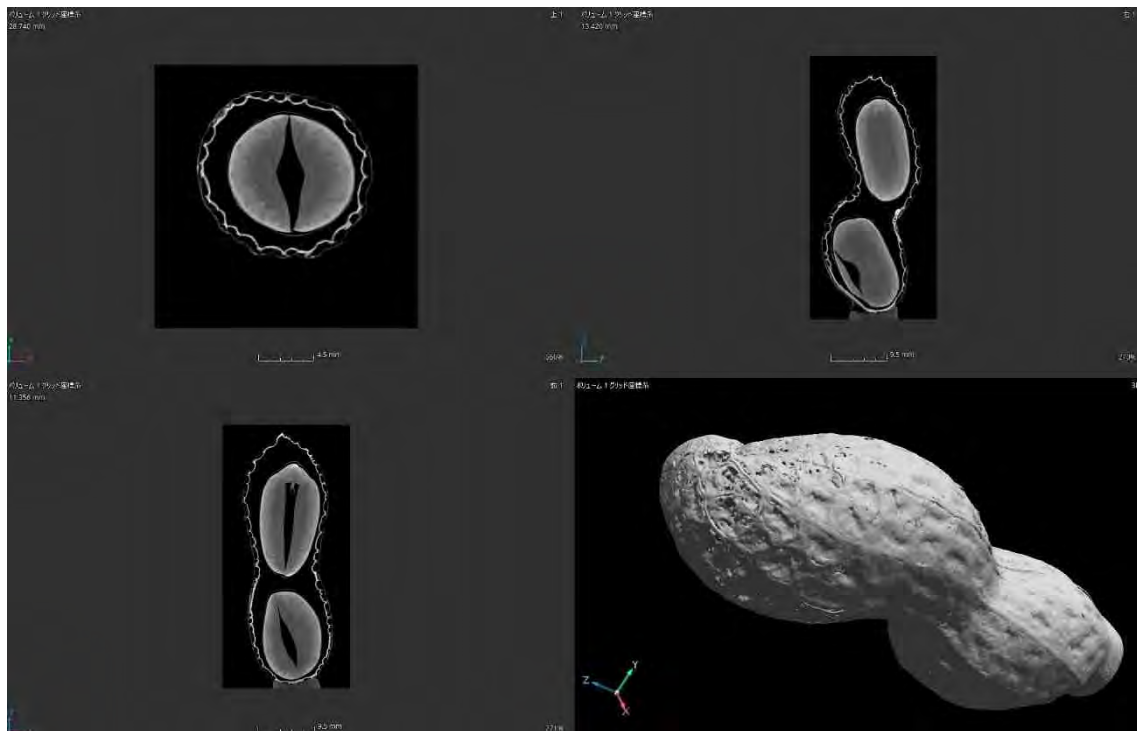
創立～令和4年度	64
----------	----

### 第五章

研究会年表	142
-------	-----

編集後記	155
------	-----

# 第一章



X線CT装置による千葉県産落花生の2D及び3Dレンダリング像  
(撮影:千葉県産業支援技術研究所)



創立総会

【昭和 56 年(1981)5 月 23 日 日本大学生産工学部】



10 周年記念式典

【平成 3 年(1991)1 月 9 日 高度技能開発センター】



20周年記念式典

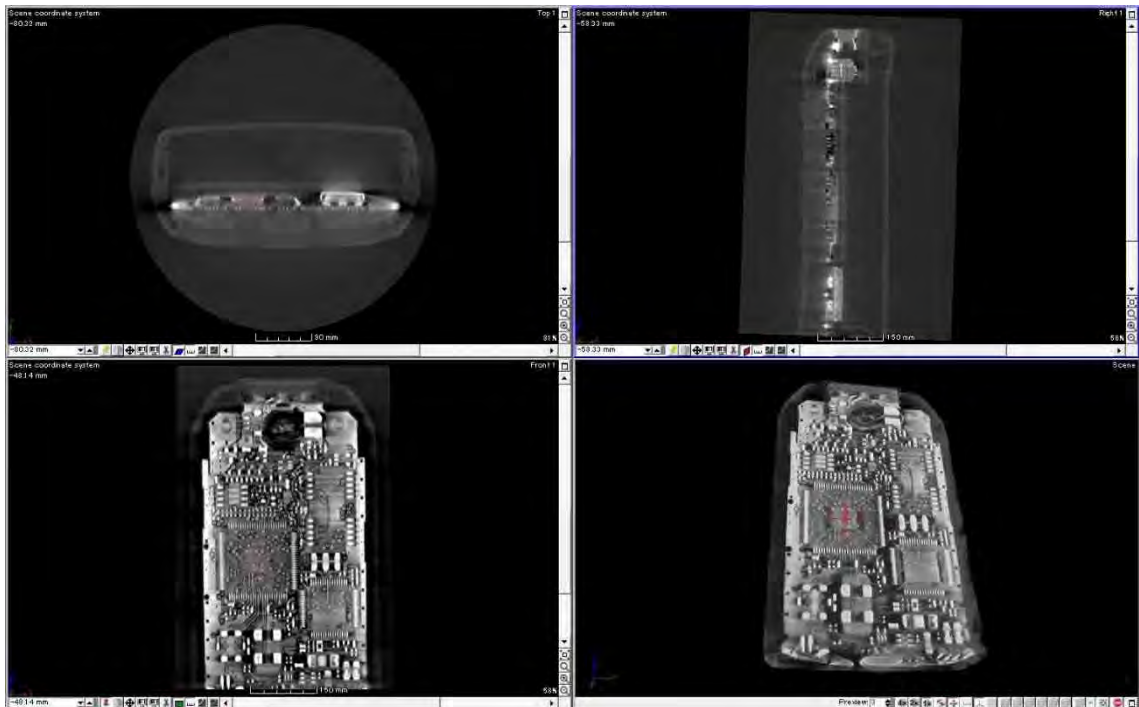
【平成13年(2001)9月29日 ホテル海光苑(鴨川市)】



30周年記念式典

【平成23年(2011)7月8日 ホテルザ・マンハッタン】

## 第二章



X線CT装置による携帯電話の2D及び3Dレンダリング像  
(撮影:千葉県産業支援技術研究所)





## 千葉県非破壊検査研究会が 創立 40 周年を迎えて

日本大学名誉教授  
千葉県非破壊検査研究会  
会長 小井戸 純司

千葉県非破壊検査研究会は昭和 56 年 5 月に創立され、一昨年の令和 3 年に 40 周年を迎えました。40 年と言えばほぼ半世紀に近い年月です。本会の創立当時、私は、私のボスであり初代会長を務めた石橋泰雄名誉教授の助手であったため、我が生産工学部津田沼キャンパスで開催された第1回の創立総会の準備等をお手伝いさせて頂いたのが遠い昔の記憶です。

皆様よくご存じの通り、本会は白井越朗氏、岸上守孝氏、藤盛紀明氏によって設立され、活動が始まりました。NDT は歴史的に RT から始まり、そのきず検出率の高さ、きずの大きさの定量的な計測能力から、船舶、橋梁等の鋼溶接部に対する探傷は RT が適用されていました。ところが、当時、建設が急速に増えて来た鉄骨構造による高層建築の溶接部には RT を適用することが困難であったため、これに対し UT を適用することについて白井、岸上、藤盛の三氏は研究を重ね、(社)日本非破壊検査協会(当時)をも巻き込んで UT の研究を精力的に推進されましたが、その活動母体として本会は大いに有効であったことは想像に難くありません。このように、本会が UT の技術の発展に大きく寄与したことは自他共に認めるところであると考えます。その後、本会は主に超音波探傷技術の普及を進めることにも注力し、会員企業を対象の中心として UT の技術講習会やセミナーを開催するに至り、現在に至っております。また、技術開発についても情報収集のアンテナを張るため、研究発表会や他研究会との合同研究会なども積極的に開催してきました。

地球環境の保全に対する対応として原子力発電は縮小する方向に動き始めましたが、21 世紀になって世界情勢は却って不安定となり、国の発展に重要なエネルギーの確保が大きな問題となってきました。我が国もエネルギー枯渇に対する対策の一つとして原子力発電を再度見直し、従来からのプラントを延命使用すること、および新設する方向に舵を切りました。これについては今後ますます NDT の重要性が増すものと思われれます。本会もこのような動きに敏感に反応して対応して行く必要があると考えます。

以上のように、千葉県非破壊検査研究会は「川向こう」のみならず川のこっちも含めて NDT 技術の研究開発, 教育, 情報交換等に注力して参りましたが, 30 周年からの 10 年間はあっという間に過ぎました。これを受け, 幹事会としては平成 31 年春から令和 3 年に創立 40 周年記念事業を開催しようと準備を始めましたが, 折悪しく, 令和元年 12 月に新型コロナウイルス感染症が顕在化し, 令和 2 年に入って我が国でも感染者が急増しました。したがって, 令和 3 年に記念事業を実施することを断念し, とりあえず, 1年延期することと致しました。そして, 令和 3 年末に感染の状況を鑑みて翌令和 4 年の秋には記念祝賀会を開催することが可能となるであろうと判断し, 準備にとりかかり, 令和 4 年 11 月 10 日に 1 年遅れで開催することが出来ました。

当日は多くの来賓の方々, 会員諸氏にご参加を頂き, 会の創立に関わった方々や各界でご活躍の方々から貴重なお話を頂き, 和気藹々とした中にも充実した会とすることが出来ました。これも一重に長い間会を運営してきた幹事の方々や会員諸氏, そして, それをサポートして頂いた千葉県, 産業支援技術研究所, 関連の学・協会や研究会の関係者のお陰であると感謝する次第です。

当千葉県非破壊検査研究会は, これからも NDT 技術の発展を通し, 社会の安心・安全のために活動を続けていく所存ですが, 会員の皆様のご指導とご協力なくして成し遂げられることはありません。今後とも会員諸氏のご活躍をお願いして 40 周年のご挨拶とさせていただきます。



## 祝 辞

千葉県商工労働部産業振興課  
課長 飯田 卓也

千葉県非破壊検査研究会が創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

非破壊検査は、品質保証や保守点検の場面において、検査対象物を傷つけることなく構造物内外の傷や状態を可視化することができ、ボルトなどの小さな製造部品をはじめ、自動車や鉄道車両などの輸送機、工場設備、大きな建築物に至るまで様々な分野で幅広く利用されています。また、その試験手法も超音波探傷試験や放射線透過試験、磁粉探傷試験、浸透探傷試験など様々あり、いずれも我が国の産業や社会基盤を支える上で、必要不可欠の技術となります。

とりわけ本県では県経済の要である京葉臨海コンビナートにおいて、製鉄、化学等のプラントの定期検査で非破壊検査が広く利用されており、事業所の安全操業、ひいては地域の活性化に重要な役割を果たしています。

貴研究会は非破壊検査技術の向上と情報交換を図る目的で、昭和56年5月に県内企業や大学及び公設試験研究機関の産・学・官の連携のもとに設立されました。非破壊検査は技術の高度化も重要ですが、認証の観点から、技術を扱える人材の育成も非常に大切であると考えております。貴研究会では最新技術をテーマとした研究発表会や実技を伴った講習会の実施など、様々な活動を通じ、多方面において県内経済の発展に寄与されていると思います。

千葉県では令和4年度から「千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～」を定め、新たな時代における更なる競争力強化や総合力の高い産業創出を目指してまいりますのでご理解ご協力の程よろしく申し上げます。

感染症による新たな生活様式への転換や、デジタル化の進展、カーボンニュートラルへの対応など、本県経済を取り巻く環境が、大きく変化する中であっても、ものづくりの基盤を支える非破壊検査の役割は、今後、益々重要になるものと思われまます。

貴研究会におかれましても、創立50周年、100周年を見据え、今後益々のご発展、また、会員各位の更なるご活躍をご祈念申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。



## 祝辞(創立40周年に寄せて)

一般社団法人日本非破壊検査協会  
会長 井原 郁夫

千葉県非破壊検査研究会が創立40周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。貴研究会は長きにわたり地域の非破壊検査技術の振興に努められ、同時にその活動を通じて我国の産業界の発展に大きく貢献してこられました。ひとくちに40年と申しますが、創立当時の1981年から今日までを振り返りますと、ちょうどバブル時代を経て、インターネットの急激な普及や情報技術の革新的な発展などがあり、世界情勢、社会情勢が激しく変化する世の中であったと思います。その中で、貴研究会が今日まで成長してこられたわけですが、そこには、いくつもの困難があり、人知れぬご苦労があったことと拝察いたします。改めまして、小井戸会長様をはじめ、歴代の会長、役員、会員の皆様方のこれまでのご尽力に深く敬意を表する次第です。

一方で、貴研究会は私共、日本非破壊検査協会とも密接な関係を築いてこられ、今日に至っております。貴研究会において、その黎明期から今日まで数々の要職を務められた方々の多くは、当協会が展開する各種事業においても重要な役割を担ってこられました。また、当協会の各支部、各研究会との交流も積極的に続けてこられ、非破壊検査技術の普及・啓発において千葉県の枠を超えた活動を展開されてきました。これらの事柄は当協会にとりましても非常に有益なことであり、大変有難いことと感謝いたしております。

非破壊検査技術は、我国の産業界の発展ならびに安全安心な社会の構築とその維持のために、無くてはならない重要な役割を担っています。その意味で、貴研究会と当協会とが互いにより良く連携することで、大きな社会貢献を果たせると確信いたしております。ご関係の皆様には引き続き御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

貴研究会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## ご 祝 辞

一般社団法人日本非破壊検査工業会  
理事長 長岡 康之

この度、千葉県非破壊検査研究会が創立40周年をお迎えになるにあたり、千葉県内における非破壊検査技術者の育成と技術のレベル向上や、鉄鋼及び石油精製・化学プラント等の重要産業の発展を支え、社会インフラの維持管理をもって、社会の安全・安心に貢献してこられたこと、心より敬意を表する次第です。

当工業会もおかげさまをもちまして昨年創立50周年を迎えました。非破壊検査技術で社会の安全・安心に貢献した50年であり、貴研究会と目指すところは同じく、これからも産業経済の発展に寄与していく所存です。

さて、我が国の社会資本ストックは、高度経済成長期に集中的に整備され今後急速に老朽化が進み、建設後に耐用年数50年を経過する社会資本の割合は数年後に40%を超えると試算されています。一方で、2012年12月の笹子トンネル天井板崩落事故から10年、1999年6月の山陽新幹線福岡トンネルコンクリート塊落下事故から約20年、そして今年は歴史の節目となった1923年9月の関東大震災から100年となるなか、豪雨災害が激甚化・頻発化するとともに、南海トラフ地震や首都直下型地震といった巨大地震の発生リスクも切迫しています。このような激甚災害や切迫リスク対策として、国土交通省は防災・減災を唱え予防保全への本格転換、インフラメンテナンスの生産性向上、インフラストックの適正化等による持続可能なインフラメンテナンスの実現を目指しています。

このような環境下、社会を取り巻く重要課題の克服に向けて、非破壊検査技術の果たす役割は非常に重要であり、以前にも増して活躍の場は広がりを見せております。これまで築き上げてきた歴史を土台にして、これからも未来の社会の安全・安心に貢献するため、貴研究会とともに非破壊検査技術の研鑽に努めていけることを願ってやみません。

最後となりますが、貴研究会の今後の益々のご発展と貴研究会会員企業各位の益々のご活躍を祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



## 千葉県非破壊検査研究会 40周年の祝辞

神奈川県非破壊試験技術交流会  
会長 笠井 尚哉

千葉県非破壊検査研究会の40周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

40年前の設立当初の“川向こうの会”の頃から講習会を始めとした地域での教育活動、研究活動を実施され、我が国の非破壊検査に関する地域活動と研究活動をリードする千葉県非破壊検査研究会の活動に改めて驚かされるとともに、40年間の継続的な活発な活動に心から敬意を表します。

小職は、ちょうど20年前に神奈川県非破壊試験技術交流会の初代会長の関根和喜研究室の助手に採用され、神奈川県非破壊試験技術交流会の活動に参画させていただくことになり、千葉県非破壊検査研究会が神奈川県非破壊試験技術交流会の発足の10年以上前から、大変活発な活動を行っていたこと、及び神奈川県非破壊試験技術交流会は千葉県非破壊検査研究会の当時の活動状況から多大な刺激を受け、有志によって発足したことを知りました。これらのことを知ってから、千葉県非破壊検査研究会は我々にとって良いお手本の、大変立派な先輩、お兄様のような存在だと勝手に感じております。

私共は、日本の産業をリードする京葉工業地帯、京浜工業地帯を有し、成田空港、羽田空港、首都高速道に代表される、我が国及び首都圏を支える産業・社会インフラの大集積地で活動を行っております。このような地域性を有する研究会の活動が、地域の安全・安心に貢献し、更には、我が国の非破壊検査業界の更なる発展に繋がるものと強く信じております。

神奈川県非破壊試験技術交流会も今後も頑張っていく所存です。先輩、お兄様であられま

す、千葉県非破壊検査研究会様には、今後ご指導、ご鞭撻を賜れば、誠に幸いに存じます。

今後の千葉県非破壊検査研究会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 千葉県非破壊検査研究会 40周年の祝辞

協同組合千葉県鉄骨工業会  
理事長 栗原 宏

千葉県非破壊検査研究会が40周年を迎えられましたこと、心から御祝い申し上げます。

貴研究会が千葉県機械金属試験場(現千葉県産業支援技術研究所)の非破壊検査室を母体として発足し、県内関連企業の非破壊検査に携わる技術者の研修、教育の指導機関として活動されてきたことに、あらためて敬意を表します。

貴研究会と千葉県鉄骨工業会との繋がりは長く、発足前からと聞いています。当時鉄骨製作工場(ファブ)で製作される溶接構造物の非破壊検査は、X線透過試験によるフィルム判定が主流でしたが、超音波探傷試験に移行される、いわゆる啓蒙期に貴研究会を頼りに会員も必死に研修を受けました。大学受験の参考書に「よくわかる・・・」「基礎からの・・・」という題名本がありましたが、まさに「非破壊検査とは何か・・・」から指導を受けた会員は、現在でもその意義を忘れず鉄骨製作現場で活躍しています。

鉄骨製作工場(ファブ)は、国交省が認定する「建築鉄骨溶接構造物の性能評価」グレード認定(J~M)の制度があり、鉄骨製作にあたって製作、溶接、検査の工程で資格の取得が求められます。その内、検査工程で「超音波検査技術者」資格はグレードによって必須の資格とされ、資格取得の研修会を春、秋共催で開催させていただき、ご指導をいただいています。私ども工業会での資格取得者は延べ数百人にのぼると聞いています。中には80歳代(女性)で今なお資格を生かし、現職で活躍している会員がいます。機会があってお話を伺ったところ、現千葉県産技研(天台)の非破壊検査室で白井越朗先生、立川克美先生にご指導を受けたことを懐かしく語っていました。

当工業会も、4年前に40周年を迎え、世代交代が進んでいます。若い世代の方には、貴研究会が非破壊検査技術者の資格取得の場としてのみ捉えるのではなく、千葉県非破壊検査研究会をとおして、検査に携わる技術者自らの資質向上、研鑽の場として役立てるよう指針を設けているところです。

結びに、貴研究会のさらなるご発展と活動を祈念いたしまして、祝辞といたします。



## 千葉県非破壊検査研究会 40周年を祝して (私と研究会と40年)

元 千葉県機械金属試験場  
元 財団法人日本溶接技術センター  
CNDI 顧問 白井 越朗

この度は、千葉県非破壊検査研究会(以下 CNDI)創立 40 周年お目出とう御座います。

このような創設趣旨の団体で、これほど長期間継続活動しているケースは極めて珍しいのではないのでしょうか。多くの場合、創立当初は活発に活動していますが、次第に収束して、いつの間にか名前だけの場合が多いようです。この『継続』は、会員各位の CNDI に対する暖かい御支援と、運営担当の方々の御努力のたまものと心から感謝の意を表する次第です。思い起こすとあっと言う間の 40 年でした。研究会もその間何回か幸運にも恵まれたと思います。

その一つは創立時の社会情勢にあります。当時は千葉県にかかわらず全国的に不良鉄骨が大きな社会問題となっていました。これにより溶接及びその検査の重要性が高まり、そのことが CNDI にとっても追い風となり、その技術指導・普及が重要でしかも急務となってきました。

特に千葉県機械金属試験場(現 千葉県産業支援技術研究所 以下 試験場)としては、溶接技術指導は試験場開設以来の重要業務ですが、それに伴う欠陥の検出法とその評価は従来よりも増して重要な指導項目となってきました。

CNDI としては、一般的な UT の技術指導よりもむしろ全構協等の資格取得が必要な県内関連中小企業に対して UT の NDI 資格取得の指導の方が緊急の問題でした。

第二の幸運は、県の「産学官」構想です。試験場業務全般を産学官構想の観点から見直すことになりました。非破壊検査室としては、この機会に既に発足している研究会”川向こうの会”の内容を説明し、試験場公認の研究会に認めていただこうと思い、会員名簿を添えて報告しました。

所謂、独断専行で立ち上げた“川向こうの会”ですから、強い叱責を覚悟していましたが、嚴重注意の上現状を認めていただきました。むしろ会員職種の範囲の広さを見て、この様な研究会こそ産学官協同と云うべきであろうとのお墨付きを戴きました。したがって「産学官」問題が無ければ、最悪の場合千葉県非破壊検査研究会という呼称は名乗れなかったと思います。これは、CNDI にとって思わぬ追い風でした。



その頃から私は内部の異動があったり、JICA(国際協力機構)の依頼でマレーシアの国立研究機関へ技術指導に出向したりと、段々場内の NDT 業務から離れていくようでした。そうこうしている中に定年となり、嘱託として引き続き試験場に勤務することになりました。木村先生(金属材料技術研究所)の後任として日本溶接構造専門学校で UT の講義を受け持ったのもこの頃のことでした。

現在はあまり大きな問題は無いようですが、不良鉄骨は、社会に与える影響も大きく、メディアにも大々的に取り上げられています。このような不祥事は勿論業界の一部です。しかし、「もし」を考えると恐ろしいものがあります。試験場としてもこの問題に関しては、巡回技術指導、講習会等を通じて関係企業に対して直接指導を実施していました。

このことは、現場の方々と直接接することにより、試験場に居ては気が付かない種々の勉強をさせていただき、その後の自分の大きな財産となっています。

その後、「構造物第三者検査機関協会」の事務局長としてお招きをいただき、それが私の NDT 関係として最後の就業となりました。

この様に CNDI の 40 年を振り返ると、私達(岸上、藤盛、白井)は創立時こそ頑張りましたが、その後は全部事務局長(立川氏)と、その業務をサポートしていただいた方々が 40 年間維持されていたようなもので、私などはろくにお手伝いもせず、ただ総会などで皆様にお会いするのが楽しみで参加させていただいているようなものです。しかし、逆説的な言い方をすれば、それだからこそ 40 年も続いたので、私達がやっていたら、とうの昔に有名無実の会になっていたと思います。

今後 CNDI をどうするか? 結論は簡単に出そうもありませんが、一度会員皆様のご意見をお聞きしたいと思っています。

今後に向けての出発は、今まで以上に会員各位の暖かいご支援が必須となります。よろしく皆様の御厚情を心からお願いして何かとりとめの無い 40 年の回想の結びといたします。



## 千葉県非破壊検査研究会 40周年を祝して

元 石川島播磨重工業(株)技術研究所  
元 (財)発電設備技術検査協会鶴見研究試験センター 所長  
CNDI 顧問 岸上 守孝

千葉県非破壊検査研究会がこの度、創立 40 周年を迎えられたことは誠に慶事です。

この 40 年間、多くの研究会行事が開催されましたが、毎回多数の会員にお集まりいただき、活況を呈しておりました。行事を企画した役員、またこれに応えた会員の情熱があったからこそこの快挙といえます。

想えば、昭和 55 年、白井氏、藤盛氏と共に NDIS 0601 による技量認定試験課題と有資格者の技量レベルの現状や非破壊検査協会内の RT や MT の他部会との NDT 技術の評価に対する議論を丁々発止するうちに、何時しか研究会の設立に話は進み、これがきっかけとなって翌昭和 56 年 5 月に CNDI(川向こうの会)が発足したものです。

当時は NDI の中でも溶接部の非破壊検査は RT、MT、PT が主流でした。JIS Z 3060-1975「鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び試験結果の等級分類方法」が制定されてから僅か 5 年程度経過したところでしたが、UT は他の NDT 技法に比べ、試験結果の記録性が乏しいことや探傷技術者の技量程度により探傷結果が異なることなどが信頼を勝ち取れない要因とされていました。

40 年経過した今日、UT に関わる産学官の多くの研究成果や探傷機器類の発展、規格や指針の整備が行われ、UT は NDT 界において確たる地位を占めるに至りました。

技量試験の認定制度においては、昭和 63 年(1988)に NDIS 0601 の国際整合化により資格の呼称が”級”から”種”への変更が実施され、平成 16 年(2004)には JIS Z 2305 に基づく認証制度へと発展しました。さらに、地方の研究会や NDI の支部が各地で設立され、それぞれの地域毎における技術者養成が活発となり、NDT 技術者の技術水準の底上げと有資格者数の増員に寄与したことは確実です。

私が関係してきた原子力圧力容器を中心とするオーステナイト系ステンレス鋼(SUS)溶接部の UT においては、材料の特性によって対象とするきずの検出やサイジングには”名人域”の技術及び技量が要求されています。

昭和 56 年(1981)に経済協力開発機構・原子力機関(OECD・NEA)の呼びかけで始まった PISC II の国際的な Round Robin Test の日本側の幹事としてこの事業に参画し、国際間における日本人技術者の技量水準を知る機会を得ました。SUS でクラッドされた圧力容器のきずの検出とサイジングには”探傷の名人”の域に達する技量と共に、各種先端的な UT 機器の操作とエコーの解析能力が要求されることを認識し、これが平成 18 年(2006)の NDIS 0603 による PD 技術者(Performance Demonstration)制度に繋がりました。

一方、国内では UT が最も適用されている建築鉄骨の分野でも、近年はデジタル UT 機器が主流となり、検査の効率化と記録性が向上されました。作業現場では、これまで必需品であった関数電卓がほぼ無用となりました。アナログ型探傷器の時代はエコーの立上り位置から瞬時に  $y$ ,  $d$  を概略で認識し、その波形から経験的に欠陥の性状を評価する”名人”の域に分類される方もおられました。しかし、近年のデジタル探傷器が普及した結果、探傷技術者の技量は怎么样了でしょうか。伝聞ではありますが、デジタル探傷器の取扱いについて、ゲートの設定が適正でなく、探傷器画面上に表示される  $y$ ,  $d$  のデータに頼りきりで、欠陥ではない対象外のエコーのデータが表示されているにもかかわらず、そのデータを欠陥として記録してしまうとか、又は欠陥を見逃すケースがあると聞いています。

デジタル探傷器全盛の時代、探傷の名人を目指すのであれば、探傷器に表示されるデジタル信号からの情報を自らの目でアナログ情報に変換してデータ蓄積を図ることが名人の域に近づく第 1 歩ではないでしょうか。

我が研究会 40 年の歴史において、研究会メンバーが総力を挙げて UT, MT, PT の講習会を実施し、千葉県内外に多くの JIS Z 2305 認証技術者を生み出してきました。全ての技術者に名人の域を求めるものではありませんが、CNDI の今後の課題として、有資格者に対する技術向上を目的とした支援対策を講じるべきではないかと思う次第です。

50 周年に向けて、CNDI がますます発展することを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 40周年に寄せて

元 清水建設(株)常務執行役員 技術戦略室 室長  
兼 技術研究所 所長

現 NPO 国際建設技術情報研究所 理事長

CNDI 顧問 藤盛 紀明

千葉県非破壊検査研究会(CNDI)が創立 40 周年を迎え、今日まで発展を続けてこられたのは立川克美氏のご努力の賜である。立川氏無くしては CNDI の今日は無かったと言える。白井越朗・岸上守孝・藤盛の 3 人が立ち上げたのは「川向こうの会」で(と記憶しているが)、立川氏が参加した 1984 年の総会で、会の名称を CNDI に変更した。したがって CNDI は立川氏と共にあったと断言出来る。CNDI はしばらくの間は正式名称よりも「川向こうの会」の方が通称として良く通っていた。会は 3 人で立ち上げたと言うことになっているが、実際は白井氏のリーダーシップによって設立されたものである。白井氏は CNDI の事務局長を 10 年程度つとめ、会は親分肌の白井氏のエネルギーによって進められてきた。私はその尻馬に乗ってきた感覚である。

私の溶接部の超音波斜角探傷試験の研究期間は昭和 44 年～昭和 49 年と非常に短い。昭和 50 年からは、溶接部の UT 技術の実用化・普及のために日本非破壊検査協会 202 小委員会委員長を務め、多くの WG を設置した。私の次の 202 小委員会委員長は岸上氏。守井隆史氏、立川氏も溶接 UT 技術の改善と普及に長年努力されてきた。日本の溶接 UT は CNDI の仲間達が確立したと自慢できる。私は UT 検査普及のために NDIS 2404・JIS Z 3060・建築学会規準を制定し、検査技術者の教育・資格認定を推進し、建築鉄骨工事関連規準への UT 導入・普及促進をしてきた。その間、全構連の UT 認定、秋田県非破壊検査研究会、山形超音波研究会の設立に尽力し、CNDI 設立にも関わってきた。鉄骨ファブの品質向上を目指したものであった。CNDI 50 周年では私は 92 歳。92 歳の白井さんは 40 周年で元気はつらつだった。人生 100 年時代、白井(102 歳)・岸上(97 歳)・藤盛で CNDI 50 周年を祝いたい！



## 千葉県非破壊検査研究会の 創立40周年に寄せて

千葉県産業支援技術研究所 所長  
CNDI 副会長 山田 満

千葉県非破壊検査研究会創立40周年、誠におめでとうございます。

本研究会は、40年もの長きにわたり非破壊検査技術の向上に努め、ものづくり産業界の信頼性の向上に大きく貢献してまいりました。

これもひとえに、小井戸会長様をはじめとする現役員の皆様はもちろんのこと、歴代の会長や役員の皆様、そして研究会を支えてくださる会員の皆様のたゆまぬ努力の賜物と、深く敬意を表するものであります。

私ども千葉県産業支援技術研究所は、研究会の事務局を仰せつかっておりますが、千葉県内のものづくり企業の皆様の発展のため、総会や講習会、研修会の会場提供や準備等、今後とも本研究会を積極的に支援してまいりたいと考えております。

さて、私が本研究会と関わるようになったのは、産業支援技術研究所の所長となった2019（平成31）年4月からですが、実は以前から他部署で非破壊検査データを活用しておりました。

1988（昭和63）年に千葉県庁に入庁してかれこれ35年が経過しましたが、その半分近くは、高圧ガス保安行政を担当する部署である商工労働部保安課と防災危機管理部産業保安課に勤務しておりました。

高圧ガスを取り扱うには、貯槽やボンベなどの圧力容器、圧縮機やポンプなどの加圧装置、凝縮器や蒸発器などの熱交換器、そしてこれらの設備をつなぐ高圧配管といった「高圧ガス設備」が不可欠で、高圧ガス保安法の規制を受けています。

高圧ガス設備の新增設や改造の完成後に行われる「完成検査」や、高圧ガス設備の機能が維持されているか確認するため、原則として毎年行われる「保安検査」では、様々な非破壊検査データが活用されております。

超音波厚さ測定、磁粉探傷試験、浸透探傷試験、超音波探傷試験、放射線透過試験などによ

り得られたデータとその他の様々なデータを併せて、高圧ガス保安法で定められた技術上の基準と照合して完成検査や保安検査の合否判定をする、といった業務に従事しておりました。

そんなわけで、この研究会では新参者ではありますが、非破壊検査データの活用に関しては、一定程度の経験は積んできたと思っております。

非破壊検査は、社会インフラなどの健全性確保のために欠かせない技術であり、人々の安全や保安の確保に直結する、極めて重要な技術であります。

私の経験談もその一端を示す事例ですが、近年のトピックスとしては、画像解析技術と組み合わせた構造物の健全性確認に活用されています。

可視光カメラや赤外線カメラを搭載した産業用ドローンを使って、足場を組まないと近づけないような箇所を撮影し、得られた画像を解析することで、安全かつ短時間に、しかも低コストで、健全性の確認や欠陥個所の把握ができるようになっていきます。

このように、非破壊検査は今後益々その重要性を増すものであり、本研究会の果たす役割もますます重要となります。

最後に、本研究会の益々の発展と、会員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、創立 40 周年に寄せるお祝いとさせていただきます。



## CNDI 40周年に寄せて

元 JFE スチール(株)東日本製鉄所  
CNDI 監事 守井 隆史

千葉県非破壊検査研究会 40 周年記念誠にありがとうございます。40 年もの間活動が継続できたのは、歴代の会長さんをはじめ事務局を務めていただいております千葉県産業技術支援研究所のスタッフの皆様のご尽力の賜物であると存じます。また、特にこの間長い間事務局長を務めていただきました立川様の精力的なご活躍のおかげです。皆様に深く感謝申し上げます。

私は昭和 48 年川崎製鉄(株)千葉製鉄所に配属され、その後 JFE スチール(株)、JFE 大径鋼管(株)を経て現在日本検査(株)君津営業所で第三者検査業務を行っております。

千葉県非破壊検査研究会の前身である川向うの会が発足致しました昭和 56 年といえますと千葉に赴任致しましてから 8 年ほど経過しておりまして、その頃はニクソンショック後ではありましたが工場も安定して稼働している状況でした。当時の上司から千葉県で川向うの会というのが発足するようだから参加してみてもということで初めて習志野の日大に足を運んだのを覚えております。当時私の上司で積極的に NDI を推進しておりました伊庭敬二さんという方がおられ、JSNDI の講習会の講師としても推薦してくれまして、大田区の産業会館で実施していました超音波の講習会などにも補助員として参加させていただきました。そのころ白井さん、岸上さん、藤盛さんはメインの講師として活躍されておりました。その後講習会も浅草橋の JSNDI の事務所に代わり、その後亀有の教育センター、瑞江のセンターなどに移行し、現在は亀戸の新しい事務局で実施しております。

当時の資格は超音波探傷 1 級、2 級という資格でしたが、その後 3 種、2 種、1 種となり、現在はレベル 3、レベル 2、レベル 1 のように変遷しています。資格認定規程を国際規格である ISO9712 と整合させるために教育と試験は峻別しなければならないとのことから、その後 JSNDI では試験を担当するようになりました。日本非破壊検査協会の試験担当理事であった当時、従来資格認定を行っていた NDIS 0601 規格から ISO 9712 に整合した JIS Z 2305 に移行する際には資格の有効期間が 3 年から 5 年に変更し、また試験の要領もレベル 1, 2 は

一般試験, 専門試験, 実技試験となり, かつ実技試験も超音波探傷などでは従来試験体が2体であったものが3体になるなどシステムの変更となったため, これらの変更内容の資料作成や各地での説明会の実施に随分と労力を払いました。当時日本非破壊検査協会の会長であられた星川先生や副会長の小倉さんにはいろいろとご指導をいただきました。

超音波探傷器も私が千葉に赴任した当時, 先輩の福田さんが厚板の探傷に共振式の探傷器を用いて探傷していたのを覚えています, その後東京計器のSM80やクラウトクレーマーのポータブルアナログ探傷器で探傷しました。現在ではデジタルの探傷器に置き換わっていて当時からすれば随分探傷しやすくなっています。一昔前 JSNDI の超音波部会(第2分科会)の202小委員会で溶接部の超音波探傷について技術的な研鑽を行っていましたが, 藤盛さんが委員長の時探傷時の温度が変わると屈折角が変わるのではないかというようなことで, 当時科学技術庁の金属材料研究所の木村先生の部屋にお邪魔して, 福原さんとお湯の中に手を突っ込んで屈折角がどのように変化するのか, いろいろと実験を行いました。これは探触子の中のアクリルの温度変化によって音速が変化することで, 屈折角が変化することが分かりました。また, 溶接部近傍の非金属介在物が非常に小さなきずであるにもかかわらず, 溶接部の斜角探傷で検出されこれが問題となりました。これも試験体に細いノッチきずを加工し, 検出程度を調査するなどしました。この検出の原因は端部エコー法と同様, 介在物の端部からの回折波を検出することが分かりました。また, この非金属介在物を発生させないよう製鉄所の製鋼方法に真空脱ガス法などの技術が発達しました。

非破壊検査は製品の品質保証, 構造物の安全確認のために必要な技術となっていますが, 今後も継続して技術を維持, 向上させて社会のインフラの安全, 安心のために実施してゆく必要があります。昭和の高度成長期に建設された高速道路, 新幹線, 地中の水道管, 排水管などはすでに50年, 60年が過ぎ寿命を迎えています。今後これらの検査も含め, ドローンやAIを用いた新しい検査方法を開発するなど, 今後の課題に向き合ってゆく必要があるように思います。千葉県非破壊検査研究会の今後及びこれからの非破壊検査について, 若い方々にぜひ力となっていただき盛り上げていただきたいと存じます。





## CNDI と磁気／浸透技術講習会

栄進化学株式会社 茨城工場 副工場長  
CNDI 監事 相村 英行

CNDI 創立 40 周年おめでとうございます。

コロナ禍で 1 年遅れとなったホテル ザ・マンハッタンでの記念式典では、久しぶりのリアル会合で小井戸会長始め会員の皆様とお会いでき、また「川向こうの 3 悪人」こと白井、岸上、藤盛の歴代元会長のお三方のお元気な姿が見られ大変うれしい思いをしました。

また立川元事務局長ご夫妻、細谷事務局長、産業技術支援研究所の皆様、ご準備ありがとうございました。

40 周年といえば、私も栄進化学に入社してもう 45 年になりました。入社して何年か経った頃に、当時の上司の上村や福田から(2 人は創立総会の集合写真に写っています)、「『川向こうの会』ができたので、栄進化学も参加しなくては」という会話があったのを記憶しています。その頃、工場は千葉県柏市にあり、また数少ない浸透探傷・磁粉探傷のメーカーとして、当初から研究会に参加していました。そのため、PT/MT に関する講習会では弊社の出番が多かったようです。私が研究会に参加して 35 年以上になるでしょうか。最初の参加は当時幹事であった弊社の福田に休日に引っ張り出され、取り壊された機械金属試験場旧庁舎の講堂の前室で行われた、浸透探傷試験の実技講習会の手伝いからでした。その頃の金属試験場溶接課は白井元会長もバリバリの現役で、立川元事務局長はまだ登場せず、私の MT の最初の師匠(?)の吉野最治さんがいらっしゃいました。その後、弊社千葉工場や日本溶接技術センターで開催しておりました、弊社の PT/MT 実技試験対策講習会を平成 5 年(1993)頃から研究会で後援していただくようになりました。JSNDI の実技試験内容が変わって事前練習がより必要になったこと、電力やプラントの稼働数も増えて受講者も増加したこと、JSNDI も含め首都圏では大規模な講習会の開催がなかったことなどから、当時、雇用促進事業団中央技能センター(現 ポリテクセンター千葉)の辻栄一さんの協力もあって、センターやその後に幕張新都心に開設された高度ポリテクセンターを会場に年 2 回、一回当たり 4 日間計 100~150 名という大人数の講習会を 10 年ほど続けました。その後、JSNDI や他所での実技講習会開催の増加

や受験者数のピークアウトによる受講者減に伴い、千葉工場での開催に戻りましたが、工場の茨城移転前まで研究会会員企業を中心に、延べ4000人以上の受講者に参加いただきました。その後、再認証試験が実技となって4回/年の開催となり、また受講者数が増えだしましたが、2007年に弊社千葉工場は茨城県常総市へ移転して茨城工場となったことや、会員各社での模擬試験片や試験装置の購入などの受験対策拡充によりやや減少し、更にコロナ禍により約2年間は中止とせざるを得ませんでした。ようやく令和5年(2023)春から全面再開しております。正にCNDI会員とともに歩んだ磁気・浸透技術講習会といえそうです。これからも会員の皆様の資格取得のお手伝いをさせていただきたいと思っております。

弊社は、工場は茨城県に移転しましたが、柏市には装置部門の開発技術センター及び東日本営業所があり、今後も工場と共にPT/MT講習会の開催やテクノ談話室への参加協力、PT/MT探傷技術・ブラックライト等の観察機材・PT用試験片に関する研究発表や製品情報などを通じて研究会に協力させていただきたいと思っております。PT、MTなどの探傷剤や探傷作業そのものは極めてアナログ的でデジタル化には遠い存在ですが、機器の自動化などを通じてSDGsの目標のいくつかには更に貢献できるものと思っております。学生生徒のみなさんへの非破壊検査の理解・普及活動に、また環境に配慮した探傷システムやブラックライトなどこれからも新技術研究開発のプラットフォームとして、会員相互の情報交換・協力の場としても活用させていただき、今後とも研究会の更なる発展に協力させていただきたいと思っております。

次回、50周年記念式典の開催を楽しみにしております。



## 40周年によせて

元 千葉県産業支援技術研究所  
立川 NDT テクノ 代表  
CNDI 講習会担当幹事 立川 克美

千葉県非破壊検査研究会(CNDI)が40周年を迎えたのを機に、私の機械金属試験場(現千葉県産業支援技術研究所)業務との関わりを振り返ってみたいと思います。

私は1969年(昭和44年)千葉県機械金属試験場に入所し、材料試験室に配属されました。ここは、金属の材料試験、非破壊試験、溶接技術の3部門で構成されておりました。私の担当は、溶接技術に関する研究・指導を主業務とする一方で、引張試験、硬さ試験、衝撃試験などの依頼試験も行っていました。また、白井越朗氏や吉野最治氏が担当する非破壊試験の手伝いも時折することがありました。大学時代は溶接工学の講座があり、技術的なことはある程度理解していましたが、実際にアーク溶接を行うのは試験場に入ってからでした。

入所3年目になって、習志野市にある日鐵溶接工業(株)を定年退職された大島秀雄氏が機金試に嘱託として赴任されました。大島氏のアーク溶接の技量は日本でも屈指の方で、私は大島氏の直接指導を受ける幸運に恵まれました。2~3年後には水平固定管の溶接をマスターし、溶接工への実技及び技術指導を行えるまでになりました。構造物の大型化に伴い、溶接方法もアーク溶接棒から炭酸ガス半自動溶接へと変遷しましたが、運棒の基本と溶融プールのコントロール法を教わっていたので、十分に対応できました。

しかし機金試の業務は、きずのない良好な溶接試験体を作るだけではありません。白井氏から研究用のRTやUTの各種きずを挿入した試験体作製を依頼されました。さらに吉野氏からはPT用の表面開口きずやMT用の表面及び表層部きずの試験体作製も依頼されました。

この溶接きず挿入を「何か詰め物を入れて溶接すれば出来る」など、簡単に考える方もおられますが、自然発生的なきずに酷似した形にするには相当な技量が必要なのです。溶込不良や融合不良、スラグ巻き込みやブローホールなどはX線撮影を繰り返しながら電流や運棒方法に磨きをかけました。アーク先端の溶融プールに注視し、母材との溶け具合を運棒で制御します。最も困難だったのは、ブローホールです。白井氏の要望はブローホールの大きさや個数までの要望もありましたが、ブローホールの成功率はあまり良くありませんでした。MTとPT

は溶接棒の選定と冷却水の制御で縦割れや横割れの発生をある程度までコントロール出来るようになりました。

当時、私は超音波探傷器の取扱いは全く出来ず、試作した試験体の探傷は白井氏にお願いしていましたが、白井氏は超多忙で UT を直ぐに実施してくれないのが常でした。そこで、自ら UT 装置の操作を勉強し始めたのが超音波探傷の道を歩むきっかけとなった次第です。

特に UT 用の試験体作製では反射面の形状が最も重要で、少しでも気を抜くときずからのエコーが複数本立ったりします。狙い通りのエコー高さの領域になるようルート部の加工、炭酸ガス半自動溶接機の電流・電圧のコントロール、溶融プールの制御等、試行錯誤を重ねながらマスターすることが出来ました。試験体を作製しては直ぐに UT 探傷する作業を繰り返し、きず挿入部の開先部のイメージを積み重ねて行く手法を用いました。

ここで培った各種溶接きずとエコーの関係、周波数による検出性の違いや屈折角との関係などの知識は、後の JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法」の規格改正で大いに役立つとともに、このきず挿入技術は UT 資格試験用の試験体製作に貢献することができました。それは全構協(JSFA)の鉄骨 UT 超音波試験体です。製作は当初、大手の鉄骨 Fabが担当しましたが、使用鋼材が音響異方性鋼板であったため、再作製を余儀なくされました。

その再作製の試作を白井氏から依頼を受け、私が UT 用試験片を試作したところ、倉持貢氏(清水建設(株))から試験に使用可と評価していただきました。その結果、JSFA のエレスラ試験体を除く各種継手試験体のきず入り試験体の製作に全力を注ぐこととなり、併せて超音波のデータ取得を盛んに実施しました。このデータ取得作業には倉持氏を始め検査のプロの方も参加されていたので、鉄骨溶接部の探傷技術を学ぶ良い機会を得ました。さらに、この UT 用のきず挿入技術は JSNDI(日本非破壊検査協会)の技量試験用 TP 製作にも繋がりました。

私がきず挿入技術に精を出していた頃、非破壊検査室では「川向こうの会」設立のために白井氏、吉野氏が忙しく、県内企業の NDT 担当者に電話で設立の趣旨や入会の勧誘をしていたのを記憶しています。

私が CNDI に入会したのは第 3 回の総会からでした。入会の経緯については 30 周年記念誌で述べているのでここでは省略します。白井氏から受け継いだ研究会事務局作業も少しばかり慣れたところで白井氏は千葉県を退職され、私が非破壊検査業務と CNDI 事務局長を担当することになってしまいました。

いろいろな経緯があって CNDI 事務局長に就任しましたが、この会の灯を消してはならないとの強烈なプレッシャーに襲われました。当時の行事は総会、研究発表会及び双方の開催時に

併催される特別講演会と UT 講習会の開催でした。これらの諸行事をとにかく欠かさずに実行することでこの圧力を打破するしかありませんでした。

研究所の NDT 依頼試験業務については UT, RT はおおよそ対応可能でありましたが, PT や MT については CNDI 会員の相村氏(栄進化学(株))にお願いし, 柏工場で実習講習を受けるなどして随分お世話になりました。そのほか研究用予算の厳しいときは, 鋼材に関しては守井隆史氏(川崎製鉄 現 JFE), 超音波探触子では林栄男氏((株)検査技術研究所(KGK))や幸崎進氏(ジャパンプローブ(株)), 研究会の PC 部門では田中光一氏(信明ゼネラル(株))にお世話になりました。特に田中氏の援助は CNDI の会員に対する事務連絡作業の OA 化に強力な援軍となり, その御陰で事務作業がなんとか一人でこなせることとなり, 今日に至るまで種々のご支援を戴いております。

また, 研究所では手に負えない多量の依頼試験や出張検査については, (株)CXR, (株)ダンテック, 新日本非破壊検査(株)関東支社, (株)レイソニックの各社に対応頂きました。

また, 県内企業から非破壊検査機器の導入について相談を受けたときは, 対応可能な会員企業を複数紹介し, 対応していただきました。

さらに特筆すべきは, 宇宙航空研究開発機構(JAXA)の松嶋正道氏でした。氏は産報出版の検査ニュースに掲載された研究会の発表会議題募集を見て応募されたのがきっかけで, 本会に入会し, 以来毎回のように研究発表を戴くと共に幹事として御活躍なさいました。また, 産技研の複合材材料部門の立ち上げにもご尽力いただきました。このとき, 千葉県複合材料研究会も併せて創設しましたが, 10 年を経ずして複合材研究会が消滅したことは極めて残念なことだと思います。

神奈川県非破壊試験技術交流会との関係も強固です。CNDIには神奈川県に所在のある企業方も大勢加入されておりましたが, その方達が平成 8 年に神奈川県非破壊試験技術交流会を立ち上げました。初代の事務局長はジャスト研究所の名取孝夫氏でした。名取氏とは JSNDI の 202 委員会で知り合い, T 継手のたれ込み判別の UT 指針, JIS Z 3060 や TOFD 探傷の NDIS でご一緒させていただいたほか, 両者ともに神奈川県と千葉県の研究会事務局長として強固な結束の下, 合同研究発表会や講習会などを開催しました。30 年以上の盟友と言わべき間柄ですが, 現在は両者ともに事務局長を退いております。両研究会が今後とも益々交流を深めて協力し合うことを願う限りです。

研究会の諸行事の開催は, 作業内容がルーティン化していくと事務作業はさほど負担とは感じなくなりましたが, 問題は特別講演のテーマと人選でした。そこで, 設立の立役者である白井

氏, 岸上氏, 藤盛氏の他, 守井氏(JFE)や高田一氏(JFE テクノリサーチ(株))を加えたメンバーで定期的に会合を開き, CNDI の活動方針や招聘する特別講演の講師人選やテーマなどを協議していただきました。この会はその後, 顧問会と称して今に続いております。

講習会的な行事として, NDT 有資格者を対象とした「テクノ談話室」の開催がありました。これは, 課題を掲げて専門家を招き, 先端の検査機器を用いてコーヒーを飲みながら少人数で気楽に意見交換できる場として設定しました。このテクノ談話室開催に当たっては(株)日鉄テクノリサーチ, 新日本非破壊検査(株), (株)ダンテック千葉支社, (株)CXRの皆様には会場の提供を戴き大変お世話になったことに感謝する次第です。

40年の歴史の中で開催した催しを集計すると, 驚くような数値となりました。一部にマンネリ化した部分もありましたが, それぞれの行事に毎回参加された会員皆様の熱意がこの輝かしい実績を積み上げた源泉であると感謝しております。そこには設立の3人衆の功績が大で, 参加申し込みの際, 「白井さん, 岸上さん, 藤盛さんは出席されますか?」と訊ねる方が毎回多数居られました。この会の設立者である白井, 岸上, 藤盛の各氏は真に研究会の偉大なシンボルでもありました。

私は30歳代後半からCNDIと関係を持ちました。それからのCNDIは私の人生そのものでした。CNDIのお陰でNDT業界の産学官の方とお知り合いとなり, 交流の幅を広げることが出来ました。千葉県を退職後も藤盛氏のお世話で清水建設(株)技術研究所に籍を置かせて戴き, その2年後からは(株)検査技術研究所にてお世話になる一方で, 「立川NDTテクノ」も設立しました。かねてより体験したかった”現場探傷業務”も実行することができました。

私はCNDIの運営に全力を注いだ結果, 多くの方との人的交流, NDT知識の習得, 規準・規格制定への参加など多くの重なる体験をすることが出来ました。これこそ, 会員皆様のご支援の賜で深く感謝申し上げます。

次の節目である50周年はCNDIとNDT業界が如何なる展開となるか, 楽しみにしているところです。



## 創立 40 周年に寄せて

株式会社ダンテック 関東支社 副支社長  
CNDI 会計担当幹事 高橋 厚志

千葉県非破壊検査研究会には平成 12 年に初めて参加し、翌 13 年から研究発表会、総会、懇親会に顔を出すようになりました。白井会長の時代です。この頃は、製鉄、プラント、建築など多方面の方々の研究発表があり、見学会もあって活発に活動されている会であるとの印象がありました。懇親会では、普段はライバルである検査会社の方々や特別講演をされた大学教授、建設会社や製鉄の方々と酒を飲みながら非破壊検査の話をして楽しみました。その後、法人会員となって催しにはほぼ毎回参加するようになりましたが、会社としても平成 17 年の TOFD 共同研究に参加させて頂き、この共同研究が後に NDIS や JIZ Z 3060 附属書 I (TOFD 法によるきずの指示高さの測定方法) に僅かでも役に立ったと思うと有意義でありました。その後、球形ホルダーの供用中検査に自走式 TOFD 装置を適用し、CBM 評価とともに数少ない当社の売れる技術として発展しています。平成 23 年は創立 30 周年記念式典が開催され、当時の事務局長立川さんが、特別記念講演を JAXA の川口淳一郎さんに依頼したことが強く印象に残っています。勿論、講演内容もよく覚えています。

研究会の仲間で、幹事であった市原高等技術専門校の椎田さんを思い出します。椎田さんの教え子が株ダンテックに入社し、その後 NDI 資格を取得して一人前となり、仕事が縁で結婚して家庭を持ったことは嬉しく、どうしても研究会の縁と結び付けてしまいます。JAXA の松嶋さんは多くの研究発表をされましたが、一度、個人で職場を見学させて頂いたことがあります。見学後、調布の街で懇親を深めたこともひとつの思い出です。

40 周年準備委員会の打合せで、川向こうの会創立当時の記念写真を見ました。私にとって見覚えのある背景が写っています。これは、日本大学生産工学部の学食のエントランスではないかと。現会長は電気工学科の小井戸先生ですし、30 年以上経って機械工学科の大久保先生と再会するのも研究会の縁なのでしょう。これからも千葉県非破壊検査研究会の偉大な先輩方の実績や知識、人脈等を頼りつつ、この業界で社会貢献できたら幸いです。

最後に、非破壊検査が適切な仕様のもとに正しく使われることを願ってやみません。



## 40周年によせて

JFE 大径鋼管株式会社  
CNDI 活性化担当幹事 高橋 英司

千葉県非破壊検査研究会設立 40 周年, 誠におめでとうございます。

私と研究会との関わりは短く, 前任者の跡を引き継いだ 2022 年 7 月からとなります。

多くの諸先輩方がいる中で, 40 周年記念号に寄稿出来る事は, 名誉と同時に恐れ多い事と思いますが, 私自身の今の, 非破壊検査に対する思いを書いてみる事に致します。

私と非破壊検査との出会いは, 10 年程前になります。当時目にした求人募集欄の内容に「物を壊さず中身を見る」と記載されていて, 「そんなことを, 病院以外で行っているのか?」と思い, 興味を惹かれたのが始まりで, そのまま非破壊検査会社への就職を決めました。横浜にある会社に就職しましたので, 「神奈川県非破壊試験技術交流会」の法人会員だったかもしれません。

忙しい日々を過ごしながらも, 普段では見る事が出来ない風景を見る事が楽しく, 非破壊検査に引き込まれていきました。そのうちに UT, RT, PT, MT と資格を取得し, はじめは先輩に付いて仕事のやり方を教わり, しばらくしてからは, 一人だけで色々な現場を飛び回りました。

現場の作業者の方々と協力して作業を行い, 一つの現場を完成させる事に強い達成感を感じておりました。また, 特殊な作業を行う現場が多かった為, 別の現場で仲良くなった職人さん達に再会する機会が多く, 自分が成長して作業するスピードが上がっていると, お褒めの言葉を頂けたりして, 楽しく仕事をしていました。

忙しくも楽しい日々を過ごしていましたが, 現場作業だけでは見る事が出来ない風景がある職場を知り, その風景を見たいと思い, 現在の会社 JFE 大径鋼管株式会社へ転職を決めました。

世間一般では知名度が低く, 存在感が薄い非破壊検査ですが, 今日のものづくりの現場においては欠かすことが出来ない, 重要な仕事であると実感しております。もっともっと若い世代を中心に「非破壊検査」というものがある事, 生業とする為の選択肢がある事を知ってもらい, 私が感じたような「非破壊検査の楽しみ」に興味を持って頂き, 非破壊検査に携わる人が増えていくことを願っております。私は今でも, 非破壊検査に携わっている事を, 非常に嬉しく感じております。

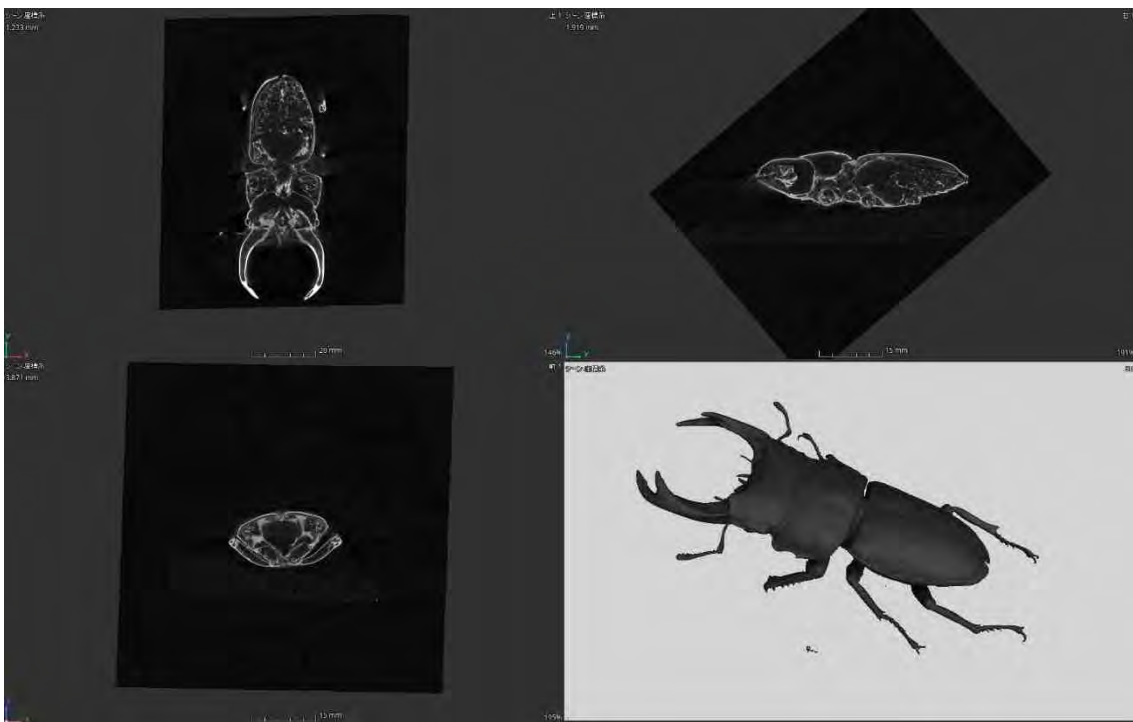
皆様にとっての「非破壊検査との出会い」は, どのようなものだったのでしょうか?

これからも, 諸先輩方が導き, 発展させて来た「千葉県非破壊検査研究会」の今後に, 微力ながらお力になれればと思っております。

最後に, 千葉県非破壊検査研究会の今後の発展と, 皆様方の益々のご活躍を祈念致します。



# 第三章



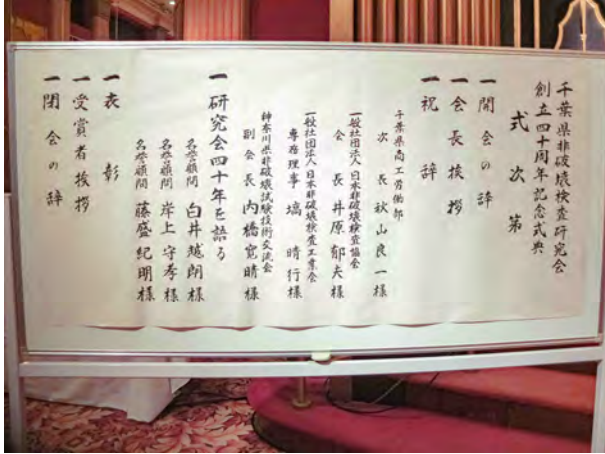
X線CT装置によるオオクワガタの2D及び3Dレンダリング像

(撮影:千葉県産業支援技術研究所)

# 40周年記念式典・祝賀会

期日:令和4年11月10日(木)  
場所:ホテル ザ・マンハッタン

## 1. 記念式典



立川夫人による手書きの式次第



会長挨拶を行う小井戸会長



千葉県商工労働部  
次長 秋山 良一 氏



(一社)日本非破壊検査協会  
会長 井原 郁夫 氏



(一社)日本非破壊検査工業会  
専務理事 塙 晴行 氏



神奈川県非破壊試験技術交流会  
副会長 内橋 寛晴 氏

研究会 40年を語る



立川氏の進行により 40年の思い出を語る



顧問 白井 越朗 第四代会長



顧問 岸上 守孝 第五代会長



顧問 藤盛 紀明 第六代会長

永年会員表彰



ご臨席いただいた永年会員の皆様

昭和 56 年の設立当初より継続して会員であられた個人会員(7名)及び法人会員(7社)に、記念品の授与が行われた。

左から

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| JFEテクノリサーチ(株)高田氏      | 産報出版(株) 宮澤氏       |
| 元JFEスチール(株) 守井監事      | 元清水建設(株) 藤盛顧問     |
| 元千葉県機械金属試験場 白井顧問      | 元石川島播磨重工業(株) 岸上顧問 |
| 日本大学生産工学部 小井戸会長       | 栄進化学(株) 相村監事      |
| (株)三井E&Sテクニカルサービス 南葉氏 | 新日本非破壊検査(株) 野村氏   |

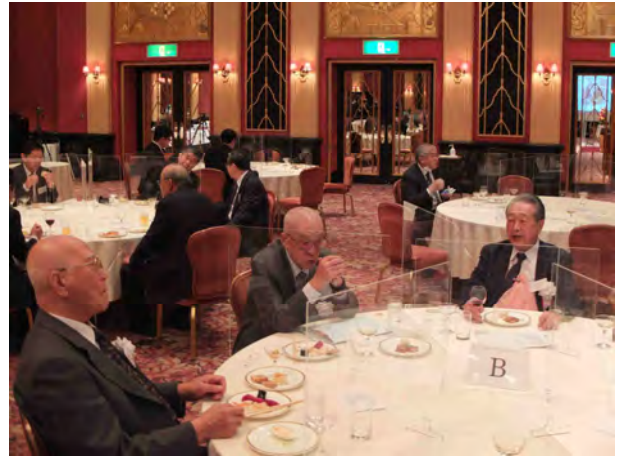
千葉県非破壊検査研究会  
創立40周年 記念式典



2. 祝賀会



乾杯の挨拶を行う山田副会長



祝賀会



祝賀会



祝賀会

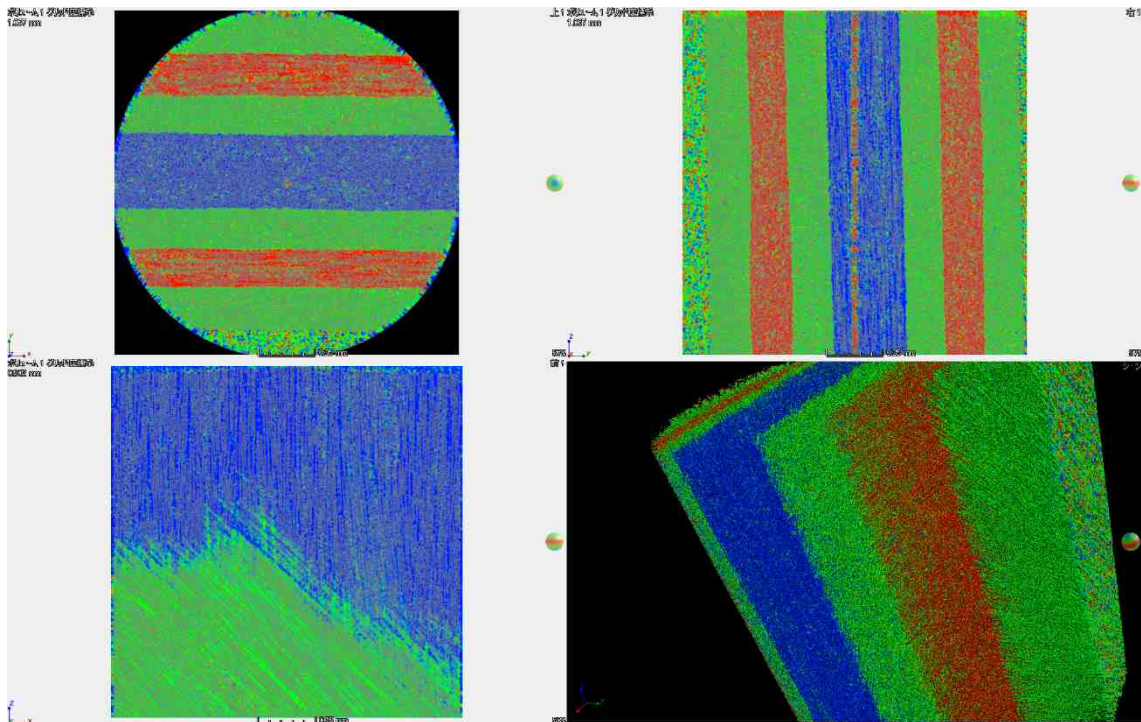


藤盛顧問による古式に則った三本締め



立川元事務局長と“元事務局員”  
(一時期は自宅を事務局としていたこともあった)

# 第四章



X線CT装置による CFRP の繊維配向解析

(撮影:千葉県産業支援技術研究所)

# 歴代会長



初代会長

石橋 泰雄

[1981(S.56)-1984(S.59)]



第2代会長

丹羽 登

[1985(S.60)-1997(H.9)]



第3代会長

星川 洋

[1998(H.10)-2000(H.12)]



第4代会長

白井 越朗

[2001(H.13)-2005(H.17)]



第5代会長

岸上 守孝

[2006(H.18)-2008(H.20)]



第6代会長

藤盛 紀明

[2009(H.21)-2015(H.27)]



第7代会長

小井戸 純司

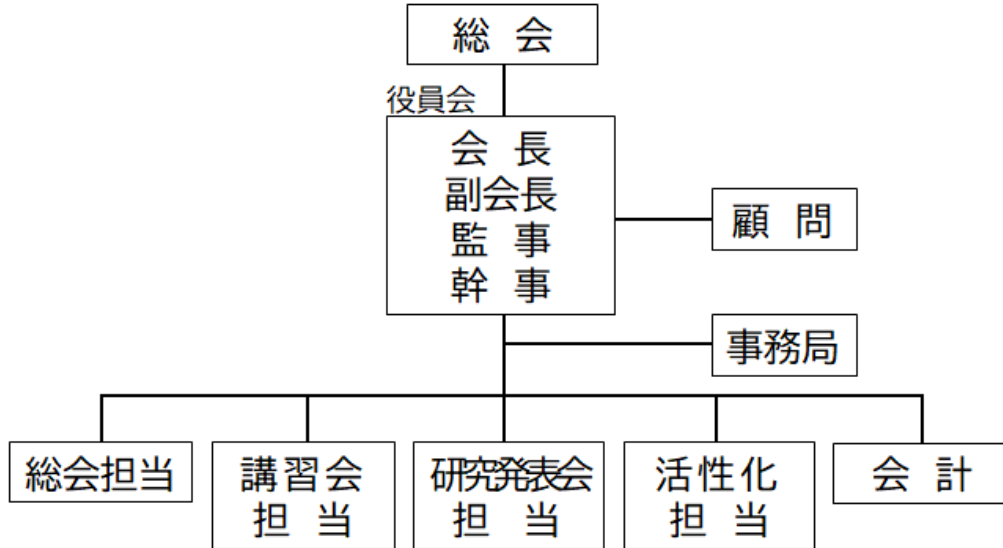
[2016(H.28)-]

## 千葉県非破壊検査研究会の組織

## 創 立

1981年(S.56)5月23日

## 組 織



## 役 員 (令和4年11月現在)

会 長	小井戸 純司	日本大学名誉教授	
副会長	山田 満	千葉県産業支援技術研究所	
顧 問	白井 越朗	元 千葉県機械金属試験場	
顧 問	岸上 守孝	元 石川島播磨重工業(株)	
顧 問	藤盛 紀明	NPO 国際建設技術情報研究所	
幹 事	相村 英行	栄進化学(株)	監事・講習会担当
幹 事	守井 隆史	日本検査(株)	監事・講習会担当
幹 事	高橋 厚志	(株)ダンテック	会計
幹 事	立川 克美	立川NDTテクノ	会計・講習会担当
幹 事	熊谷 安紘	新日本非破壊検査(株)	総会担当
幹 事	小松 伸行	日鉄テクノロジー(株)	研究発表会担当
幹 事	小山 潔	日本大学生産工学部	研究発表会担当
幹 事	安齊 勝昭	東亜非破壊検査(株)	活性化担当
幹 事	高橋 英司	JFE大径鋼管(株)	活性化担当
幹 事	小林 正和	協同組合千葉県鐵骨工業会	



## 千葉県非破壊検査研究会会則

制定	昭和56年	5月23日
改正	昭和59年	4月 1日
改正	昭和61年	4月16日
改正	平成 3年	6月25日
改正	平成10年	7月17日
改正	平成12年	7月11日
改正	平成15年	7月 4日
改正	平成28年	7月12日
改正	平成28年	7月21日
改正	令和 元年	7月29日

<b>(名称)</b>	
第 1条	この会は、千葉県非破壊検査研究会という。
<b>(目的及び事業)</b>	
第 2条	この会は、会員相互の非破壊検査技術の向上と、情報交換、および親睦交流を図ることを目的とする。
第 3条	この会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。 (1) 研究発表会 (2) その他前条の目的を達成するために必要な事業
<b>(所在地)</b>	
第 4条	この会は、所在地を千葉県産業支援技術研究所（千葉県千葉市稲毛区天台6丁目13番1号）に置く。
<b>(事務局)</b>	
第 5条	この会は、会員相互の情報交換の推進を支援するため、事務局を千葉県産業支援技術研究所に置く。また、会計事務を統括する会計事務局を、株式会社ダンテックに置く。
<b>(会員)</b>	
第 6条	この会は、次の会員をもって構成する。 (1) 法人会員 この会の目的に賛同し、千葉県内に事業所を有する団体又は、千葉県内に現住所を有する個人が所属する団体、及び役員会の承認を得た団体。 (2) 個人会員 この会の目的に賛同し、千葉県内の事業所に勤務する者、又は千葉県内に現住所を有する者、及び役員会の承認を得た者。 (3) 名誉会員 この会に特に功労のあったものの中から役員会の議を経て総会の承認を得た者。 (4) 特別会員 この会の運営に対して積極的指導を受けるために、役員会の議を経て総会の承認を得た者。
第 7条	会員は、退会届を提出することにより、任意に随時退会できる。
第 8条	会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。 (1) 会費の納入が継続して3年以上なされなかったとき。 (2) 死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は法人である会員が解散したとき。

(役員及び職務)

- 第 9条 この会に、次の役員を置く。
- (1) 会長1名
  - (2) 副会長1名
  - (3) 事務幹事若干名(担当幹事を含む)
  - (4) 会計幹事1名及び会計補佐幹事1名
  - (5) 監事2名
2. 前項に定める役員は、総会において、会員の互選により会員のなかから選任する。
- 第10条 この会の事務局は、次の職員を置くことができる。
- (1) 事務局長1名
  - (2) 書記 若干名
2. 事務局長は事務局を統括する。
- 第11条 会則第9条に規定する役員は役員会を構成し、この会則で定めるところにより、職務を執行する。
2. 会長はこの会を代表し、この会の運営を総括する。
  3. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または欠けたときは、その職務を代行する。
  4. 事務幹事は会長を補佐し、会務を処理する。担当幹事は、役員会において定めたるところの業務を分担執行する。
  5. 会計幹事はこの会の会計を処理する。会計補佐幹事は会計幹事を補助し、会計幹事に事故あるときは、その職務を代行する。
  6. 監事はこの会の業務および会計を監査し、監査報告を作成する。
  7. 役員会は、総会に次ぐ決議機関であって、緊急を要する諸事項を協議し、実施することが出来る。ただし、これを次回の総会において報告し、承認を得るものとする。
- 第12条 役員は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する総会の終結時までとし、再任を妨げない。
2. 補欠として選任された役員は、前任者の任期の満了までとする。
  3. 役員は、第9条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了、又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、役員としての権利・義務を有する。

(会費)

- 第13条 会員は、次の区分により、毎年2月末日までに、次年度の会費を指定口座に納めるものとする。
- ただし既納の会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。会長、副会長、名誉会員、特別会員及び事務局職員は会費の納入を免除する。
- (1) 法人会員 1口 5,000円とし 1口以上
  - (2) 個人会員 1口 2,000円とし 1口以上

(総会)

- 第14条 総会は、すべての会員をもって構成する。
- 第15条 総会は、この会の運営に必要な事項について決議する。
- 第16条 総会は、通常総会として毎事業年度の終了後に1回開催するほか、必要がある場合に臨時総会を開催する。
- 第17条 総会は会長が招集する。
2. 総会員の3分の1以上が必要と認められた時は、会長に対し臨時総会の招集を請求することが出来る。

3. 会長は、前項の規定による請求があったときは、臨時総会を開催しなければならない。

第18条 総会の議長は、会長がこれに当たる。

第19条 総会における議決権は、次のとおりとする。

- (1) 法人会員 1個
- (2) 個人会員 1個
- (3) 名誉会員 1個
- (4) 特別会員 1個

第20条 総会は、総会員の議決権の過半数を有する会員が出席しなければ成立することができない。

2. 総会の決議は、出席した会員の議決権の過半数をもって行う。
3. 前項の規定にかかわらず、次の決議は、出席した会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
  - (1) 役員解任
  - (2) 会則の変更
  - (3) 解散

第21条 会員は、議決権行使書面に記載すべき事項を電磁的方法により本会に提供し、議決権の委任ができる。

**(事業計画及び会計)**

第22条 この会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第23条 この会の会計は次の会費及び寄付金によって運営する。

- (1) 会費 (法人会員費、個人会員費)
- (2) 寄付金

第24条 この会の事業計画及び収支予算は、事務局及び会計幹事が作成し、役員会の承認を得た上で、通常総会の承認を得なければならない。

第25条 この会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、事務局及び会計幹事が作成し、監事の監査を受け、役員会の承認を受けなければならない。

2. 前項の承認を得た書類を通常総会に提出し、承認を得なければならない。

**(役員及び事務局の損害賠償責任、免除)**

第26条 役員及び事務局は、善良なる管理者の注意をもって、その職務を行わなければならないが、その任務を怠ってこの会に損害を与えた場合には、この会に対し、その損害を賠償する責任を負う。

2. 役員及び事務局の賠償責任については、役員及び事務局が職務を行うにつき、善意で重大な過失がなく、その原因や職務執行状況等の事情を勘案して特に必要と認められる場合には、役員会の決議により免除することができる。

**(要領)**

第27条 この会は、会則に基づく本会の運営等に関して、必要に応じて要領を定めることができる。

2. 前項による要領の制定、改正及び廃止については、役員会でこれを決定する。

**(附則)**

第28条 この会則は令和元年7月29日より施行する。

# 千葉県非破壊検査研究会要領

施行 平成28年7月12日

第1条	この要領は、千葉県非破壊検査研究会会則(以下「会則」という。)第27条の規定により、この会の運営等に関する事項を定めることを目的とする。
<b>(副会長及び事務局長)</b>	
第2条	会則第9条第1項(2)に規定する副会長は、千葉県産業支援技術研究所(以下「産技研」という。)の所長が務めるものとする。
第3条	会則第10条第1項(1)に規定する事務局長は、産技研の材料技術室長が務めるものとする。
<b>(担当幹事及び運営会議)</b>	
第4条	この会は、行事を運営するため次の担当幹事を置く。 (1) 総会担当 2名程度 (2) 研究発表会担当 2名程度 (3) 講習会担当 2名程度 (4) 活性化担当 2名程度 2. 前項に定める担当幹事は、役員会において役員の互選により幹事のなかから選任する。なお、担当幹事の役職は兼務することができる。 3. 担当幹事及び会計幹事は、当該事業の企画立案及びその実行に全責任を負う。また担当幹事は事務局と綿密な協議を行わなければならない。 4. 担当幹事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する総会の終結時までとし、再任を妨げない。 5. 補欠として選任された担当幹事の任期は、前任者の任期の満了までとする。 6. 担当幹事は、第4条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了、又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、役員としての権利・義務を有する。
第5条	運営会議は、第4条1項に規定された担当幹事、会計幹事、監査幹事及び事務局をもって構成される。 2. 前項に定める運営会議は、4半期毎に開催し、年間事業計画、予算案、事業進捗、年度末報告の他、この会の運営について協議する。
<b>(会計)</b>	
第6条	会計幹事は、各事業の実施に必要な資金をあらかじめ担当幹事に前払いするか、あるいは後日精算するものとする。(ただし商社経由のものは会計担当の幹事からの振込とする。)
<b>(事務局の業務)</b>	
第7条	事務局の業務は、次のとおりとする。 (1) この会の会員名簿及びメールアドレスの管理に関すること。 (2) この会のホームページの管理に関すること。 (3) 第5条に定めた運営会議及び第4条2項に定めた担当幹事との協議に関すること。 (4) 総会議案書の作成に関すること。 (5) 役員会及び運営会議の招集に関すること。 (6) 総会の議事運営に関すること。 (7) 各事業担当幹事への支援に関すること。
<b>(附則)</b>	
第8条	この要領は平成28年7月12日より施行する。

# 会員名簿

令和5年6月1日現在（五十音順）

## 1. 大学等

NPO 国際建設技術情報研究所  
 日本大学 生産工学部 機械工学科  
 日本大学 生産工学部 建築工学科  
 日本大学 生産工学部 電気電子工学科

## 2. 特別会員

N・D・E フォーラム社  
 (株)鋼構造出版  
 産報出版(株)

## 3. 個人会員の所属企業

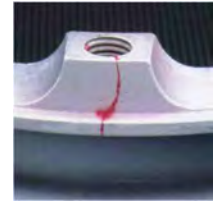
(有)アクトエーションハート 検査技術研究所(株) (株)三友 (株)ジャスト 信明ゼネラル(株) 立川INDTテクノ (株)ダンテック (株)東京テクノロジー	(有)東総検査事務所 那須電機鉄工(株) 日鉄ボルテン(株) 日本検査(株) 日本試験検査(株) 日本非破壊検査(株) パルステック工業(株) FUT研究所
---	---

## 4. 法人会員

(株)アイ・エム・シー (有)アクトエーションハート (株)イズミテック 栄進化学(株) エース・エンジニアリング(株) (株)エビデント (株)ケイエムプラン (株)検査技術研究所 JFE大径鋼管(株) JFEテクノリサーチ(株) ジャパンプローブ(株) ダイヤ電子応用(株) 太陽日酸ガス&ウエルディング(株) (協)千葉県鐵骨工業会	電子磁気工業(株) 東亜非破壊検査(株) 東京イメージ検査工業(株) (株)東京エネシス 日鉄テクノロジー(株) 日本ITeS(株) 日本工業検査(株) 日本溶接構造専門学校 東日本工業検査(株) ポニー工業(株) (株)三井E&Sテクニカルリサーチ ヨシザワLA(株) 菱電湘南エレクトロニクス(株) (株)レイソニック
--	--

栄進化学株式会社

会員名又は連絡担当者	参事 相村英行
住所	〒277-0871 千葉県柏市若柴 6-283
電話番号	04-7131-0911
FAX	04-7131-5799
E-mail	aimura@eishinkagaku.co.jp
URL	https://www.eishinkagaku.co.jp

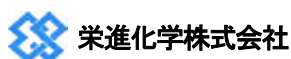


おかげさまを持ちまして、栄進化学は2022年に創立から65年を迎えました。

これからも、「素材を、製品を、そして環境を守る。」をモットーに、最新の規格に適合し、使う人の安全や環境に配慮した高性能で信頼性の高い探傷剤、探傷機器・装置をお届けして、社会の安全・安心に貢献して参ります。

営業品目

- 染色浸透探傷剤「レッドマーク」
- 蛍光浸透探傷剤「ネオグロー」
- 磁粉探傷剤「マグナトロン」
- 浸透探傷・磁気探傷装置
- ブラックライト、各種試験片
- 超音波探傷器・探傷システム
- その他、非破壊検査機材



www.eishinkagaku.co.jp

## 株式会社エビデント

連絡担当者	産業機器営業 検査機器営業 東日本 NDT 営業 野田康史
住所	東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モリス
電話番号	03-6901-9390
FAX	03-6901-4914
E-mail	yasushi.noda@evidentscientific.com

オリンパスは科学事業を分社することといたしました。新会社である株式会社エビデントは、100年以上の歴史を持つオリンパスの科学事業を継承し、これまで以上に産業における幅広い分野での社会貢献を実現していきます。



これまでも私たちは石油化学プラントや発電所、航空機などのインフラストラクチャーのメンテナンスや最先端の自動車や電子機器の製造開発など幅広い分野で、顕微鏡や工業内視鏡、NDTや蛍光X線など社会にとって必要不可欠な製品やサービスを提供をまいりました。

今後はこれらの商品群にとどまらず、ロボティックやAI、IoT を活用した新しいソリューションへの投資を積極的に行い、これまで以上に幅広く社会にとって不可欠な存在となってまいります。



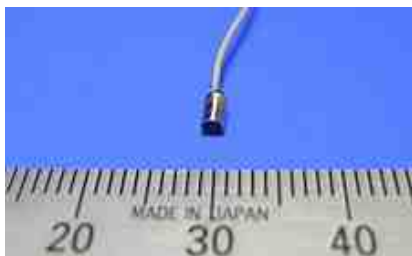
株式会社検査技術研究所

会員名又は連絡担当者	営業部 部長 関口嘉之
住所	神奈川県川崎市川崎区川中島 2-16-18
電話番号	044-277-0121
FAX	044-277-0120
E-mail	yoshiki@probe-kgk.com
URL	http://www.probe-kgk.com

『 超音波センサーの専門メーカー 』

高い安全性が要求される航空・宇宙産業、鉄道・自動車産業、水力・原子力発電産業、住宅・建築産業他幅広い分野の検査等に超音波探触子が利用されています。弊社は、この探触子の業界トップメーカーとして、標準探触子に限らず、ご要望に応じた特殊仕様の探触子の開発品も承ります。

世界最小「超小型垂直探触子“ちび太くん”」



- 鋼板、丸棒の探傷
- 鋼板、パイプ、タンクの厚さ測定
- 各種材料の接合部の探傷
- 鋳造品の非金属介在物の探傷
- 鋳造品の割れ・毛割れ・巣・ひけの探傷
- 車軸・クランクシャフトの疲労割れ検査
- 素材判別検査

アレイ探触子(リニア・マトリックス)



- 発電設備の保守検査(原子力発電)
- 鉄道・自動車の保守検査
- 車軸、車輪、レールの保守検査
- 航空機、宇宙機の検査
- 鉄鋼製造ライン・一般工業保守検査
- 構造物の溶接部やボルトの検査
- 複合材料の検査

是非一度ご相談下さい！

探触子の約90%はオーダーメイドでの開発品です。『ちょっと、変わったことをしたい』といったご要望にもお応えし、検査対象や形状に対応したセンサー開発をすることが弊社の強みです。

インフラ検査のロボットによる超音波探傷をお考えの方は相談ください。空中ドローンには空中超音波センサー、水中ドローンには水浸超音波センサーなどがあります。

特殊用探触子



低周波用、高温用、TOFD用、可変角、ペンシル型、ミラー反射式、小型内挿式、ローラー型、空中超音波用、セルラーPP マイクロホンその他各種探触子

- 昭和39年度:超音波探傷用標準試験片業務委託(日本非破壊検査協会)
- 平成19年度:「神奈川県優良工場」表彰
- 平成20年度: 経済産業省「元気なモノ作り中小企業 300 社」選出
- 超音波センサー技術でロボット関連事業に貢献します。



産報出版株式会社

会員名又は連絡担当者	宮澤尚人
住所	東京都千代田区神田佐久間町 1-11 産報佐久間ビル
電話番号	03-3258-6411
FAX	03-3258-6430
E-mail	miyazawa@sanpo-pub.co.jp
URL	https://www.sanpo-pub.co.jp

産報出版書籍・定期刊行物のご案内

好評書籍



はじめての溶接シリーズ④  
はじめての非破壊検査

荒川 啓弘・笠井 尚哉 著  
A5判 / 230 頁  
定価 2,200円 (本体価格 2,000円)

これから溶接を学ぼうとする溶接関連部門の関係者を対象とするだけでなく、技術者レベルにも対応できる内容。全章を通して、図表を多く用いてわかりやすく解説し、基本的な事柄から応用まで学べることができる。



(WES 8103 特別級1級用テキスト)  
溶接・接合技術総論

溶接学会・日本溶接協会編  
A5判 622頁  
価格: 9,350円 (本体価格: 8,500円)

JIS Z 3410 (ISO 14731) / WES 8103 対応の溶接管理技術者特別級用と1級共用のテキスト。第1章から第4章までは、溶接管理技術者にとって不可欠な共通知識をまとめている。5章では鋼構造物、6章は圧力設備の溶接設計・施工について収録。



(WES 8103 2級用テキスト)  
新版 改訂 溶接・接合技術入門

溶接学会・日本溶接協会編  
A5判 342頁  
価格: 4,125円 (本体価格: 3,750円)

JIS Z 3410 (ISO 14731) / WES 8103「溶接管理技術者認定基準」の2級資格取得のための講習会課程に合わせて編集した溶接・接合技術の総合的な解説書。内容は、溶接法および溶接機器、金属材料の溶接性ならびに溶接部の特性、溶接構造の力学と設計、溶接施工および管理の第1~4章。



(WES 8107 主テキスト)  
新版 溶接実務入門 [増補3版]

日本溶接協会編  
A5判 378頁  
価格: 4,125円 (本体価格: 3,750円)

WES 8107「鋼構造物のアーク溶接作業指導者の資格認定基準」に基づく講習会の教本にも使用されている溶接現場第一線管理者向けの溶接実務の解説書。主な内容は、溶接指導の一般的知識、被覆アーク溶接、半自動アーク溶接、ティグ溶接、ロボット溶接、品質管理と作業管理、溶接構造物の強度と設計、非破壊試験。



溶接ニュース

年間購読 25,633円(税込) 千共

溶接を取り巻く産業界の最新動向、内外の最新技術や新製品、工業材料や工業製品の生産統計、注目される話題の探訪、現場からの報告等、全国各地にわたる取材網を活かし、様々な情報を提供する毎週火曜日発行の新聞。一般社団法人日本溶接協会の機関紙でもあり、同協会の各委員会や各指定機関行事の詳細も報道。



溶接技術

1冊 1,495円(税込) 千別  
年間購読 17,939円(税込) 千共

溶接技術の向上、発展を目的に、内外各産業界のあらゆる分野における溶接・接合についての調査研究結果、最新技術情報、入門講座など豊富な記事を、毎月特集を組んで掲載する唯一の溶接技術専門誌。一般社団法人日本溶接協会の機関誌として、業界最高といえる監修委員ならびに編集委員の陣容を誇る。



検査機器ニュース

年間購読 19,506円(税込) 千共

工業材料や工業製品の品質を試験、検査する方法のうち、近年注目されている非破壊検査を取り巻く産業界の最新動向、内外の最新技術や新製品、注目される話題の探訪等、様々な情報を提供する毎月5日および20日発行の新聞。一般社団法人日本非破壊検査協会や同日本非破壊検査協会の活動も詳細報道。



溶射技術

1冊 3,300円(税込) 千別  
年間購読 13,200円(税込) 千別

材料の表面改質法の中でも優れた特徴を有する溶射技術についての、研究の成果や最新情報、溶射関連機器あるいは材料の新製品など、豊富な記事を掲載する世界初の溶射技術専門誌。一般社団法人日本溶射学会が発行していた「溶射技術」の伝統を受け継ぎ、同学会が監修、学識経験に富む編集委員ならびに執筆陣を擁している。

定期刊行物

申込み先

産報出版株式会社

(ホームページ)

https://www.sanpo-pub.co.jp (最寄りの書店にない場合は、お取り寄せもできます。ホームページからのご注文もできます。)

●東京本社 / 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-11  
TEL03-3258-6411 FAX03-3258-6430

●関西支社 / 〒556-0016 大阪市浪速区元町2-8-9  
TEL06-6633-0720 FAX:06-6633-0840

株式会社三友

会員名又は連絡担当者	代表取締役社長 阿左見卓巳
住所	378-0012 群馬県沼田市沼須町乙 642
電話番号	0278-24-3133
FAX	0278-24-5313
E-mail	<a href="mailto:taku-azami@sanyu-numata.com">taku-azami@sanyu-numata.com</a>
URL	<a href="https://sanyu-numata.com/">https://sanyu-numata.com/</a>



当社の製品は建築構造物で、建物の骨になります。

強度や耐久性などの構造的な性能と高い品質が要求されます。

もの作りのプロとして正面から向き合い、経験を活かし柔軟に取り組んでいます。私たちの工場で作られる製品は、求められる構造的な性能にとどまらず、均一な溶接面やなめらかな塗装面など見た目の仕上げにも非常に気を配っています。

当社の『もの作り』はキレイな環境でこそキレイな製品作りに結びつく信念を持ち、職場環境の掃除・整理整頓にも力を入れ取り組んでいます。

お客様が日々の生活を安心して送れるよう、『建築鉄骨製作チーム』として心・技・体を駆使し、高品質な製品を生み出していく事が私たちの役目です。

「三友」という社名には、

「1.お客様」、「2.取引先様」、「3.当社」の  
3つが輪になってこそ、よい仕事に結びつく。  
という思いが込められています。



サッカーボールを作ってみました



JFE 大径鋼管株式会社

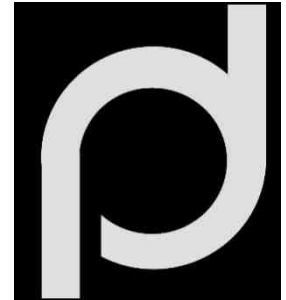
会員名又は連絡担当者	生産管理部 品質保証室 高橋英司
住所	千葉県千葉市中央区新浜町1番地
電話番号	043-262-4375
FAX	043-262-4373
E-mail	e-takahashi@jfe-steelpipe.co.jp
URL	http://www.jfe-steelpipe.co.jp/



主要製品 ・営業品目	鋼管杭・鋼管矢板・水道用塗覆装鋼管
企業概要	<p>当社は、スパイラル鋼管の製造を主力事業として、56年の歴史をもっています。業界最大級を誇るスパイラル鋼管製造設備を有しており、JFEスチールにおける唯一のスパイラル鋼管製造拠点として、港湾・橋梁・道路・高層物建築等の基礎構造物部材を供給している会社です。社会においては、皆様の生活の基礎を支える役割を担っております。</p> <p>最近の土木・建築工事における高度化・大型化に伴い、スパイラル鋼管の肉厚化・大型化が可能である当社の技術的特長点を活かし、常に最新の技術を持って、お客様からのより高度な品質へのご要求、更なる短納期のご要求に対し応えるべく、一層の改善、飛躍を目指してまいります。</p> <p>経営環境変化が著しい最近の局面におきましても、目先の問題にとらわれず、常に将来のあるべき姿を捉え、「JFEグループは、常に世界最高の技術を持って社会に貢献します。」の企業理念、「挑戦・柔軟・誠実」の行動規範に基づき、新しい発想で創造力を培い成長し続けるべく、日々邁進してまいります。</p> <p>今後共変わらぬご愛顧をお願い申し上げますと共に、ご指導、ご鞭撻を賜ります様、併せてよろしく願い申し上げます。</p>
主な沿革	<p>1967年1月 川鉄鋼管(株)設立 川崎製鉄(株)の鋼管製造会社</p> <p>1997年11月 ISO 9001の認証取得</p> <p>2003年7月 エヌケーケー一条鋼(株)千葉製造所のスパイラル事業継承</p> <p>2004年4月 JFE 大径鋼管(株)に商号変更</p> <p>2009年9月 スパイラル事業千葉(JFE 大径鋼管)集約</p>
主な 認定資格	<p>① JIS 認証規格: JIS G 3444 一般構造用炭素鋼鋼管(STK) JIS A 5525 鋼管杭(SKK) JIS A 5530 鋼管矢板(SKY)</p> <p>② 日本工業用水協会製造事業場</p> <p>③ ISO 9001</p>

ジャパンプローブ株式会社

会員名又は連絡担当者	営業・設計部 田中雄介
住所	〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 1-1-14
電話番号	045-242-0531
FAX	045-242-0541
E-mail	info@jp-probe.com
URL	https://www.jp-probe.com/



得意技術

標準的な垂直、斜角などの探触子から柔軟性超音波探触子、空中超音波探触子などの特殊探触子、光音響センサや治療用集束超音波探触子、運動計測用超音波探触子等の医療向け探触子の他、コンクリート用や海底探査用など様々な分野における探触子の設計・製造が可能です。

探触子だけでなく送受信のパルスレシーバおよびその動作プログラムの開発、空中超音波検査システムの開発、超音波伝搬シミュレータによる探触子設計、波形分析も可能です。



空中超音波計測システム  
NAUT21

営業品目

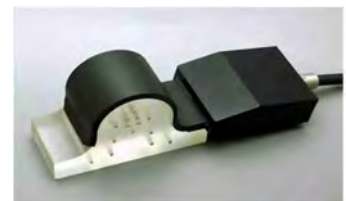
- ・垂直、斜角、水浸、集束、アレイ、空中用など各種探触子
- ・柔軟性超音波探触子:柔探、蝸探、曲探(アレイプローブ)
- ・光超音波センサなどの顧客の要望に応じた特殊探触子
- ・パルスレシーバ:JPR-600C(標準モデル)、JPR-50SD(高周波対応)など
- ・空中超音波計測システム NAUT21(標準モデル)、NAUT21-S(片面モデル)、NAUT21-I(空中水浸併用モデル)、NAUT21-M(高速モデル)
- ・超音波伝搬シミュレータ SWAN21
- ・探触子ケーブル、変換コネクタ



蝸探

PR 欄

垂直、斜角などの標準探触子から柔軟性超音波探触子や空中超音波探触子などの特殊探触子、光超音波センサや生体作用向けなど最新の研究までお客様の要望に応じて対応いたします。創業以来 40 年以上培った超音波の知識・経験に加え、超音波伝搬シミュレータなどの最新技術を組み合わせて、様々な探触子や計測の設計、評価が可能です。



曲探

## 信明ゼネラル株式会社

会員名又は連絡担当者	機器営業部 田中光一
住所	〒105-0004 東京都港区新橋 6-12-6
電話番号	03-3578-1351
FAX	03-3578-1354
E-mail	<a href="mailto:tanaka@sgc-ndt.com">tanaka@sgc-ndt.com</a>
URL	<a href="https://sgc-ndt.com">https://sgc-ndt.com</a>



**信明ゼネラル株式会社** は 非破壊検査機器専門商社です。

測定装置及び理学機器の販売及び卸販売が主力ですが、鉄筋継手部専用検査装置 USG-27A、USG-X の等の場合は準メーカーとしての立場となります。

業務比率は年によって凸凹ありますが、概ね下記のような比率です

ポータブル型超音波探傷器・探触子	全体の 55%
渦電流探傷器 (システム・手動)	20%
放射線透過装置・フィルム・CR 等	15%
その他の装置及び理学機器	10%

### 主要販売機器

**USG-X 鉄筋継手部専用器** (KJTD)

新コンセプト **USM100** Krautkramer



安定性能・ハイパワー **UI-S9** 菱電 凝縮性能 **EPOCH650** エビデント



見えないものにかたちを  
非破壊検査機器の信明ゼネラル

製品情報 Application 機器メンテナンス 会社案内 Contact 関連リンク

小さな会社ですが  
お見知りおきのほど  
宜しくお願いいたします

大陽日酸ガス&ウェルディング株式会社

会員名又は連絡担当者	技術本部 技術部 技術課 出路将也
住所	大阪府堺市中区榎葉 211
電話番号	072-236-0085
FAX	072-236-7911
E-mail	dejim.qjr@tn-sanso.co.jp
URL	<a href="https://www.tngw.tn-sanso.co.jp/">https://www.tngw.tn-sanso.co.jp/</a>

ソニコートは造船、機械、橋梁、鉄骨、化学プラントなどの各種構造物、機械部品、原材料の超音波探傷試験及び厚さ測定用の接触媒質で、精密な自動探傷から手動探傷まで幅広くご使用頂けます。

まずはどうぞお気軽にお問い合わせ下さい。 ☎ 072-236-0085



大陽日酸ガス&ウェルディング株式会社

堺支店 大阪府堺市中区榎葉 211  
TEL 072-236-0085

詳しくはホームページをご覧ください  
<https://www.tngw.tn-sanso.co.jp/>



## 立川 NDT テクノ

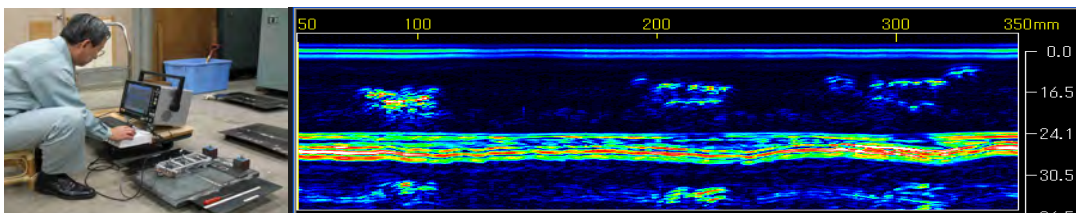
会員名又は連絡担当者	代表 立川克美
住所	千葉県稲毛区小仲台 2-1-1-3208
電話番号	043-253-7860
FAX	043-253-7860
E-mail	k-tachi@horae.dti.ne.jp
URL	



### 非破壊試験と溶接技術のコンサルタント

#### 1. 超音波探傷技術に関するコンサルタント業務

- \* 溶接部、板材、鍛鋼品、非鉄金属材料等への超音波探傷技術および適用規格のコンサルタント
- \* JIS G 0587, JIS G 0801, JIS Z 2350, JIS Z 2352, JIS Z 3060 等の超音波探傷に関わる日本産業規格(JIS)の解説
- \* (一社)日本非破壊検査協会規格(NDIS)に関するコンサルタント
  - ・ NDIS 2423 「TOFD 法によるきず高さ測定方法」
  - ・ NDIS 2432 「角形鋼管溶接角部の超音波探傷試験方法」
  - ・ NDIS 2433 「裏当て金付完全溶込み溶接 T 接手のルート部からのエコー判別方法」
- \* 金属構造材に発生するきずの検出性と非破壊試験の適用についてのコンサルタント
- \* 超音波探傷 TOFD 法の探傷技術に関するコンサルタント



TOFD 探傷

TOFD探傷画像

#### 2. 溶接施工技術に関するコンサルタント業務

- \* 建築鉄骨溶接部の炭酸ガス半自動溶接に関する施工技術及び日本建築学会規準「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」に基づく探傷技術と「たれ込み判別法」についての実務指導

## 千葉県産業支援技術研究所

会員名又は連絡担当者	材料技術室 室長 細谷昌裕
住所	千葉県稲毛区天台6-13-1
電話番号	043-252-2106
FAX	043-254-6555
E-mail	m.hsy5@pref.chiba.lg.jp
URL	<a href="https://www.pref.chiba.lg.jp/sanken/">https://www.pref.chiba.lg.jp/sanken/</a>



千葉県産業支援技術研究所は、中小企業の活性化、ベンチャー企業の創出・育成、産学官連携による新産業の創出等を目指し、そのニーズに応えるため研究・開発、技術相談・支援、依頼試験、技術情報の提供、人材育成等の支援を行っています。

私たち産業支援技術研究所では、今後も技術ニーズ・シーズを的確にとらえ、技術支援機関として地域産業技術の先導的な役割を果たすとともに、技術を仲立ちとした人や企業との結びつきを大切に、皆さんのお役に立てるよう努力していきます。

### 保有する主な非破壊検査機器

#### 高精細 X 線 CT 装置



小焦点寸法の X 線源と高精細な検出器を搭載した、高い空間分解能と密度分解能を有する工業用 X 線 CT 装置です。

LSI や小型電子部品、高分子ポリマー、樹脂成形品などの内部観察を非破壊で行うことができます。

#### 超音波映像装置



超音波探傷装置に高精度のスキャナーを組合せ、水浸法により試験体の内部および表面の欠陥を探傷し、平面画像並びに断面画像を表示させる装置です。

**無料で技術相談を行っておりますので、お気軽にご連絡ください！**



電子磁気工業株式会社

会員名又は連絡担当者	開発部 岩田成弘
住所	〒115-0051 東京都北区浮間 5-6-20
電話番号	03-5970-8681
FAX	03-5970-8680
E-mail	rd@emic-jp.com
URL	https://www.emic-jp.com/



●事業内容

非破壊検査装置、着磁・脱磁機器、磁気計測器、その他磁気応用製品の設計・製造・販売

●製品群

非破壊検査



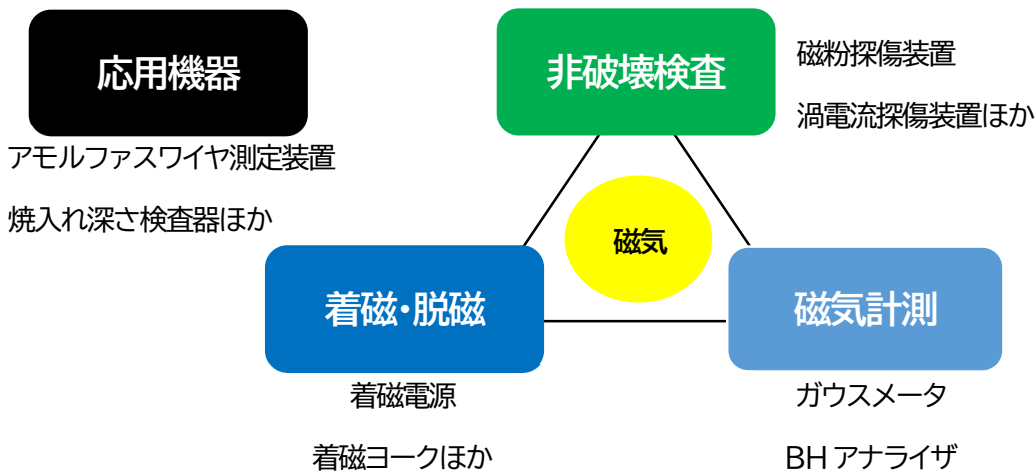
磁気計測



着磁・脱磁



応用機器



●企業コメント

電子磁気工業は1957年の創業以来、磁気の専門集団として磁気応用の幅広い分野の製品開発・製造を行って参りました。

私たちが大切にしていることは、お客様の隠れた声に耳を傾け、時代に先駆けたモノづくりに貢献することです。そして、単に製品をお届けするだけでなく、その先にある安心・安全を形にする磁気のコンサルティング企業であることです。

今後も開発型企业として最新の技術で未来を切り開き、お客様のご要望を実現して参ります。

## 東亜非破壊検査株式会社

連絡担当者	千葉営業所 安齊勝昭
住所	〒299-0111 千葉県市原市姉崎830-1
電話番号	0436-60-7251
FAX	0436-62-7997
E-mail	k.anzai@toandi.co.jp
URL	http://www.toandi.co.jp



東亜非破壊検査株式会社  
TOA Nondestructive Inspection Co., Ltd.



代表取締役社長 中山 祥太郎



### ■ 事業所一覧



### ■ 検査対象

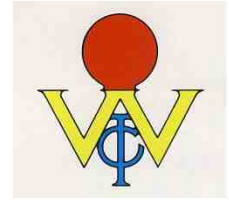


### ■ 種目

- 放射線透過試験
- 超音波探傷試験
- 磁気探傷試験
- 浸透探傷試験
- 渦電流探傷試験
- ひずみゲージ試験
- 漏れ試験
- 目視試験
- 金属組織試験
- 溶接後熱処理

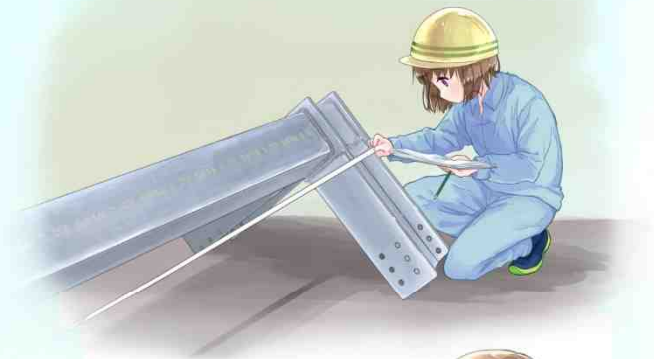
一般社団法人日本溶接技術センター

会員名又は連絡担当者	日本溶接構造専門学校 阿南睦章
住所	神奈川県川崎市川崎区本町2-11-19
電話番号	044-222-4102
FAX	044-233-7976
E-mail	office@jwsc.or.jp
URL	<a href="https://jwsc.jp/">https://jwsc.jp/</a>



# 鉄骨加工業 後継者育成授業

鉄骨関連資格取得支援  
建築鉄骨分野溶接技能実習  
ファブ関連授業  
現場見学・工場見学...



詳しくはお問い合わせください→



パルステック工業株式会社

会員名又は連絡担当者	営業部営業1課 係長 谷高弘将
住所	静岡県浜松市北区細江町中川 7000-35
電話番号	053-522-3611
FAX	053-522-3666
E-mail	h-yataka@pulstec.co.jp
URL	<a href="https://www.pulstec.co.jp/">https://www.pulstec.co.jp/</a>



パルステック工業は、創業当初から「研究開発型モノづくり企業」を志向し、既製品では対応困難な省力化機器や検査設備などを数多く手掛け、お客様の生産性の向上や品質向上に寄与してまいりました。

「ポータブル型 X 線残留応力測定装置」や「蛍光検出ヘッド」は、今まで培ってきた要素技術を複合することにより自社開発した製品であり、各方面から高い評価を得ています。



X 線単結晶方位測定装置 (s-Laue)



非接触硬さムラスキャナ (muraR)



ポータブル型 X 線残留応力測定装置 (μ-X360s)



レンズユニット波面計測システム (LUCAS)



高速波面センサ (PWS-500/PWS-1000)

解決困難な課題、特注設備、共同開発、技術者派遣などお客様のニーズに合わせ、最適な解決策をご提案いたしますので、お気軽にお問合せください。

菱電湘南エレクトロニクス株式会社

担当部署	検査計測営業部 市川 英
本社住所	神奈川県鎌倉市山崎 25 番地
電話番号	0467-45-3411
FAX	0467-44-7517
E-mail	info@rsec.co.jp



祝 千葉県非破壊検査研究会 40 周年  
おめでとうございます。

探傷するすべての人のニーズに応えたい。  
社会の安全・安心・快適をサポートする  
ソリューションカンパニー

**RYOSHO**

いままでも  
これからも  
Since 1949



昭和 25 年日本製銅納入品

デジタル超音波探傷器 UIシリーズ



超音波探触子



株式会社ダンテック

会員名又は連絡担当者	関東支社 副支社長 高橋厚志
住所	千葉市中央区南町3-2-1 青木ビル2F
電話番号	043-263-9935
FAX	043-265-8725
E-mail	a.takahashi@dantec.co.jp
URL	<a href="https://www.dantec.co.jp">https://www.dantec.co.jp</a>

本社(大阪)  
 関西支社  
 関東支社  
 中部支社  
 姫路、津、徳島

非破壊検査全般、ガスホルダーの供用中検査と CBM 評価、橋梁における超音波自動探傷試験等  
 CIW-A 種認定会社、各種 NDI、WES、HPI、高圧ガス製造保安責任者等の資格者多数



想像から創造へ 今感動の技術

DANTEC

日鉄テクノロジー株式会社

会員名又は連絡担当者	技術・品質管理部 NDI 技術室 専門主幹 小松 伸行
住所	千葉県君津市君津 1 番地 日本製鉄(株)構内
電話番号	0439-50-8075
FAX	0439-50-8076
E-mail	komatsu.y6g.nobuyuki@jp.nipponsteel.com
URL	<a href="https://www.nstec.nipponsteel.com/">https://www.nstec.nipponsteel.com/</a>

弊社は、日本製鉄グループの一員として日本製鉄の試験・分析および研究開発支援を担い、技術で日本製鉄グループを支えています。そして製鉄分野で培った技術と最先端の機器を活用し、「材料評価・分析」、「研究・開発支援」、「環境・省エネルギー」、「計測・検査」等のソリューションを、様々な分野のお客様にご提供しております。弊社は、人と技術、そしてお客様の信頼を何よりも大切にし、優れたソリューションの提供を通じて、これからもお客様と共に社会の発展に貢献してまいります。

主に日本製鉄の製鉄所に隣接して、北海道から九州に渡って拠点があります。千葉県内の拠点としては、東日本製鉄所 君津地区の構内にあります。

非破壊試験の分野では、一般的な RT、UT、MT、PT、ET に加えて、TOFD、フェーズドアレイ UT、オンサイト蛍光エックス線成分分析、コンクリート塩分測定(簡易式蛍光エックス線分析による)コンクリート内鉄筋腐食調査(分極抵抗測定+数値解析)などを実施しています。

## 日鉄ボルテン株式会社

会員名又は連絡担当者	品質技術部(兼)営業部東京営業所 高浦弘至
住所	千代田区内神田 2-5-5 ラウド`知ス大手町北ビル9階
電話番号	03-6384-0325
FAX	03-3257-9660
E-mail	h.takaura@bolten.co.jp
URL	http://www.bolten.co.jp/



ボルトはいったん締結してしまうと軸力を検出するのが困難です。超音波を代表とする非破壊検査による軸力検出技術がさらに発展し、どなたでも簡易に軸力を検出できるようになれば、大きなイノベーションとなります。

弊社は土木建築用の高力ボルトを主力製品としております。非破壊検査技術に長けた皆様とコラボレーションし、新しい未来に一步を踏み出せたら幸いです。



トルシア形高力ボルト (S10T)



トルシア形超高力ボルト (SHTB)



## ポニー工業株式会社

会員名又は連絡担当者	京葉営業所 平野涼輔
住所	千葉県千葉市中央区今井 3-22-18
電話番号	043-305-0012
FAX	043-305-0030
E-mail	r.hirano@ponyindustry.co.jp
URL	https://www.ponyindustry.co.jp

1965年にポニー工業は非破壊検査株式会社の放射線防護部門から独立し、発足しました。

誕生から今日に至るまで、放射線関連製品を主軸に、超音波・渦電流・磁気など、あらゆる非破壊検査技術を駆使してお客様のニーズにあった検査・計測機器の開発・製造・販売に携わってきました。

非破壊検査の業務を通じて、社会に安全・安心をお届けします。

# 千葉県非破壊検査研究会40年の活動報告



## 昭和56年度（1981年度）活動事業

行 事	創立総会																																				
期日・場所	昭和56年5月23日 日本大学生産工学部																																				
内 容	<p>石橋教授および星川、小井戸両先生の御尽力により日本大学生産工学部において創立総会を開催し、会則を定め、会長、幹事を選出、事務局を千葉県機械金属試験場 非破壊検査室に置くこととし、会名を「川向こうの会」とした。それは、本研究会は浅草橋に在る（社）日本非破壊検査協会から見て、江戸川をはさんで川の向こう側であるとの意味である。</p> <p>創立時の役員</p> <table border="0"> <tr> <td>会 長</td> <td>石橋泰雄</td> <td>日本大学生産工学部教授</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>岸上守孝</td> <td>石川島播磨重工業(株)技術研究所</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>木村新一郎</td> <td>新日本製鐵(株)</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>倉持 貢</td> <td>清水建設(株)技術研究所</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>土野 宏</td> <td>新日本非破壊検査(株)</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>福田祐一</td> <td>栄進化学(株)</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>藤盛紀明</td> <td>清水建設(株)技術研究所</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>三河一雄</td> <td>極東石油工業(株)</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>宮川一男</td> <td>日本大学生産工学部</td> </tr> <tr> <td>幹 事</td> <td>藪下延樹</td> <td>非破壊検査(株)</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>白井越朗</td> <td>千葉県機械金属試験場</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>吉野最治</td> <td>千葉県機械金属試験場</td> </tr> </table> <p>創立総会 参加者31名</p>	会 長	石橋泰雄	日本大学生産工学部教授	幹 事	岸上守孝	石川島播磨重工業(株)技術研究所	幹 事	木村新一郎	新日本製鐵(株)	幹 事	倉持 貢	清水建設(株)技術研究所	幹 事	土野 宏	新日本非破壊検査(株)	幹 事	福田祐一	栄進化学(株)	幹 事	藤盛紀明	清水建設(株)技術研究所	幹 事	三河一雄	極東石油工業(株)	幹 事	宮川一男	日本大学生産工学部	幹 事	藪下延樹	非破壊検査(株)	事務局	白井越朗	千葉県機械金属試験場	事務局	吉野最治	千葉県機械金属試験場
会 長	石橋泰雄	日本大学生産工学部教授																																			
幹 事	岸上守孝	石川島播磨重工業(株)技術研究所																																			
幹 事	木村新一郎	新日本製鐵(株)																																			
幹 事	倉持 貢	清水建設(株)技術研究所																																			
幹 事	土野 宏	新日本非破壊検査(株)																																			
幹 事	福田祐一	栄進化学(株)																																			
幹 事	藤盛紀明	清水建設(株)技術研究所																																			
幹 事	三河一雄	極東石油工業(株)																																			
幹 事	宮川一男	日本大学生産工学部																																			
幹 事	藪下延樹	非破壊検査(株)																																			
事務局	白井越朗	千葉県機械金属試験場																																			
事務局	吉野最治	千葉県機械金属試験場																																			

行 事	第2回総会
期日・場所	昭和57年1月23日 日本大学生産工学部
内 容	新年会を兼ねる

行 事	講習会
内 容	超音波2級技術講習会（講義及び実習）



川向こうの会（千葉県非破壊検査研究会）創立総会記念写真



創立総会スナップ



第2回総会 日本大学生産工学部

昭和57年度（1982年度）活動事業

行事	講習会
内容	超音波2級技術講習会（講義及び実習） ① 浸透探傷試験 ② 磁粉探傷試験 ③ 放射線透過試験 ④ 超音波探傷試験

## 昭和58年度（1983年度）活動事業

行 事	第3回総会
期日・場所	昭和59年2月4日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>規約改正を行い、副会長に丹羽登（千葉工業大学教授）が承認された。この総会を機に、本会は通称川向こうの会から正式名千葉県非破壊検査研究会と呼称することとした。</p> <p>① 第1回研究発表会を同時開催</p> <p>② 特別講演「宇宙工学と非破壊検査」</p> <p>千葉工業大学 電気工学科教授 丹羽 登</p>
行 事	第1回研究発表会
期日・場所	昭和59年2月4日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>発表テーマ</p> <p>① 工業用可搬式X線装置RF-160Mとその応用について 理学電機(株) 相田健二, 長岡拓二郎</p> <p>② 超音波によるポリエチレン被覆膜厚の自動測定について 川崎製鉄(株)千葉製鉄所 守井隆史, 高橋 暁 川崎製鉄(株)計量器技術センター 川村紘一, 山本 昭</p> <p>③ 熱交換器チューブのメンテナンスについて（渦流探傷及び超音波探傷） 中国エックス線(株) 日置 修, 藤岡克美</p> <p>④ 極間法における欠陥の検出について 栄進化学(株) 相村英行</p> <p>⑤ 湿式蛍光磁粉の特性と検出能について 千葉県機械金属試験場 吉野最治</p> <p>⑥ 水洗性浸透液の欠陥検出能について 栄進化学(株) 福田裕一</p> <p>⑦ 高圧ガス設備の欠陥発生に関する調査について 千葉県商工労働部保安課 宮田宗平</p> <p>特別講演会「宇宙工学と非破壊検査」</p> <p>千葉工業大学 教授 丹羽 登</p> <p>懇親会開催</p>



第3回総会 石井 操副会長挨拶



研究発表会



懇親会（石橋会長と丹羽副会長）

## 昭和59年度（1984年度）活動事業

行 事	第4回総会
期日・場所	昭和60年3月12日 千葉県機械金属試験場
内 容	第二代会長に丹羽登（東京大学名誉教授）千葉工業大学教授が就任。 第2回研究発表会を同時開催。 昭和60年4月より事務局担当者は立川が務める。

行 事	第2回研究発表会
期日・場所	昭和60年3月12日 千葉県機械金属試験場
内 容	発表テーマ ① 鋼溶接部の超音波探傷試験に関する日本工業規格の主なる改正点（解説） 石川島播磨重工業(株)技術研究所 岸上守孝 ② 傾斜した欠陥による漏洩磁束 金属材料技術研究所 植竹一蔵, 伊藤秀之 ③ 粉体処理による染色浸透探傷試験 中国エックス線(株) 遠藤智明, 藤原 茂, 石見 茂, 金原了二, 稲垣俊三, 山根一治 ④ 応力塗料膜を使用したひずみ測定例 千葉県機械金属試験場 亀田進也, 林 彰 懇親会開催

## 昭和61年度（1986年度）活動事業

行 事	第5回総会
期日・場所	昭和61年4月16日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>会則を改正し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局に事務局長及び書記を置くこととした。</li> <li>・副会長を千葉県機械金属試験場長の持職とし、成毛幸夫（千葉県機械金属試験場長）が就任した。</li> </ul> <p>特別セミナー「NDTにおける諸外国の動き」 講師：丹羽 登, 石橋泰雄, 山田博章, 藤盛紀明</p>

行 事	講習会
内 容	<p>① 浸透探傷試験技術講習会（参加者20名）</p> <p>② 全構連鉄骨超音波検査技術者実技講習会（参加者17名）</p>



全構連鉄骨超音波検査技術者実技講習会

## 昭和62年度（1987年度）活動事業

行 事	第6回総会（第3回研究発表会を同時開催）
期日・場所	昭和62年4月25日 千葉県機械金属試験場
内 容	宮田宗平（千葉県機械金属試験場長）が副会長に就任した。 特別講演 3テーマ

行 事	第3回研究発表会
期日・場所	昭和62年4月25日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>発表テーマ</p> <p>① マイクロフォーカスX線装置（MRS-160）による新素材の識別度 理学電機(株) 花田 広, 田淵良雄, 久保寺三義</p> <p>② 応力塗料法に関する利用度の調査 千葉県機械金属試験場 亀田進也, 林 彰</p> <p>③ 高温探傷における遅延材の影響 新日本非破壊検査(株) 土野 宏, 岩間将人, 桐ヶ谷 聡 新日本非破壊検査(株)君津出張所 水田 順, 内藤俊美</p> <p>④ 炭素鋼材熱交換器チューブの新しい渦流探傷法の開発 非破壊検査(株)生産事業本部 榊原秀一</p> <p>⑤ 本州四国連絡橋における超音波自動探傷の適用 中国エックス線(株) 中田秀夫</p> <p>⑥ 磁粉濃度監視装置について 栄進化学(株) 上村勝二, 相村英行</p> <p>⑦ NDIS 2413 音響異方性を有する鋼溶接部の超音波探傷について（解説） 千葉県機械金属試験場 立川克美</p> <p>⑧ 超音波探傷装置に関する各国の規格 三菱電機(株)鎌倉製作所 松山 宏</p> <p>⑨ 産業における超音波応用の現状について -超音波CTを中心として- 日本大学生産工学部電気工学科 山田博章</p> <p>懇親会開催</p>

行 事	第7回総会
期日・場所	昭和63年3月24日 千葉県機械金属試験場
内 容	超音波関連のJIS規格 (JIS Z 2344, JIS Z 2355, JIS Z 3060) について, 講習会を同時開催

行 事	講習会
内 容	超音波探傷試験技術講習会 座学3回, 実技講習会2回 (参加者91名)



昭和62年4月23日 研究会有志による岸上氏のNDI副会長就任, 藤盛氏の渡米, 白井氏の昇進祝い



## 昭和63年度（1988年度）活動事業

行 事	第4回研究発表会（事例発表会として開催）
期日・場所	平成元年2月1日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>発表テーマ</p> <p>① 微小焦点X線装置による拡大の効果について 理学電機(株) 久保寺三義</p> <p>② 鉄骨溶接部超音波探傷回送実験について 千葉県機械金属試験場 白井越朗, 立川克美 (協)千葉県鉄骨工業会 飯塚栄一, 石渡 昇, 稲田 稔, 郷保英雄, 小野田莞爾, 熊谷 弘, 佐藤浩道, 椎名英雄, 仙波一清, 高橋 丘, 富岡雄三, 永井 勉, 長江紀之, 新田七雄, 藤ヶ崎修, 前田幸生, 山本幸徳</p> <p>③ 後乳化性蛍光浸透液における乳化剤の影響について 栄進化学(株) 上村勝二, 福田裕一, 相村英行</p> <p>④ 固体内超音波の可視化について -画像処理による可視化像の改善- 宮城工業高等専門学校 伊達和博 日本クラウトクレマー・フェルスター 宇田川義夫</p> <p>⑤ 固体内超音波の可視化解析システムの開発 宮城工業高等専門学校 伊達和博 日本クラウトクレマー・フェルスター 田幡幸大 東北大学工学部 島田平八</p> <p>⑥ 角鋼片の全断面探傷法の開発 (社)日本非破壊検査協会中部支部 中瀬久生</p> <p>新年会開催</p>

行 事	講習会
内 容	<p>① 超音波探傷試験技術講習会 座学2回, 実技講習会2回 (参加者90名)</p> <p>② 日本建築学会規準改定講習会 (参加者38名)</p>



栄進化学(株) 上村勝二氏の発表



JSNDI中部支部 中瀬久生氏の発表



宮城工業高等専門学校 伊達和博氏の発表

## 平成元年度（1989年度）活動事業

行 事	第8回総会
期日・場所	平成元年4月11日 千葉県機械金属試験場
内 容	特別講演会：古文化財の非破壊イメージング・歴史を解く非破壊試験 講師：国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 教授 田口 勇 非破壊検査機器展示会 共催（社）日本非破壊検査振興協会 懇親会開催 参加者58名

行 事	第5回研究発表会（事例発表会として開催）
期日・場所	平成2年1月29日 千葉県機械金属試験場
内 容	発表テーマ ① 超音波探傷法の複合材料への応用 科学技術庁航空宇宙技術研究所 松嶋正道 ② 超音波探傷試験による鋼溶接部の欠陥評価 （協）千葉県鉄骨工業会 富岡雄三 他15名 ③ 放射線管内付着物測定装置 中国エックス線(株) 稲垣俊三 ④ CXR TTスキャナ，小径管内目視検査装置MOGRER 中国エックス線(株) 藤原 茂，稲垣俊三，金原了二，山根一治 ⑤ AWS（米国溶接協会）の鉄骨溶接の検査について エンジニアリングサービス(株) 三浦邦敏 ⑥ サルファプリントパターン上の線状欠陥についてのHough変換による定量評価の試み 日本大学生産工学部 山田博章 ⑦ X線による表面残留応力測定事例について 千葉県機械金属試験場 中村哲朗 新年会開催 参加者57名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会（参加者48名） ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 ③ 鉄骨超音波探傷技術講習会（参加者22名） ④ 鋳鉄の非破壊評価技術に関する研究成果普及講習会（参加者76名） ⑤ X線試験の最近の動向（参加者34名）

総会



国立歴史民俗博物館 田口勇氏による特別講演



(社)日本非破壊検査振興協会（現 日本非破壊検査工業会）と共催した非破壊検査機器展示会

事例発表会



千葉県鉄骨工業会回送実験参加企業の紹介



平成2年新年会

## 平成2年度（1990年度）活動事業

行 事	第9回（平成2年度）総会
期日・場所	平成2年4月24日 千葉県機械金属試験場
内 容	特別講演：圧力容器及び配管の非破壊検査について 講師：（財）発電設備技術検査協会 鶴見試験センター所長 三好 滋 参加者45名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 4回（参加者183名） ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回

行 事	創立10周年記念行事
期日・場所	平成3年1月9日 記念式典・特別講演会場：高度技能開発センター 視聴覚室 祝賀会場：海外職業訓練センター レセプションホール
内 容	記念式典 ① 挨拶：丹羽登会長 ② 祝辞：千葉県商工労働部次長 西川達男 祝辞：（社）日本非破壊検査協会副会長 岸上守孝 祝辞：（協）千葉県鐵骨工業会理事長 米山精次 ③ 表彰者：日本大学名誉教授（初代会長）石橋泰雄 ④ 特別講演「21世紀の都市構想」 講師：清水建設（株）技術本部企画部長 藤盛紀明 ⑤ 施設見学：高度技能開発センター 祝賀会 参加者64名（招待者15名） 10周年記念誌を発行し、全会員に贈呈。

創立10周年記念式典



特別講演の藤盛氏を紹介する丹羽会長



石橋初代会長の表彰

記念祝賀会



石橋前会長 乾杯の音頭



岸上氏の挨拶



守井氏と事務局



会場全景

## 平成3年度(1991年度)活動事業

行 事	第10回(平成3年度)総会
期日・場所	平成3年6月25日 千葉県機械金属試験場
内 容	砂金國男 機械金属試験場長が副会長に就任 特別講演:「最近の不良鉄骨から学ぶ」 講師:東京都千代田区役所 建築公害部建築課 構造係長 加藤哲夫 懇親会開催 参加者82名

行 事	第6回研究発表会
期日・場所	平成4年2月4日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	発表テーマ ① 超音波探傷用接触媒質に必要な条件 日合アセチレン(株) 上坂和雄 ② 角形鋼管の超音波探傷試験 (協)千葉県鉄骨工業会 永井 勉 千葉県機械金属試験場 立川克美, 白井越朗 ③ 渦流探傷映像処理装置の開発 日本クラウトクレーマー(株) 村井純一 ④ 回転対称部品の自動渦流探傷装置の開発 日本クラウトクレーマー(株) 村井純一 ⑤ 管路診断について (株)シーエックスアール 稲垣俊三 ⑥ 超音波による割れ深さ測定 非破壊検査(株) 竹中克己 新年会開催 参加者56名
行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 2回(参加者51名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 ③ 鉄骨超音波探傷技術講習会(全構連超音波検査技術者・実技講習)(参加者9名)

総会



特別講演の東京都千代田区役所  
建築公害部建築課 加藤哲夫氏



懇親会

研究発表会



(株)シーエックスアール 稲垣俊三氏



日合アセチレン(株) 上坂和雄氏



非破壊検査(株) 竹中克己氏



## 平成4年度(1992年度)活動事業

行 事	第11回(平成4年度)総会
期日・場所	平成4年6月16日 新日本製鐵(株)技術開発本部
内 容	武藤明義 機械金属試験場長が副会長に就任 特別講演:「石橋先生を偲ぶ」 講師:日本大学生産工学部 電気工学科 教授 星川 洋 新日本製鐵(株)技術開発本部「ゲストハウス」にて懇親会開催 参加者52名

行 事	第7回研究発表会
期日・場所	平成5年1月26日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	発表テーマ ① 交流インピーダンス法による腐食診断 日鐵テクノス(株) 益子羊了, 三島 勇 ② 蛍光探傷(磁粉&浸透)用高出力ブラックライトの開発 栄進化学(株) 上村勝二, 相村英行 ③ 複合材の超音波探傷法について 科学技術庁航空宇宙技術研究所 松嶋正道 ④ 超音波探傷器デジタル化の得失について 三菱電機(株)鎌倉製作所 松山 宏 ⑤ 高性能2MHz斜角探触子について (株)検査技術研究所 林 栄男 ⑥ 2MHz斜角探触子による溶接部の探傷 千葉県機械金属試験場 立川克美 新年会開催 参加者50名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 6回(参加者175名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回

総会



幹事会



平成4年度・第11回総会



新日本製鐵(株)技術開発本部「ゲストハウス」にて懇親会



研究発表会



三菱電機(株)鎌倉製作所 松山 宏氏



(株)検査技術研究所 林 栄男氏

## 平成5年度(1993年度)活動事業

行 事	第12回(平成5年度)総会
期日・場所	平成5年6月24日 科学技術庁航空宇宙技術研究所調布飛行場分室
内 容	特別講演:「固体ロケットの非破壊検査」 講師:航空宇宙技術研究所 宇宙研究グループ 工学博士 清水盛生 見学会 調布飛行場分室研究設備 手打ち蕎麦処「御狩野」にて懇親会開催 参加者38名

行 事	第8回研究発表会
期日・場所	平成6年1月25日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	発表テーマ ① 薄鋼板の板波探傷について 川崎製鉄(株) 守井隆史 ② 自動超音波探傷装置の紹介 駒井鉄工(株)東京工場 工藤憲二, 清水光弘 (株)アスペクト 芝 彰男 ③ Bモード用ファントム試験片 (株)検査技術研究所 林 栄男, 小野光造, 小林 博 ④ デジタル探傷器UI-21の紹介 三菱電機(株)鎌倉製作所 矢光信明 ⑤ 超音波開口合成法を用いたコンクリート内部構造の断面表示に関する研究 清水建設(株)技術研究所 倉持 貢 日本クラウトクレーマー(株) 深田 修 ジャパンプローブ(株) 中田正明 ⑥ 建築鉄骨工事における第三者検査機関の企業審査基準に関する一試案 エンジニアリングサービス(株) 三浦邦敏 新年会開催 参加者65名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 6回 (参加者124名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者275名) ③ デジタル超音波探傷器講習会 (参加者32名)

総会



航空宇宙技術研究所 清水盛生氏の講演



調布飛行場分室研究設備の見学

研究発表会



発表会風景



発表者への記念品 (千葉の地酒) 贈呈

講習会



講習会風景

## 平成6年度(1994年度)活動事業

行 事	第13回(平成6年度)総会
期日・場所	平成6年7月13日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	高田喜正 機械金属試験場長が副会長に就任 特別講演:「ISO9000番シリーズの概要」 講師:日本検査コンサルタント(株) 寺田邦男 懇親会開催 参加者45名

行 事	第9回研究発表会
期日・場所	平成7年1月31日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	発表テーマ ① 多周波数斜角探触子の紹介 ジャパンプローブ(株) 幸崎 進 ② ハンディ超音波透視装置の開発 日本クラウトクレマー(株) 村井純一 ③ 超音波映像装置によるすき間検出性の検討 日立建機(株) 小倉幸夫 ④ 放射線透過写真の12bit画像処理 日本非破壊検査(株) 木下義高 ⑤ 角形鋼管柱角部の超音波探傷試験方法(NDI指針)について 清水建設(株)技術研究所 倉持 貢 ⑥ 裏当て金付完全溶込みT継手のルート部からのエコー判別法に関する指針 (202勧告)改正作業について 千葉県機械金属試験場 立川克美 ⑦ 球状黒鉛鋳鉄品の球状化率と超音波の音速に関する実験的検討 日本鋳鉄管(株) エンジニアリング部 高橋雅和 新年会開催 参加者73名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 3回 (参加者31名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者200名)

## 総会



総会後の懇親会風景

## 平成7年度(1995年度)活動事業

行 事	第14回(平成7年度)総会
期日・場所	平成7年6月22日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	特別講演:「阪神大震災と鉄骨構造物」 講師:千葉工業大学建築工学科 教授 羽倉弘人 懇親会開催 参加者45名

行 事	第10回研究発表会
期日・場所	平成8年1月16日 幕張・高度ポリテクセンター
内 容	発表テーマ ① マイコン搭載ポータブル式X線装置 ラジオフレックス EGMシリーズ 理学電機(株) 久保寺三義, 上野光春, 小玉裕一, 森田明宏 ② 先進複合材料の非破壊評価 科学技術庁航空宇宙技術研究所 松嶋正道 ③ 表面SH波探触子の指向性に関する実験的検討 日本鋳鉄管(株) 高橋雅和 木村超音波探傷研究所 木村勝美 ジャパンプローブ(株) 星野充宏 ④ 裏当て金付完全溶込みT継手のルート部からのエコー判別法に関する実験 J S N D I 溶接部の超音波探傷研究委員会WG エンジニアリングサービス(株) 上平綱昭 ⑤ 裏当て金付完全溶込みT継手のルート部からのエコー判別法に関する指針(本文) J S N D I 溶接部の超音波探傷研究委員会WG (株)キューシーコンサルタント 荒井 均 ⑥ 裏当て金付完全溶込みT継手のルート部からのエコー判別法に関する指針(解説) J S N D I 溶接部の超音波探傷研究委員会WG (株)ジャスト研究所 名取孝夫 特別講演:千葉と超音波との50年 千葉県非破壊検査研究会会長(千葉工業大学教授) 丹羽 登 懇親会開催 参加者65名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 2回 (参加者20名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者245名)

研究発表会



特別講演 千葉と超音波との50年  
丹羽 登 会長



(株)キューシーコンサルタント 荒井 均氏



研究発表会風景



懇親会



## 平成8年度(1996年度)活動事業

行 事	第15回(平成8年度)総会
期日・場所	平成8年6月3日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	今関重義 機械金属試験場長が副会長に就任 特別講演:「建築構造物の耐震診断の実情」 講師:東京都多摩東部建築指導事務所 建築指導二課 専門副参事 田極義明 懇親会開催 参加者37名

行 事	第11回研究発表会
期日・場所	平成9年2月7日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	発表テーマ ① 超音波探傷における波形管理の必要性 (FD-650N のオシロスコープ機能) 湘菱電子(株) 大沼栄二, 佐藤春治 ② 共振型磁気センサーによる各種非破壊検査実例について 偕成エンジニア(株) 小濱博明 (神奈川県非破壊試験技術交流会) ③ ギャップ探傷用垂直探触子 (株)検査技術研究所 林 栄男 ④ 超音波のコンピュータ・アニメーション 東京理科大学基礎工学部 羽田野甫 ⑤ 水浸法における弾性表面波を用いた画像観察 日立建機(株) 小倉幸夫, 石川 潔, 佐藤温子, 片倉景義 ⑥ SH波による裏当て金付T継手溶接部の探傷 千葉県機械金属試験場 立川克美 特別講演:非破壊検査技術者認証の国際整合化 (財)発電設備技術検査協会鶴見試験研究センター研究参事 岸上守孝 新年会開催 参加者51名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 2回 (参加者13名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者245名)

総会



総会風景



総会準備

研究発表会



特別講演 岸上守孝氏



羽田野 甫氏



小倉幸夫氏

## 平成9年度(1997年度)活動事業

行 事	第16回(平成9年度)総会
期日・場所	平成9年7月7日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	特別講演:「非破壊検査の裏と表」 講師:千葉県非破壊検査研究会 会長 丹羽 登 懇親会開催 参加者40名

行 事	第12回研究発表会
期日・場所	平成10年1月23日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	発表テーマ ① DC方式・新型ポータブル式X線装置 RF-300HMG 理学電機(株) 久保寺三義 ② 超音波を用いた材料損傷評価システムの開発 非破壊検査(株)安全工学研究所 横野泰和 ③ JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法」の国際規格との整合化に向けて NDI 溶接部の超音波探傷研究委員会 3060 改正準備検討委員会 WGリーダー 名取孝夫((株)ジャスト研究所) ④ 中東・アフリカ圏の検査技術の実情 エヌケーテクノス(株) 山崎利一 特別講演:JSNDIにおける新しい認証制度の発足について NDI 認定試験準備委員会委員長 金属材料技術研究所主任研究官 福原熙明 (財)発電設備技術検査協会鶴見試験研究センター研究参事 岸上守孝 新年会開催 参加者44名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 3回(参加者41名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回(参加者235名) ③ 鉄骨溶接部の超音波探傷技術講習会(参加者19名)

懇親会



千葉の地酒を鑑評



日本を代表するプローブメーカー



白井, 福原, 藤盛の名氏



木村先生と星川先生



恒例の懇親会風景

## 平成10年度(1998年度)活動事業

行 事	第17回(平成10年度)総会
期日・場所	平成10年7月17日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	<p>第三代会長に星川 洋 日本大学生産工学部教授が就任</p> <p>特別講演:「超大型浮体式構造物(メガフロート)の特徴と施工法」</p> <p>講師:川鉄テクノリサーチ(株)技術支援センター 中野昭三郎</p> <p>懇親会開催 参加者41名</p>

行 事	第13回研究発表会
期日・場所	平成11年2月2日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	<p>① 耐圧ポリエチレンリブ管の超音波探傷法の実験的検討</p> <p>ジャパンプローブ(株) 高橋雅和</p> <p>大日本プラスチック(株) 時吉充亮</p> <p>② 円柱面エコー<math>N_3'</math>による横波音速および弾性定数の測定</p> <p>(株)トキメックエンジニアリング 若林弘夫</p> <p>(株)トキメック 茂木良平, 鬼丸昭夫</p> <p>③ SH波探傷用の新しい接触媒質の開発</p> <p>日合アセチレン(株) 上坂和雄, 大橋 剛, 新谷和也</p> <p>④ 超音波フェイズドアレイシステムによる新技法の確立</p> <p>R/D Tech Japan ドミニク ブラコニエ</p> <p>栄進化学(株) 江原英治</p> <p>⑤ 高温用接触媒質の横波(SH波)への適用</p> <p>石川島検査計測(株) 熱田美道</p> <p>⑥ 鋼溶接部の超音波自動探傷装置 IMPACT(AUT1000)の紹介</p> <p>日本クラウトクレーマー(株) 南 康雄, 坂代一郎</p> <p>⑦ 無害なきずと有害なきずを見分けるために</p> <p>(財)発電設備技術検査協会 岸上守孝</p> <p>⑧ 遅延材と接触媒質の組合せによる探傷感度に及ぼす表面粗さの影響</p> <p>(株)検査技術研究所 林 栄男, 岡 賢治</p> <p>木村超音波探傷研究所 木村勝美</p> <p>(株)ジャスト研究所 名取孝夫</p>

	新年会開催 参加者47名
--	--------------

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 4回 (参加者29名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者175名)

総会



みやぎき倶楽部にて平成10年度総会



第三代会長に星川洋教授就任



特別講演 中野昭三郎氏



木村勝美先生

研究発表会



高橋雅和氏



南 康雄氏



発表後ドミニク氏へ記念品

## 平成11年度(1999年度)活動事業

行 事	第18回(平成11年度)総会
期日・場所	平成11年7月2日 清水建設(株)技術研究所
内 容	<p>風戸裕侑 機械金属試験場長が副会長に就任</p> <p>特別講演:「歴史的建造物の保全技術開発」</p> <p>講師:清水建設(株)技術研究所建築研究開発部</p> <p>計画技術グループ 歴史的建造物保存チーム主席研究員 羽根 義</p> <p>見学会 清水建設(株)技術研究所施設</p> <p>研究所会議室にて懇親会の開催, 藤盛紀明氏の研究所長就任を祝う</p> <p>神奈川県非破壊試験技術交流会から名取事務局長, 東北非破壊検査研究会から木村武美氏が参加し, 地方研究会との交流を行う。 参加者 46名</p>

行 事	第14回研究発表会
期日・場所	平成12年2月10日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	<p>発表テーマ</p> <p>① エアーカップリング超音波探傷装置 AIRSCAN (原理とその応用)</p> <p>日本ソナテスト(株) 森谷茂樹, 深田 修</p> <p>② 新型デジタル探傷器 sonostar-100 の紹介</p> <p>(株)トキメック 新実信夫</p> <p>③ エクスロン・インターナショナル(株)のNDT機器の紹介</p> <p>エクスロン・インターナショナル(株) 相田健二</p> <p>④ 非破壊検査に関する検査・測定事例</p> <p>1)管内走行診断装置(モグラ)のフィールドサービス例の紹介</p> <p>2)広領域配管検査装置(ThruVU)のビデオ紹介</p> <p>(株)シーエックスアール千葉営業所 藤岡克美</p> <p>⑤ JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法」改正の概要</p> <p>FUT研究所 福原熙明</p> <p>⑥ 広帯域表面波による高性能ロール表面探傷技術の開発</p> <p>川崎製鉄(株) 高田 一</p> <p>新年会開催 参加者48名</p>

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 4回 (参加者46名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回 (参加者176名)

総会



研究所長・藤盛紀明氏の御挨拶



羽根義氏の特別講演



シーエックスアール(株)中野会長のスピーチ



懇親会スナップ



## 平成12年度(2000年度)活動事業

行 事	第19回(平成12年度)総会
期日・場所	平成12年7月11日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	鈴木義衛 機械金属試験場長が副会長に就任 特別講演:「エックス線が見つけた鉄剣銘文が語るもの」 講師: 国立歴史民俗博物館 副館長 白石太一郎 懇親会開催 参加者43名

行 事	第15回研究発表会
期日・場所	平成13年1月31日 千葉県機械金属試験場
内 容	発表テーマ ① TOFD 法に関する基礎実験(その1) ジャパンプローブ(株) 高橋雅和 ② TOFD 法に関する基礎実験(その2) ジャパンプローブ(株) 高橋雅和 ③ 青色 LED 照明の蛍光浸透探傷試験及び蛍光磁粉探傷試験への適用 栄進化学(株) 相村英行 ④ 超音波自動探傷装置の開発 ジャスト研究所(株) 名取孝夫 ⑤ フリーディスカッション: NDI 認証・認定問題を考える 新年会開催 参加者52名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 4回(参加者44名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回(参加者194名)

総会



白石太一郎氏の講演



第19回総会

研究発表会



ジャパンプローブ(株) 高橋雅和氏の発表



ジャスト研究所(株) 名取孝夫氏の発表

懇親会



白井顧問のコメント



発表者 栄進化学(株)相村氏への記念品贈呈

## 平成13年度(2001年度)活動事業

行 事	第20回(平成13年度)総会
期日・場所	平成13年6月27日 千葉県機械金属試験場
内 容	<p>第四代会長に白井越朗 日本溶接構造専門学校教授が就任          齊藤博之 機械金属試験場長が副会長に就任</p> <p>・特別講演:「TOFD法の周辺」          講師:東北大学大学院工学研究科助教授 三原 毅</p> <p>・TOFD 法探傷の実演          日本マテック(株) upi-50, R/D Tech・Asia(株) マイクロトモスキャン          ダイヤ電子応用(株) fine TOFD-2000</p> <p>懇親会開催 参加者62名</p>

行 事	第16回研究発表会
期日・場所	平成14年2月14日 川崎製鉄(株)みやざき倶楽部
内 容	<p>溶接部のパス間温度と品質管理セミナー</p> <p>① 最近の鉄骨用大入熱溶接材料について          川崎製鉄(株)本社棒線セクター室 山口忠政</p> <p>② 鉄骨製作者からのパス間温度・入熱管理          駒井鉄工(株) 鉄構エンジニアリングセンター技術開発部 横山幸夫</p> <p>③ パス間温度測定法の実際          (株)ジャスト 笠原基弘</p> <p>④ 建築鉄骨溶接部の入熱・パス間温度の設定と管理          清水建設(株) 建築本部技術部 倉持 貢</p> <p>⑤ 溶接施工方法と溶着金属の機械的性質          千葉県機械金属試験場 立川克美</p> <p>⑥ 建築基準法の改正と溶接部の品質          日本建築行政会議構造部会 部会長 東京都都市計画局建築指導課 春原匡利</p> <p>⑦ 設計上から見た温度管理          (株)日建設計 構造設計室 津山 巖</p> <p>⑧ パネルディスカッション パネラー全員</p> <p>新年会開催 参加者93名</p>

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 3回開催 (参加者24名) ② 磁気・浸透2種技術者試験対策講習会 2回開催 (参加者160名) ③ 超音波自動探傷試験講習会 共催:神奈川県非破壊試験技術交流会 (参加者8名)

行 事	創立20周年記念行事
期日・場所	平成13年9月29日, 9月30日 記念式・特別講演会場:千葉県鴨川市ホテル海光苑 祝賀会場:ホテル海光苑 大宴会場
内 容	① 挨拶:白井越朗会長 ② 祝辞:社団法人日本非破壊検査協会会長 星川 洋 祝辞:神奈川県非破壊試験技術交流会副会長 山田尚雄 ③ 表彰者:東京大学名誉教授(第二代会長) 丹羽 登 表彰者:日本大学生産工学部教授(第三代会長) 星川 洋 表彰者:日本溶接構造専門学校教授(研究会顧問) 白井越朗 表彰者:財団法人発電設備技術検査協会(研究会顧問) 岸上守孝 表彰者:清水建設(株)技術研究所長(研究会顧問) 藤盛紀明 表彰者:川崎製鉄(株)千葉製鉄所(研究会永年幹事) 守井隆史 ④ 研究会20年の歩み 千葉県非破壊検査研究会 事務局長 立川克美 ⑤ 特別講演 光ファイバーセンサーを用いた都市インフラのモニタリング 講師:清水建設(株)技術研究所 工学博士 柴 慶治 ⑥ 祝賀会:ホテル海光苑宴会場にて開催。参加者25名(招待者5名)

総会



特別講演 三原 毅 東北大学助教授



第20回総会風景

## 平成14年度（2002年度）活動事業

行 事	平成14年度総会
期日・場所	平成14年6月27日 千葉県機械金属試験場
内 容	平成13年度会務報告及び平成14年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「JIS Z 3060-2002鋼溶接部の超音波探傷方法について」 講師: (株)ジャスト研究所 名取孝夫

行 事	第17回研究発表会
期日・場所	平成15年2月14日 幕張テクノガーデン
内 容	発表テーマ ① モニタリング技術・FSMの紹介 (株)アトラス 有田圭介 ② 新製品, 携帯型成分分析計“XLtシリーズ”について (株)リガク 遠山恵夫 ③ Θプローブとその応用 マークテック(株) 廣島龍夫 ④ 企業内におけるNDT技術者の訓練・資格認定 (株)日鐵テクノリサーチ 木村新一郎 ⑤ ソフトプローブとその使用方法の紹介 ジャパンプローブ(株) 岩橋 充 ⑥ 超音波可視化について (株)ジャスト研究所 名取孝夫 ⑦ 探傷結果表示の高性能化による圧延ロール微小表面欠陥検出 川崎製鉄(株) 技術研究所 高田 一 特別講演「原子力設備と非破壊検査の将来性 (東電問題等と今後の検査の方向性)」 講師: 東京工業大学大学院 教授 小林英男 (JSNDI会長)
行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会座学 2回, 実技講習会2回 (参加者48名) ② MT/PT NDI二次試験対策講習会2回 (参加者226名)

## 総会

特別講演は、改正されたJIS Z 3060:2002「鋼溶接部の超音波探傷試験方法」について、担当幹事より説明を行った。

## 研究発表会



(株)リガク 遠山恵夫氏



(株)ジャスト研究所 名取孝夫氏



特別講演の東京工業大学教授 小林英男氏



懇親会場の模様



星川元会長と高橋氏



小林先生を囲んで

## 平成15年度（2003年度）活動事業

行 事	平成15年度総会
期日・場所	平成15年7月4日 JFE スチール(株)みやざき倶楽部
内 容	平成14年度会務報告及び平成15年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「超音波探傷器発展の歴史と将来像」 講師:元三菱電機(株) 鎌倉製作所 松山 宏 参加者30名

行 事	第18回研究発表会
期日・場所	平成16年2月6日 幕張テクノガーデン
内 容	発表テーマ ① 広領域配管検査装置（スルーVU）の利用法拡大について （株）シーエックスアール 新川茂雄 ② ソフトプローブによる溶接部の探傷 ジャパンプローブ(株) 高橋雅和 ③ デジタル超音波探傷器UI-25の紹介 湘菱電子(株) 市川 英 ④ UVミニライトの紹介 栄進化学(株) 相村英行 ⑤ 千葉県非破壊検査研究会HPの紹介 JFE 技研(株) 高田 一 ⑥ フェイズドアレイ超音波探傷装置PAL-2 日本クラウトクレマー(株) 後河内薫 ⑦ 3D超音波検査装置の紹介 東芝(株) 唐沢博一 特別講演「超音波探傷試験による再循環系配管サイジング（寸法測定）精度向上に関する確性試験について」 講師：(財)発電設備技術検査協会 鶴見試験研究センター 古川 敬 氏 参加者47名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者41名) ② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者127名)
行事	ホームページの開設
内容	千葉県非破壊検査研究会ホームページの開設

## 総会

特別講演に元三菱電機(株)鎌倉製作所松山宏氏をお招きした。松山氏は、三菱電機製の超音波探傷器や自動探傷器の開発に深く携わるとともに、JSNDIにおいても超音波探傷に関わる諸規格の制定に尽力された。ご講演ではアナログ探傷器から最近のデジタル探傷器まで、周辺技術の進歩と共に進化したお話を解説していただいた。

## 研究発表会

非破壊試験におけるきずのサイジングに応えるべく、JSNDIではPD(Performance Demonstration)対応の資格認証が話題となった。この分野で豊富な研究成果を挙げている(財)発電設備技術検査協会鶴見試験研究センター古川敬氏にご講演をいただいた。



## 平成16年度（2004年度）活動事業

行 事	平成16度総会
期日・場所	平成16年7月13日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成15年度会務報告及び平成16年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「宇宙航空研究開発機構における国産旅客機開発への取り組み」 講師:(独)宇宙航空研究開発機構 新型航空機技術開発センター 中道二郎 参加者38名

行 事	第19回研究発表会(神奈川県非破壊試験技術交流会との合同開催)
期日・場所	平成16年12月3日 君津勤労者総合福祉センター
内 容	発表テーマ ① 超音波プローブアレイを用いた薄鋼板のオンライン内部探傷技術 JFE 技研(株) 高田 一 ② 磁化ECTの検出信号とノイズ信号の数値解析による評価 職業能力開発総合大学校 浅井晃一 ③ 電磁誘導を利用した溶接線の検知について 日本大学大学院 成瀬 譲 ④ 超音波厚さ計用探触子の音場とエコー 神奈川県産業技術総合研究所 山田尚雄 ⑤ 航空機の構造について (独)宇宙航空研究開発機構 松嶋正道 ⑥ モード変換波法に関する実験的検討 ジャパンプローブ(株) 高橋雅和 ⑦ 隅角部3溶接線交差部のWEB面からの超音波自動探傷装置 (株)東京鐵骨橋梁技術研究所 稲葉正利 ⑧ J I S 技量認定の問題点と海外訓練センター事情 サイテックアソシエーツ 柳 千秋 見学会東京電力富津火力発電所 懇親会新日本製鐵(株)君津製鉄所の「新大和田クラブ」 参加者60名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会座学3回, 実技講習会2回 (参加者59名) ② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者96名)

総会



JAXA中道二郎氏の特別講演  
国産旅客機開発への取り組みについてのご講演

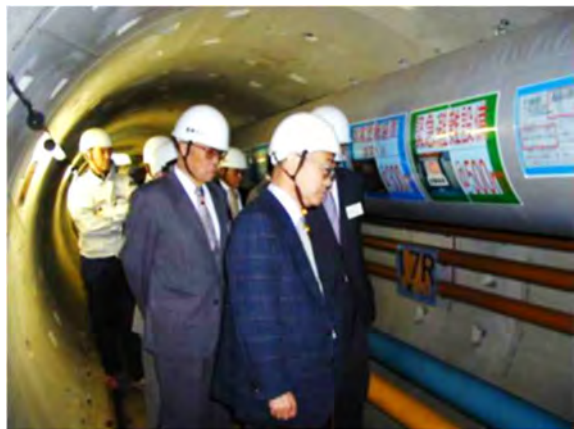


懇親会

研究発表会 (CNDIと神奈川県非破壊試験交流会との合同研究発表会)



千葉・神奈川合同研究発表会の模様



千葉から神奈川へ送る天然ガス導管トンネルの見学



神奈川交流会メンバーとの歓談(1)



神奈川交流会メンバーとの歓談(2)

新日本製鐵(株)君津製鐵所の「新大和田クラブ」を会場にして両研究会の懇親を深めた。

## 平成17年度（2005年度）活動事業

行 事	平成17年度総会
期日・場所	平成17年6月27日 JFE みやざき倶楽部
内 容	平成16年度事業報告及び平成17年度事業計画会計報告及び予算案審議 特別講演：「非破壊分析と古文書の真偽」 講師：国立歴史民俗博物館 歴史研究系助教授 高橋一樹 参加者40名

行 事	第20回研究発表会（神奈川県非破壊試験技術交流会との合同開催）
期日・場所	平成18年2月10日 東京都大田区産業プラザ
内 容	発表テーマ ① 応力塗料膜（ストレスマークⅡ）のひずみ感度特性と応力測定 関東学院大学工学部 宮武俊弘 MTC(株) 長嶋和雄 ② 空気式超音波探傷のCFRPへの適用 (独)宇宙航空研究開発機構 松嶋正道 千葉県産業支援技術研究所 長瀬尚樹 ③ ソフトプローブによる溶接部のキズ高さ測定の検討 ジャパンプローブ(株) 高橋雅和 ④ CNDI活動のネットワーク化の紹介 JFE 技研(株) 高田 一 ⑤ 電磁気法を用いた連続板厚測定装置をSLOFCESF400の紹介 日本工業検査 鈴木力雄 ⑥ CNDIにおけるTOFD共同研究事業の紹介 千葉県産業支援技術研究所 立川克美 特別講演会：「技術者の倫理」 講師：(社)日本機械学会工学教育センター 長大輪武司氏 見学会 J A L 羽田新整備工場 懇親会東京都大田区産業プラザ内レストラン 参加者62名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者50名) ② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者158名)

行事	共同研究
内容	千葉県産業支援技術研究所との共同研究「TOFD法によるきず評価に関する研究」 参加企業11社

## 総会



国立歴史民俗博物館 高橋一樹教授の講演



懇親会

考古学の世界でも非破壊試験は活躍をしている。過去にも考古学にまつわる特別講演を2回開催。

## 研究発表会



見学会参加メンバーで記念撮影



千葉・神奈川合同研究発表会

前年に続いて、神奈川県非破壊検査交流会との共同開催を実施。今回の会場は神奈川県。羽田の日本航空整備工場を見学、大田区産業プラザで発表会と懇親会を開催。

## 平成18年度（2006年度）活動事業

行 事	平成18年度総会
期日・場所	平成18年7月12日 ホテルポートプラザちば
内 容	平成17年度会務報告及び平成18年度事業計画、役員改選ほか 特別講演会：「最近のNDT機器メーカーの再編について」 講師：日本クラウトクレマー(株) 社長 小林洋治氏 参加者35名 白井越朗会長が勇退し、岸上守孝新会長就任

行 事	第21回研究発表会
期日・場所	平成19年2月9日 JFE みやざき倶楽部
内 容	発表テーマ ① ポータブル探傷器ABCモードの開発 菱電湘南エレクトロニクス(株) 市川 英 ② 3D超音波検査装置による溶接検査等への応用 (株)東芝電力・社会システム社 唐沢博一 ③ CFRPの超音波探傷評価 (独)宇宙航空研究開発機構 複合材技術開発センター 松嶋正道 ④ 探傷感度に及ぼす曲率の影響に関する一実験 (株)ジャスト研究所 名取孝夫 ⑤ TOFD法による溶接きずの検出と指示長さ測定 清水建設(株)技術研究所 立川克美 特別講演会：故丹羽登先生追悼講演「丹羽先生を偲ぶ」 講師：元金属材料技術研究所 木村勝美 参加者44名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会座学2回、実技講習会2回（参加者73名） ② MT/PT NDI試験対策講習会2回（参加者145名）

行 事	共同研究事業
内 容	<p>17年度千葉県産業支援技術研究所と実施したTOFD法のきず評価に関する共同研究の結果について、データ整理と結果に対する検討作業を行うと共に追加実験を実施。</p> <p>期間平成18年4月～平成19年2月</p> <p>場所千葉県産業支援技術研究所等</p> <p>中間報告会平成18年5月10日 参加者22名</p> <p>成果報告会平成19年1月24日 参加者17名</p> <p>場所：千葉県産業支援技術研究所</p> <p>平成19年1月24日千葉県産業支援技術研究所にて、共同研究報告会。</p> <p>平成19年1月31日（社）日本非破壊検査協会「超音波による非破壊評価シンポジウム」にて発表。参加企業11社</p>

総会



特別講演 日本クラウトクレーマー(株)小林洋治社長



新会長に岸上守孝氏就任

研究発表会



平成18年11月25日丹羽登元会長が逝去  
追悼講演「丹羽先生を偲ぶ」  
元金属材料技術研究所 木村勝美氏



故 丹羽 登先生に献杯

## 平成19年度（2007年度）活動事業

行 事	平成19年度総会
期日・場所	平成19年7月13日 JFE みやざき倶楽部ミューズホール
内 容	平成18年度会務報告及び平成19年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演会:「最近の金属疲労の事故について」 講師: 横浜国立大学教授 小林英男 参加者35名

行 事	第22回研究発表会
期日・場所	平成20年2月21日 幕張テクノガーデン
内 容	発表テーマ ① 高圧ガス配管の腐食・劣化診断技術 (株)シーエックスアール 田邊有作, 佐藤 学, 白石宜時 ② 2層式エキスパンションバローズの内面腐食検査方法の開発 出光エンジニアリング(株) 四辻美年, 非破壊検査(株) 広田信明 ③ 非接触空中超音波探傷技術の現状と課題 ジャパンプローブ(株) 高橋雅和, 星野秀和, 小倉幸夫 ④ TOFD法による溶接きず高さの測定 千葉県非破壊検査研究会 立川克美, (株)ジャスト研究所 名取孝夫 千葉県産業支援技術研究所 長瀬尚樹 ⑤ 超音波フェイズドアレイ技術の突合せ溶接部と摩擦攪拌溶接部への適用例 オリンパス(株) 山本優一郎 ⑥ フェイズドアレイ搭載超音波探傷器Phasor XSの使用例 日本ITeS(株) 坂代一郎 ⑦ ラインフォーカス開口合成法を用いた厚肉鋼材超音波探傷法の検討 JFE 技研(株) 松井 穰, 飯塚幸理 ⑧ 渦電流探傷θプローブによるCFRPの欠陥検出について 日本大学生産工学部 三木公輔, 小山 潔, 星川 洋 ⑨ 超音波によるCFRPの欠陥評価 千葉県産業支援技術研究所 長瀬尚樹, 西川康博, 福島 清

	<p>⑩ CFRP構造の非破壊検査法</p> <p>(独)宇宙航空研究開発機構 複合材技術開発センター 松嶋正道</p> <p>特別講演会：「建設業のMOT」</p> <p>講師：清水建設(株)技術研究所顧問 (CNDI顧問) 藤盛紀明</p> <p>参加者47名</p>
--	--

行事	講習会
内容	<p>① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者77名)</p> <p>② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者147名)</p>
行事	共同研究報告
内容	<p>17年度千葉県産業支援技術研究所と実施したTOFD法のきず評価に関する共同研究の結果について, きず高さに関するデータ整理の結果を(社)日本非破壊検査協会超音波シンポジウムにて報告</p>

## 総会

開会に先立ち、東京エネシス(株)総合技術センターの見学会を開催。

午後は会場をみやぎき倶楽部に移し、特別講演としてエキスポランドの遊園地でジェットコースターの車軸が折れる事故が発生した件について、破壊力学の権威である小林英男先生にご講演いただいた。

## 研究発表会

特別講演では「建築業におけるMOT(Management of Technology)」と題し、藤盛紀明顧問よりご講演いただいた。



東京エネシス(株)総合技術センター  
工場及び検査設備見学



特別講演  
清水建設(株)技術研究所 藤盛紀明氏



## 平成20年度（2008年度）活動事業

行 事	平成20年度総会
期日・場所	平成20年7月8日 ホテルポートプラザちば
内 容	平成19年度会務報告及び平成20年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「建築構造物における超音波探傷検査の動向」 ① 鉄筋溶接継手部の新しい超音波探傷方法 ② 「鋼構造建築溶接部の超音波検査規準・同解説」08年改定の要点 講師: (社)日本鉄筋継手協会 (元清水建設(株)技術研究所) 倉持 貢

行 事	第23回研究発表会
期日・場所	平成21年2月13日 ホテルポートプラザちば
内 容	研究発表 ① ポータブルデジタル超音波探傷器の紹介 オリンパス(株)IMS国内販売部NDT東日本G 高田 泰 ② フェイズドアレイ搭載超音波探傷器Phasor XS Ver. 2の紹介 日本ITeS(株) 坂代一郎 ③ CFRPの材料特性に及ぼす吸水・環境温度の影響 千葉県産業支援技術研究所 長瀬尚樹 ④ 電磁誘導式4探針電位差プローブによる表面きず深さ評価について 日本大学生産工学部 星川 洋 特別講演:「石油タンク底部のAEグローバル診断技術」 講師: 横浜国大名誉教授 (神奈川県非破壊試験技術交流会会長) 関根 和喜 参加者28名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者69名) ② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者169名) ③ TOFD探傷法技術講習会 (神奈川県非破壊試験技術交流会との共催事業) 期日平成21年2月26, 27日 (2コース開催) 会場(株)東京エネシス総合技術センター (参加者20名)

行事	第1回検査テクノ談話室
内容	テーマ: フィルムを使用しないFCRなどの性能と利用状況 講師: GEインスペクション・テクノロジーズ・ジャパン(株) 下橋ひとみ シーエックスアール(株) 金森清貴 会場: シーエックスアール(株)千葉営業所 (参加者14名)

総会



岸上守孝会長のご挨拶



特別講演 (社)日本鉄筋継手協会 倉持 貢氏

研究発表会



特別講演 横浜国立大学 関根和喜名誉教授



活発な質疑応答

## 平成21年度（2009年度）活動事業

行 事	平成21年度総会
期日・場所	平成21年7月10日 JFE みやざき倶楽部ミュージックホール
内 容	<p>総会平成20年度会務報告及び平成21年度事業計画、役員改選ほか</p> <p>特別講演会：「建設業における環境技術の現状と未来（新エネルギーを中心として）」</p> <p>講師：清水建設(株)技術戦略室理事・副室長 竹林芳久</p> <p>懇親会 JFE みやざき倶楽部（1F：ミュージックホール）</p> <p>参加者27名</p> <p>岸上守孝会長が勇退し、藤盛紀明新会長就任</p>

行 事	第24回研究発表会
期日・場所	平成22年2月25日 JFE みやざき倶楽部ミュージックホール
内 容	<p>研究発表4テーマ</p> <p>① 低周波電磁誘導探傷による配管腐食点検 (有)テストックス・ジャパン 木本三四郎</p> <p>② U・Masterと弊社が現在開発しているロボット等による検査について 新日本非破壊検査(株) 鹿毛信治</p> <p>③ タンク底板の腐食等へのガイド波探傷技術の適用 出光エンジニアリング(株) 四辻美年</p> <p>④ 最近のデジタル型超音波探傷器及びNDI仕様の超音波探傷器の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GタイプGEインスペクション・テクノロジーズ・ジャパン坂代一郎(日本ITeS)</li> <li>・Rタイプ菱電湘南エレクトロニクス(株) 市川 英</li> <li>・JSNDI仕様のGタイプ, Rタイプ実機のデモ</li> </ul> <p>特別講演会：「各種UT計測装置の開発例と今後の超音波探傷装置の方向性」</p> <p>講師：(株)ジャスト研究所 名取孝夫</p>

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者71名) ② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者150名)
行 事	第2回検査テクノ談話室
内 容	場所：市原市新日本非破壊検査(株)関東支社 (参加者14名) テーマ：道路橋における超音波探傷検査の検出レベル AUT検出レベル決定の経緯と実験成果について 国交省が目指す鋼橋のメンテとこれからの橋梁UT検査の動向 講師：(独)土木研究所構造物メンテナンス研究センター 橋梁構造研究グループ主任研究員 高橋 実 氏
行 事	第3回検査テクノ談話室
内 容	場所：ダンテック(株)千葉事業所 (参加者11名) テーマ：最近の浸透探傷技術 講師：栄進化学(株)スタッフ

## 総会



第六代目 藤盛紀明会長就任の御挨拶



特別講演 清水建設(株) 竹林芳久氏

## 研究発表会

近年、超音波探傷器はアナログタイプからデジタルタイプへの移行が著しく、JSNDIの認証試験においてもNDIが仕様を決めた探傷器が認証試験で使用されることとなった。

菱電湘南エレクトロニクスのRタイプとGEインスペクション・テクノロジーズ・ジャパンのGタイプ探傷器についての説明とデモを行った。

## 平成22年度（2010年度）活動事業

行 事	平成22年度総会
期日・場所	平成22年7月26日 JFE みやざき倶楽部ミュージックホール
内 容	平成21年度会務報告及び平成22年度事業計画、役員改選ほか 特別講演：「イメージベースの超音波探傷」 講師：東京工業大学大学院研究科 教授 廣瀬壯一 参加者44名

行 事	第25回研究発表会
期日・場所	平成23年2月4日 JFE みやざき倶楽部ミュージックホール
内 容	研究発表テーマ 探傷装置メーカーの発表及び実演4件 ① 栄進化学(株) ② GEセンシング&インスペクションテクノロジーズ(株) ③ 日本クラウトクレマー(株) ④ オリンパス(株) 特別講演：「フェーズドアレイ法の現状と規格案について」 講師：富山大学教授 三原 毅 参加者54名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会座学2回、実技講習会2回（参加者69名） ② MT/PT NDI試験対策講習会2回（参加者150名）

行 事	第4回検査テクノ談話室
内 容	場所：(株)日鐵テクノリサーチ検査・計測事業部君津センター テーマ：フェイズドアレイUT技術と簡易蛍光エックス線分析 フェイズドアレイUTおよび簡易蛍光エックス線分析の概要（座学） フェイズドアレイUTの実際（装置を用いてのデモ） 簡易蛍光エックス線分析の実際（装置を用いてのデモ） 講師：(株)日鐵テクノリサーチのスタッフ

## 総会

近年JSNDIの研究発表や協会誌において超音波の伝搬シミュレーションに関する発表件数が増えてきた。東京工大の廣瀬壮一教授をお招きし、先生のご研究と画像についてのご講演をいただいた。



特別講演講師 廣瀬壮一教授の紹介



質問も活発

## 研究発表会

富山大学の教授三原 毅氏をお招きし、超音波探傷の先端的な技術であるフェーズドアレイ探傷法の現状と規格化への取り組みについてご講演いただくと共に、CNDI会員企業でフェーズドアレイ探傷装置を販売しているメーカーに展示とデモをお願いした。



栄進化学(株)



特別講演 富山大学教授 三原 毅氏

## 平成23年度（2011年度）活動事業

行 事	平成23年度総会, 30周年記念式典
期日・場所	平成23年7月8日 ホテルザ・マンハッタン
内 容	<p>総会研究会創立30周年記念式典に先立ち開催</p> <p>平成22年度会務報告及び平成23年度事業計画, 役員改選ほか 参加者数46名 (委任状18名)</p> <p>創立30周年記念式典</p> <p>会長挨拶 藤盛紀明</p> <p>来賓祝辞 (敬称略)</p> <p>(1) 千葉県商工労働部 次長 影山美佐子</p> <p>(2) (社)日本非破壊検査協会 会長 横野泰和</p> <p>(3) 協同組合千葉県鐵骨工業会 理事長 鈴木正一郎</p> <p>(4) 神奈川県非破壊試験技術交流会 会長 荒川敬弘</p> <p>研究会創立の頃 CNDI顧問 白井越朗</p> <p>表彰 武藤明義, 立川克美</p> <p>受賞者挨拶 武藤明義</p> <p>研究会30年の歩み 立川事務局長</p> <p>記念講演演題: 小惑星探査機「はやぶさ」の帰還と宇宙機器の品質管理</p> <p>講師: (独)宇宙航空研究開発機構</p> <p>月・惑星探査プログラムグループ プログラムディレクタ教授 川口淳一郎氏</p> <p>聴講者98名</p> <p>記念祝賀会 参加者48名</p>



記念講演 (独)宇宙航空研究開発機構 川口淳一郎氏



記念祝賀会

行 事	第26回研究発表会
期日・場所	平成24年2月7日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	<p>研究発表7件</p> <p>① CNDIIにおける最近の資格取得講習会の現状 千葉県非破壊検査研究会 立川克美</p> <p>② 低温及び高温の浸透探傷試験の紹介 栄進化学(株) 茨城工場化学技術課 斎藤他忠</p> <p>③ デジタル超音波探傷器の機能と応用例の紹介 菱電湘南エレクトロニクス(株) 検査計測事業部システム部 岡本 実</p> <p>④ 石油・プラント業界におけるNDTの現状 出光エンジニアリング(株)エンジニアリング部設備技術グループ 長谷川勝宣</p> <p>⑤ 航空機におけるCFRP検査の現状—航空機構造のCFRP部位非破壊評価— (独)宇宙航空研究開発機構 松嶋正道</p> <p>⑥ 鉄鋼業におけるNDTの現状 JFE テクノリサーチ(株) 高田 一</p> <p>⑦ 建築鉄骨業界におけるNDTの現状 エンジニアリングサービス(株) 上平綱昭</p> <p>特別講演会東日本大震災からの復興を目指して 地域の自然・文化を考慮した個性ある街づくり提案 講師：千葉県非破壊検査研究会会長（北東北歴史懇話会会長） 藤盛紀明</p> <p>懇親会千葉県産業支援技術研究所会議室 (発表会 参加者45名, 懇親会 参加者29名)</p>

行 事	講習会
内 容	<p>① 超音波探傷技術講習会座学2回, 実技講習会2回 (参加者25名)</p> <p>② MT/PT NDI試験対策講習会2回 (参加者120名)</p>



行 事	第5回検査テクノ談話室 他
内 容	<p>① 検査テクノ談話室</p> <p>場所：新日本非破壊検査関東営業所（参加者10名）</p> <p>テーマ：鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験の実際</p> <p>講師：(社) 日本鉄筋継手協会 倉持 貢氏</p> <p>② ヒハカイ星からやってきたノンディ～ひはかいけんさ体験学習～への参加</p> <p>主催：(社) 日本非破壊検査協会，共催：千葉県立現代産業科学館</p> <p>場所：千葉県立現代産業科学館1F企画展示室</p> <p>CNDI, JUST研究所, 検査技術研究所3者の共同出展</p> <p>③ 「明日を担う次世代のための非破壊検査セミナー」開催協力</p> <p>CIW検査業協会, 日本非破壊検査協会, 日本溶接技術センター, 日本非破壊検査工業会の4団体による共催事業に協力</p> <p>場所：千葉県旭市千葉県立東総工業高校</p>

千葉県非破壊検査研究会はめでたく30周年を迎えることができた。約1年半かけて、式典等の準備を進めてきた。ビッグイベントであるため、式典のはじめに平成23年度総会を開催し、記念式典、記念講演、祝賀会開催のスケジュールとした。

## 研究発表会

東日本大震災の津波により壊滅的な被害を受けた地域の復興について、地域再生の街づくりのご講演を藤盛会長にお願いした。

震災で延期した第5回検査テクノ談話室の開催，JSNDI主催の小中学生を対象とした非破壊検査の体験学習にも参加した。



特別講演の藤盛紀明会長



発表された方に記念品の贈呈

### 検査テクノ談話室



ガス圧接継手及び溶接継手の超音波探傷方法について

### JSNDI行事ヒハカイ星からやってきたノンディ（千葉県立現代産業科学館にて）



展示コーナー  
TOFD装置、フェーズドアレイ装置



展示コーナー  
金魚の水浸探傷を実演



展示コーナー  
TOFD装置の体験



藤盛会長も陣中見舞い・ノンディと記念撮影

## 平成24年度（2012年度）活動事業

行 事	平成24年度総会
期日・場所	平成24年7月13日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成24年度会務報告及び平成25年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「厚鋼板と超音波探傷の因縁」 講師: 元JFEスチール(株) 東日本製鉄所千葉地区 守井隆史 懇親会開催 参加者21名

行 事	第27回研究発表会
期日・場所	平成25年2月9日 JFEみやぎ倶楽部ミュージックホール
内 容	研究発表6件 参加者数43名 ① ベルコンチェッカー (ベルトコンベアーのRTによる自動観察器) 新日本非破壊検査(株)関東支社 中村友香 ② 最新の2D, 3D非破壊検査 (株)リガク NDTイメージング事業部開発設計部 佐藤貴久 ③ 最新のデジタルRT機器のご紹介 GEセンシング&インスペクション・テクノロジーズ(株) 鈴木啓之 ④ 工業用専用CR「ケアストリームHPX-1デジタルシステム」 ケアストリームヘルス(株)マーケティング本部NDTグループ 山崎昭二 ⑤ マルチデバイス対応 X線画像処理ソフトウェア nPIAのご紹介 ポニー工業(株)技術本部ソフト開発課 松尾 勉 ⑥ コンピューテッドラジオグラフィの検査現場適用例と今後の課題 (株)シーエックスアール 藤岡克美 特別講演「最近のデジタルラジオグラフィ技術及び国際規格に関連したJIS Z 3104の方向性」 講師: ものつくり大学 特任教授 (JSNDI, ISO委員長) 大岡紀一 懇親会開催 参加者36名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会2回 (参加者55名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 2回 (参加者111名)

行 事	検査テクノ談話室
内 容	第6回検査テクノ談話室 場所：新日本非破壊検査(株)関東支社 期日：平成25年2月16日 テーマ：最近のMT装置等の紹介及びMT資格試験合格率UP対策

## 総会



特別講演を行う守井氏



石井副会長による乾杯

## 研究発表会



研究発表の新日本非破壊検査(株) 中村氏



特別講演のものづくり大学特任教授 大岡氏

## 平成25年度（2013年度）活動事業

行 事	平成25年度総会
期日・場所	平成25年7月17日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成25年度会務報告及び平成26年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「レーダー探査の発展と最近の技術動向」 講師:三菱電機(株)情報技術総合研究所 電子システム技術部長 岡村 敦 懇親会開催 参加者30名

行 事	第28回研究発表会・特別講演会
期日・場所	平成26年2月13日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	研究発表7件 ① JIS規格制定におけるCNDIとの関わり 立川INDTテクノ 立川克美 ② 2次元検出を利用した $\cos\alpha$ 法を用いた残留応力測定について パルステック工業株式会社 野末秀和 ③ 丸棒鋼用フェーズドアレイ自動超音波探傷装置の開発 菱電湘南エレクトロニクス株式会社 検査計測事業部 田中洋次 ④ MsTガイド波法による高所配管 架台接触部腐食検査への取り組み 株式会社シーエックスアール 田邊有作, 藤岡克美 ⑤ 配管に対する非破壊検査の応用技術 新日本非破壊検査株式会社関東支社 熊谷安紘 ⑥ コンクリート構造物の塩害・腐食調査手法の紹介 (蛍光X線分析による塩化物量測定, 分極抵抗法による腐食速度の推定) 日鉄住金テクノロジー株式会社 計測・検査事業部 金田尚志 ⑦ 社会インフラの維持管理におけるNDT適用事例 株式会社ダンテック関東支社 前川真一 特別講演:「鋼道路橋の維持管理 ー損傷事例と点検手法・調査技術の紹介ー」 講師:国土交通省所管 独立行政法人 土木研究所 (PWRI) 構造物メンテナンス研究センター (CAESAR) 橋梁構造研究グループ 主任研究員 高橋 実 懇親会開催 参加者29名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会2回 (参加者43名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 2回 (参加者95名)

行事	検査テクノ談話室
内容	<p>① 第7回検査テクノ談話室</p> <p>場所：新日本非破壊検査(株)関東支社</p> <p>期日：平成25年5月11日</p> <p>テーマ： ① 最近のTOFD探傷とNDIS2423について ② フェーズドアレイ探傷技術とNDIS化に向けた動き</p> <p>講師：(株)ジャスト研究所 名取孝夫</p> <p>② 第8回検査テクノ談話室</p> <p>場所：千葉県産業支援技術研究所 溶接室</p> <p>期日：平成25年11月7日</p> <p>テーマ： ① 溶接の基礎知識 (溶接用鋼材, 溶接材料, アーク特性等) ② 炭酸ガス半自動溶接 厚板の多層溶接実習, 被覆アーク溶接実習</p> <p>講師：立川INDTテクノ 立川克美</p> <p>③ 第9回検査テクノ談話室</p> <p>場所：日鉄住金テクノロジー 計測・検査事業部 計測検査技術センター</p> <p>期日：平成26年3月1日</p> <p>テーマ：X線による応力測定 (原理<math>\mu</math>x360の紹介)</p> <p>講師：日鉄住金テクノロジーおよびパルステック工業のスタッフ</p>



総会特別講演の三菱電機(株) 岡村氏



テクノ談話室での溶接実習

## 平成26年度（2014年度）活動事業

行 事	平成26年度総会
期日・場所	平成26年7月8日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成25年度会務報告及び平成26年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「非線形超音波（高調波）法による非破壊材料評価・検査」 講師: (有)超音波材料診断研究所, 名古屋工大名誉教授 川嶋紘一郎 懇親会開催 参加者32名

行 事	第29回研究発表会
期日・場所	平成27年3月11日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	研究発表5件 ① 超音波を用いた内部欠陥映像化技術に関する最近の話題 JFEテクノリサーチ(株) 高田 一 ② 社会インフラへのUT適用例 菱電湘南エレクトロニクス(株) 和高修三 ③ 渦流探傷器によるコーティング上からの溶接部検査 オリンパス株式会社 山内竜也 ④ UT研究・普及昔話 NPO国際建設情報研究所 藤盛紀明 ⑤ JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法」改正の動向 日本検査(株) 守井隆史 特別講演:「来たるべき巨大地震と気候変動に伴う災害への今後の対応」 講師: 清水建設(株)技術研究所 構造・生産技術センター所長 坂本眞一 懇親会開催 参加者34名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会2回 (参加者44名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 2回 (参加者74名)

行事	検査テクノ談話室
内容	<p>第10回検査テクノ談話室</p> <p>場所：市原市 新日本非破壊検査(株)</p> <p>期日：平成26年10月4日</p> <p>テーマ：蛍光X線分析計の原理,          蛍光X線分析計の応用事例,          蛍光X線装置の実機による測定</p>

## 総会



特別講演の名古屋工大名誉教授 川嶋氏



懇親会

## 研究発表会



特別講演の清水建設(株)技術研究所 坂本氏



懇親会 白井顧問による乾杯の挨拶



## 平成27年度（2015年度）活動事業

行 事	平成27年度総会
期日・場所	平成27年7月31日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成26年度会務報告及び平成27年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「複合材料の特質と非破壊評価について」 講師: (国研)宇宙航空研究開発機構 松嶋正道 懇親会開催 参加者28名

行 事	第30回研究発表会
期日・場所	平成28年2月16日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	録画ビデオ視聴 NHKクローズアップ現代 橋の”命綱” が危ない～公共工事にはびこる不正～ 特別講演:「検査の機能に関する考察」 講師: エンジニアリングサービス(株) 三浦邦敏 氏 意見発表3件 懇親会開催 参加者28名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会2回 (参加者50名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 2回 (参加者72名) ③ JIS Z 3060 改正のポイント解説講習会 (参加者36名)

行 事	検査テクノ談話室
内 容	① 第11回検査テクノ談話室 場所: 千葉県産業支援技術研究所 非破壊検査室 期日: 平成27年4月11日 テーマ: 「X線CT装置の取扱・実習」 ② 第12回検査テクノ談話室 場所: 市原市 新日本非破壊検査(株) 期日: 平成28年1月30日

テーマ：「フェイズドアレイは時代遅れ。次の新技術トモグラフィー・SAFT」  
デジタルフォーカス超音波探傷技術の紹介  
講師：日本マテック(株) 松島 勤

## 総会



特別講演の(国研)宇宙航空研究開発機構  
松嶋氏



懇親会 守井氏による一本締め

## 研究発表会



特別講演の検査業界の御意見番  
エンジニアリングサービス(株) 三浦氏



NHK クローズアップ現代が取り上げた不正検査  
に関する意見発表(株)ダンテック 高橋氏

## 平成28年度（2016年度）活動事業

行 事	平成28年度総会
期日・場所	平成28年7月12日 千葉県産業支援技術研究所
内 容	平成27年度会務報告及び平成28年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「電磁気を利用した非破壊試験研究の来し方行く末」 講師: 日本大学 生産工学部 小井戸純司 懇親会開催 参加者32名

行 事	第31回研究発表会
期日・場所	平成29年2月21日 ホテルポートプラザちば
内 容	研究発表4件 ① 赤外線サーモグラフィにおける, プラント設備の適用例とドローン機器の活用 日本アビオニクス(株) 遠藤 健 ② CFRP材の減肉の3D超音波カメラシステム・SonaCam・ソナテスト社製の適用 例と評価 ポニー工業(株) 金井大樹 ③ 配管架台接触部の減肉量評価法 新日本非破壊検査(株) 安全・品質管理課 長島麻衣 ④ LEDブラックライトの現状 栄進化学(株) 高橋義和, 目時修一, 相村英行 特別講演:「コンクリートに関する非破壊・微破壊試験方法の現状」 講師: 日本大学 生産工学部 教授 湯浅 昇 懇親会開催 参加者30名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会3回 (参加者54名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 4回 (参加者90名)

行事	検査テクノ談話室
内容	第13回検査テクノ談話室 場所：市原市 新日本非破壊検査(株) 期日：平成29年3月18日 テーマ：「インフラ調査士」資格認証制度 講師：(株)シーエックスアール 北尾和典

総会



特別講演 小井戸新会長



立川事務局長 退任記念品贈呈

研究発表会



日本アビオニクス(株) 遠藤氏



ポニー工業(株) 金井氏



新日本非破壊検査(株) 長島氏



特別講演の日本大学教授 湯浅氏

## 平成29年度（2017年度）活動事業

行 事	平成29年度総会
期日・場所	平成29年7月31日 ホテルポートプラザちば
内 容	平成28年度会務報告及び平成29年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「はやぶさからはやぶさ2へ:太陽系探査技術の過去・現在・未来」 講師: JAXA 宇宙科学研究所 宇宙飛翔工学研究系 准教授 津田雄一 懇親会開催 参加者29名

行 事	第32回研究発表会
期日・場所	平成30年2月6日 ホテルポートプラザちば
内 容	研究発表7件 ① 渦電流試験による鋼管の腐食検出における保護材の影響 日本大学大学院生産工学研究科 藤田佳秀 ② 炭素繊維強化プラスチックに対する渦電流探傷法に関する研究 日本大学大学院生産工学研究科 鳥海純一 ③ 炭素繊維複合ケーブルに対する非破壊検査法の検討 日本大学大学院生産工学研究科 本宮寛憲 ④ 「身の丈IoT」活用へ向けた実証事例 千葉県産業支援技術研究所 生産技術室 主任上席研究員 大谷大輔 ⑤ 超音波映像装置の適用事例について (株)日立パワーソリューションズ コンサルティングエンジニアリング本部 超音波装置システム部 主任技師 富田隆 ⑥ ヴェトナムの復興と最近の工業情勢 元JFEエンジニアリング(株) 山崎利一 ⑦ 松嶋正道氏を偲ぶ 立川INDTテクノ 立川克美 特別講演:「レーダによる社会インフラ非破壊検査の最新動向-MPLAによる探査事例のご紹介-」 講師: 三井造船(株) 機械・システム事業本部 社会インフラ統括部 電子・制御グループ 菅谷 篤 懇親会開催 参加者33名

行事	講習会
内容	① 超音波探傷技術講習会 座学2回, 実技講習会3回 (参加者38名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 4回 (参加者108名)

行事	検査テクノ談話室
内容	第14回検査テクノ談話室 場所：(株)検査技術研究所 期日：平成30年3月28日 テーマ：見学会

総会



特別講演のJAXA宇宙科学研究所 津田氏

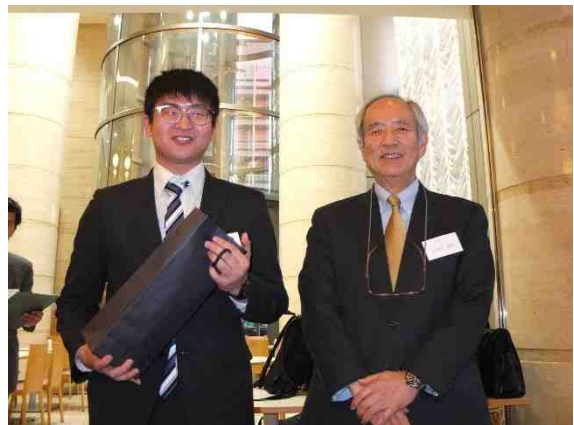


森副会長による乾杯

研究発表会



特別講演の三井造船(株) 菅谷氏



研究発表者への記念品贈呈

## 平成30年度（2018年度）活動事業

行 事	平成30年度総会
期日・場所	平成30年7月6日 ホテルプラザ菜の花
内 容	平成29年度会務報告及び平成30年度事業計画, 役員改選ほか 特別講演:「ディープラーニングを用いた医用画像識別の実現」 講師: 電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授 庄野 逸 懇親会開催 参加者22名

行 事	第33回研究発表会
期日・場所	平成31年2月15日 千葉県産業支援技術研究所 天台庁舎
内 容	研究発表5件 ① 保護材上からの鋼管腐食の渦電流試験による検出 日本大学生産工学部 電気電子工学科 藤田佳秀 ② 鋼材の渦電流試験におけるローレンツ力の影響についての基礎的検討 日本大学生産工学部 電気電子工学科 田村寛治 ③ 埋設材路面境界部の調査測定のプロ案～インフラ老朽化対策に即して～ (有)NS検査 新美久仁彦 ④ 高精細X線CT装置を利用した高炉水砕スラグと砂利の混合比管理の調査研究 千葉県産業支援技術研究所 材料技術室 研究員 松岡弘巳 ⑤ CNDI鉄骨溶接部超音波探傷回送実験のその後 立川INDTテクノ 立川克美 特別講演:「AI技術によるひび割れ自動検知を活用したコンクリート構造物の画像ベース 点検」 講師: (株)東設土木コンサルタント 事業推進部 営業統括グループマネージャー 多田佳史 懇親会開催 参加者29名

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 実技講習会4回 (参加者38名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 4回 (参加者139名)

行 事	検査テクノ談話室
内 容	第15回検査テクノ談話室 場所：新日本非破壊検査株式会社 期日：平成30年8月24日 テーマ：「デジタルラジオグラフィ」について

### 総会



特別講演の電気通信大学教授 庄野氏



庄野氏への記念品贈呈

### 研究発表会



特別講演の(株)東設土木コンサルタント 多田氏



懇親会 根本副会長による乾杯



## 平成31年、令和元年度（2019年度）活動事業

行 事	令和元年度総会
期日・場所	令和元年7月29日 千葉県産業支援技術研究所 天台庁舎
内 容	平成30年度会務報告及び平成31年、令和元年度事業計画、役員改選ほか 特別講演：「ポータブル3D超音波検査装置Matrixeyeとその適用例について」 講師：東芝電力検査サービス(株) 検査装置部 唐沢博一 懇親会開催 参加者27名

行 事	第34回研究発表会
期日・場所	令和2年2月21日 ホテルプラザ菜の花
内 容	研究発表6件 ① 回転 一様渦電流プローブによる溶接部の検出と追従機構の開発 日本大学生産工学部 電気電子工学科 今城拓也 ② 差動検出渦電流探傷プローブを用いたCFRP板のきず検出に関する研究 日本大学生産工学部 電気電子工学科 宇野雄輝 ③ FBGセンサを使用したCFRPのヘルスマモニタリングの検討 日本大学生産工学部 電気電子工学科 坂本翔平 ④ ローレンツ力を利用した渦電流試験による鋼材の探傷 日本大学大学院 生産工学研究科 田村寛治 ⑤ 屋内設備点検用『特殊球体ドローンELIOS』について 新和商事(株) 君津営業所 大熊直人 ⑥ ドローンをを用いた非破壊検査 新日本非破壊検査(株) 技術開発室 和田秀樹 特別講演：「プラスチック劣化と非破壊検査による評価」 講師：日本大学生産工学部マネジメント工学科 教授 酒井哲也

行 事	講習会
内 容	① 超音波探傷技術講習会 実技講習会4回 (参加者32名) ② MT/PT NDI 試験対策講習会 3回 (参加者59名)

総会



特別講演の東芝電力検査サービス(株) 唐沢氏



懇親会

研究発表会



会場全景



研究発表の新日本非破壊検査(株) 和田氏



特別講演の日本大学生産工学部教授 酒井氏



閉会挨拶の山田副会長  
(コロナ禍により懇親会は開催せず)

## 令和2年度（2020年度）活動事業

行 事	令和2年度総会
期日・場所	令和2年8月, 新型コロナウイルス（COVID-19）により書面議決
内 容	平成31年, 令和元年度会務報告及び令和2年度事業計画, 役員改選ほか

行 事	研究発表会
内 容	新型コロナウイルス（COVID-19）により中止

行 事	講習会
内 容	超音波探傷技術講習会 実技講習会3回（参加者35名） MT/PT NDI 試験対策講習会 2回（参加者45名）

## 令和3年度（2021年度）活動事業

行 事	令和3年度総会
期日・場所	令和3年8月, 新型コロナウイルス（COVID-19）により書面議決
内 容	令和2年度会務報告及び令和3年度事業計画, 役員改選ほか

行 事	研究発表会
内 容	新型コロナウイルス（COVID-19）により中止

行 事	講習会
内 容	超音波探傷技術講習会 実技講習会4回（参加者38名）

## 令和4年度（2022年度）活動事業

行 事	令和4年度総会, 40周年記念式典
期日・場所	令和4年11月10日 ホテル ザ・マンハッタン
内 容	<p>総会 研究会創立40周年記念式典に先立ち開催 令和3年度会務報告及び令和4年度事業計画, 役員改選ほか 創立40周年記念式典</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長挨拶</li> <li>・来賓祝辞（敬称略） <ul style="list-style-type: none"> <li>① 千葉県商工労働部 次長 秋山 良一</li> <li>② 一般社団法人日本非破壊検査協会 会長 井原郁夫</li> <li>③ 一般社団法人日本非破壊検査工業会 専務理事 塙晴行</li> <li>④ 神奈川県非破壊試験技術交流会 副会長 内橋寛晴</li> </ul> </li> <li>・研究会40年を語る 顧問 白井越朗, 岸上守孝, 藤盛紀明</li> <li>・永年会員表彰 設立当初からの会員7名及び会員企業7社 受賞者挨拶 代表 守井隆史</li> </ul>

行 事	講習会
内 容	超音波探傷技術講習会 実技講習会4回（参加者38名）

## 40周年記念式典



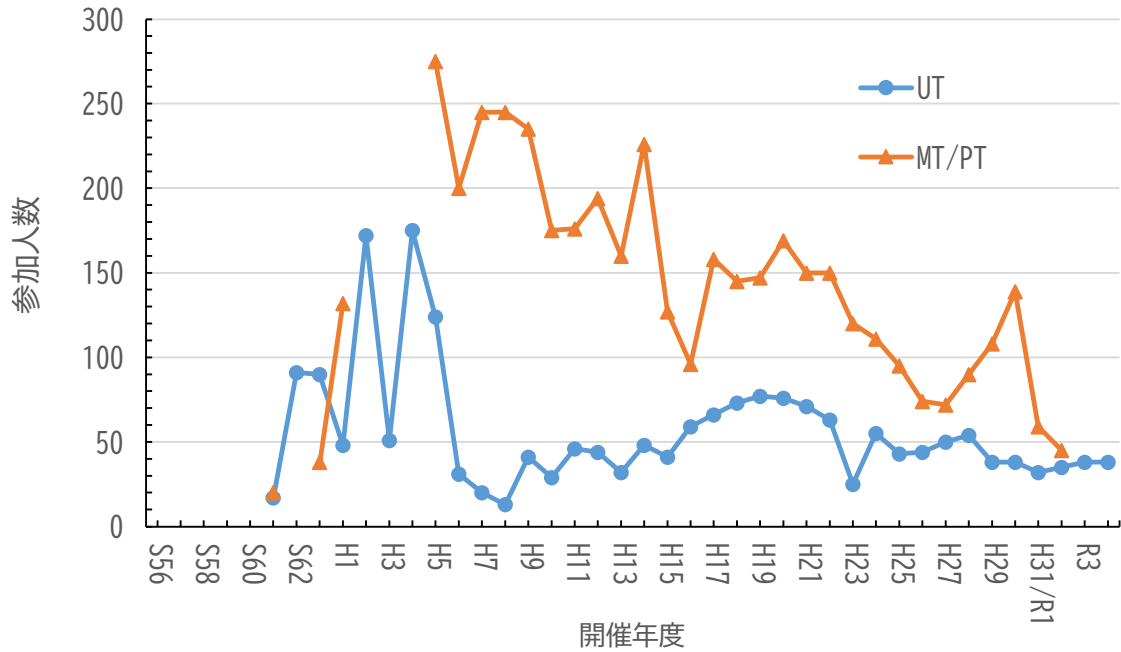
40周年記念式典会場



受賞者代表挨拶の守井氏

## 講習会の実績

表. UT及びMT/PT講習会の参加者数の推移



昭和61年から始めた超音波探傷試験（UT）及び磁粉探傷／浸透探傷試験（MT／PT）の講習会は、令和4年度までにUTは2088名、MT／PTは4376名の方に御参加いただきました。

## 第五章



高精細X線CT装置(管電圧 100kV 最小分解能 1.5 $\mu$ m)  
(公益財団法人 JKA 平成 25 年度機械工業振興補助事業)

元号 (西暦)	千葉県非破壊研究会 の出来事	JSNDI を中心とした NDT 業界の出来事	社会の出来事
S27 (1952年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本溶接協会内に「非破壊検査法研究会」が発足</li> <li>・機関誌「非破壊検査」第1巻1号が刊行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンフランシスコ講和条約発効</li> </ul>
S28 (1953年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅰ型」が頒布開始</li> </ul>	NHK テレビ放送開始
S29 (1954年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDT 関連の最初の JIS 規格「JIS W 4031 航空発動機用部品の磁気粉末検査」が制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5福竜丸ビキニで被曝</li> <li>・青函連絡船「洞爺丸」事故</li> </ul>
S30 (1955年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(社)日本非破壊検査協会が設立</li> <li>・日本原子力研究所設立</li> <li>・JIS Z 2341「金属材料の放射線透過試験方法」制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が GATT(貿易と関税に関する一般協定)に加盟</li> </ul>
S31 (1956年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDI 関西支部発足</li> <li>・金属材料技術研究所設立</li> <li>・超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅱ型」が頒布開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本が国際連盟に加盟</li> </ul>
S32 (1957年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDI で超音波探傷試験, 磁気・浸透探傷試験, ひずみの講習会が始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際原子力機関(IAEA)が発足</li> <li>・東海村の原子炉に点火</li> <li>・ソ連が人工衛星打ち上げ</li> </ul>
S33 (1958年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS Z 2344(金属材料のパルス反射法による超音波探傷試験方法通則)制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京タワーが完成</li> </ul>
S34 (1959年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・産報出版から「検査機器ニュース」発刊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皇太子ご成婚</li> <li>・伊勢湾台風</li> </ul>
S35 (1960年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国地方非破壊検査研究会発足</li> <li>・JISG0565「鉄鋼材料の磁粉探傷試験」制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日米新安保条約発効</li> <li>・ローマ五輪</li> </ul>
S36 (1961年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力関係の非破壊検査(001)委員会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回東京国際見本市</li> <li>・ソ連有人宇宙船打上げ</li> </ul>
S37 (1962年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学振超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅲ型」(現在の STB-G)頒布開始</li> <li>・超音波レール探傷車完成</li> <li>・高圧ガス保安協会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産旅客機 YS-11 初飛行</li> </ul>

S38 (1963年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・船舶技術研究所開所</li> <li>・ASNT(米国 NDT 協会)認定制度の公表</li> </ul>	
S39 (1964年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDI 中部支部発足</li> <li>・磁粉探傷用標準試験片頒布開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京五輪開催</li> <li>・東海道新幹線開通</li> </ul>
S40 (1965年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波斜角探傷用の STB 頒布開始</li> <li>・X線作業主任者試験実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米軍北爆(ベトナム)開始</li> </ul>
S41 (1966年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠陥材評価(003)特別研究委員会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国, 文化大革命</li> </ul>
S42 (1967年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI 編, 非破壊検査便覧出版</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害対策基本法成立</li> </ul>
S43 (1968年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非破壊検査技術者技量認定規程制定</li> <li>・全国非破壊検査業組合発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本 GNP 世界第 2 位</li> </ul>
S44 (1969年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回非破壊検査2級技術者技量認定試験実施</li> <li>・JSNDI で技量認定試験用の講習会開催が本格化</li> <li>・非破壊検査技術者用テキスト類の刊行</li> <li>・溶接部の超音波探傷検査が建築現場で採用される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東名道路全線開通</li> <li>・日本初の原子力船「むつ」進水</li> <li>・アポロ 11 号月面着陸</li> </ul>
S45 (1970年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電用熱機関協会発足</li> <li>・日本溶接協会 CIW 主任技術者試験実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪で日本万博会開催</li> <li>・八幡と富士が合併し, 新日本製鐵が誕生</li> </ul>
S46 (1971年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井造船千葉造船所内で検査会社がイリジウム紛失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドルショック</li> </ul>
S47 (1972年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDI 特級技術者技量認定試験実施</li> <li>・非破壊検査振興協会設立</li> <li>・保守検査(004)特別研究委員会設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌冬季五輪開催</li> <li>・沖縄本土復帰</li> </ul>
S48 (1973年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本建築学会規準「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」発行</li> <li>・九州地方非破壊検査研究会発足</li> <li>・NDI 各部門の技量認定試験「秋期合同試験」が実施</li> <li>・全国鐵構工業連合会設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国・北ベトナム和平協定調印</li> <li>・円, 変動相場制へ</li> <li>・第一次オイルショック</li> </ul>



S49 (1974年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国地方非破壊検査技術振興会発足</li> <li>・消防庁「屋外貯蔵所の保安点検基準」示達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物不足, 買い溜め騒動</li> <li>・原子力船「むつ」放射能漏れ</li> <li>・三菱石油水島精油所で重油流出事故</li> </ul>
S50 (1975年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び試験結果の等級分類方法」制定</li> <li>・NDI 石井賞規則制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄海洋博開催</li> <li>・第1回先進国首脳会議(6ヶ国サミット)スタート</li> </ul>
S51 (1976年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・汎太平洋非破壊試験会議(PPCNDT)設立総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッキード事件</li> </ul>
S52 (1977年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDIS 0601 の技量認定規則に3級の資格が追加された</li> <li>・石油貯蔵タンク技術基準強化のための政令, 省令が発令</li> <li>・秋田県非破壊検査技術研究会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤軍 日航機ダッカハイジャック事件が発生</li> </ul>
S53 (1978年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS Z 3050「パイプライン溶接部の非破壊検査方法」制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田新東京国際空港開港</li> <li>・高層ビル「サンシャイン60」完成</li> </ul>
S54 (1979年)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄骨問題協議会発足</li> <li>・北海道機械工業会検査部会発足</li> <li>・中国「無損検測学会」発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリーマイル島原発事故</li> </ul>
S55 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川向こうの会(千葉非破壊研究会)発足のため, 白井, 岸上, 藤盛の3氏による打合せが行われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線障害防止法改正</li> <li>・NDI の標準化部会が標準化委員会へ名称変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本自動車生産台数世界一位になる</li> </ul>
S56 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月26日, 日本大学生産工学部に於いて, 川向こうの会の発会式挙行</li> <li>・会長:石橋泰雄, 事務局を千葉県機械金属試験場に置き, 白井事務局長の体制でスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄骨建設業協会設立</li> <li>・アコースティック・エミッション(006)特別研究委員会設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次臨調成立</li> <li>・2000m級潜水調査船「しんかい2000」完成</li> <li>・日米貿易摩擦激化</li> </ul>
S57 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月23日, 日本大学生産工学部に於いて第2回総会と懇親会を開催</li> <li>・RT, UT, MT, PT などの講習会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI 創立30周年記念式典開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日航機羽田沖で逆噴射</li> <li>・東北, 上越新幹線開業</li> </ul>
S58 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋に特別幹事会が開催され, 千葉県に認知された研究会としての規約改正や千葉県非破壊検査研究会への名称変更などが話し合われた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国鐵構工業連合会で鉄骨超音波技術者の認定がスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三宅島噴火</li> <li>・ソ連 大韓航空機撃墜</li> </ul>

S59 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月4日に第3回総会が開催され、正式に機械金属試験場に事務局を置く千葉県非破壊検査研究会がスタート</li> <li>・千葉工大丹羽登先生が副会長に就任</li> <li>・第1回研究発表会で7件の発表</li> <li>・特別講演に丹羽登先生がご講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS W 0905「航空宇宙用非破壊検査員の技量認定基準」制定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリコ・森永事件発生</li> <li>・日本の平均寿命男女ともに世界一</li> <li>・マハラジャ麻布十番オープン, 世はバブルへ</li> </ul>
S60 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回総会にて丹羽登先生が第二代会長に就任</li> <li>・立川事務局入り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電用熱機関協会が発電設備技術検査協会へ改称</li> <li>・東北非破壊検査協会発足</li> <li>・浸透探傷試験片の頒布開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本四架橋大鳴門大橋開通</li> <li>・日航機 御巣鷹山に墜落</li> <li>・科学万博(つくば)開催</li> </ul>
S61 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長:丹羽登, 副会長:成毛幸雄</li> <li>・副会長は機械金属試験場長の充て職とする</li> <li>・事務局に書記担当者をおく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新素材の非破壊評価(007)特別研究委員会設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国スペースシャトル「チャレンジャー」爆発</li> <li>・ソ連チェルノブイリ原発事故</li> <li>・伊豆大島三原山噴火</li> </ul>
S62 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平</li> <li>・全構連鉄骨超音波 UT 技術者講習会開催</li> <li>・藤盛紀明氏渡米</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ASNT 日本で第1回 ASNT レベルⅢ技量認定試験実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO 9000 発効</li> <li>・国鉄解体 JR7社発足</li> </ul>
S63 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平</li> <li>・超音波関連規格の講習会開催 JIS Z 2344, JIS Z 2355, JIS Z 3060 研究会主催の超音波講習会が始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NDI で端部エコー実技講習会開催</li> <li>・NDIS 0601 の国際整合化対応で, 資格呼称を級→種に, 有効期限を9年→6年に変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青函トンネル開通</li> <li>・千葉都市モノレール開業</li> <li>・JR 京葉線新木場-西船橋間開業</li> <li>・瀬戸大橋開通</li> </ul>
S64-H1 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平</li> <li>・副会長案で, 研究発表会を事例発表会に名称変更する</li> <li>・NDI 中部支部との交流事業が始まる</li> <li>・歴史民俗博物館, 田口教授の講演と歴博の見学会</li> <li>・MT,PT 講習会は栄進化学主催, 研究会後援の体制がスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験(009)特別研究委員会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和天皇崩御</li> <li>・消費税 3%実施</li> <li>・NHK 衛星テレビ放送開始</li> <li>・北京で天安門事件</li> </ul>
H2 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平</li> <li>・創立 10 周年記念行事と祝賀会の開催, 記念誌の発行</li> <li>・協同組合千葉県鉄骨工業会との連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI 非破壊試験用語辞典が出版</li> <li>・JSNDI 会長の任期が2年となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バブル崩壊が始まる</li> <li>・東西ドイツが統一</li> <li>・雲仙普賢岳噴火</li> </ul>

	携で、超音波関連の講習会が盛んとなる		
H3 (1991年)	会長:丹羽登, 副会長:砂金國男 ・東京都で不良鉄骨が問題となり、千代田区役所の加藤哲夫構造係長を講師に招き、勉強会を開催	・溶接検査事業者懇談会が CIW 認定事業者協議会へ改称 ・東関東非破壊検査懇談会発足 ・韓国内に於いて、NDIS 0601 による資格試験が実施される	・湾岸戦争(多国籍軍対イラク) ・バブル崩壊 ・計量法改正, 国際単位(SI)化 ・ソ連消滅
H4 (1992年)	会長:丹羽登, 副会長:武藤明義 ・木村新一郎幹事のご尽力で、新日鉄技術本部の会場をお借りして総会を開催初代会長の日本大学生産工学部教授石橋泰雄氏が逝去され、同大学の星川洋教授から「石橋先生を偲ぶ」と題した講演を戴く	・NDI に支部及び地域研究会連絡会が設置される ・ISO 9712(非破壊試験-技術者の資格認証)制定	・東海道新幹線「のぞみ」運行開始 ・山形新幹線開業
H5 (1993年)	会長:丹羽登, 副会長:武藤明義 ・航空宇宙技術研究所の松嶋正道幹事ご尽力で、同研究所調布分室にて総会と見学会を開催	・NDIS J001:93(ISO 9712 翻訳版)制定 ・日本品質システム審査登録認定協会(JAB)発足	・日本プロサッカー, J リーグ始まる ・欧州共同体(EC)スタート
H6 (1994年)	会長:丹羽登, 副会長:高田喜正 ・ISO の認証が話題となり、日本検査コンサルタント(株)の寺田邦男氏に ISO 9000 番についての特別講演を開催 ・研究発表会では、デジタル探傷器や自動超音波探傷器の発表が盛んとなる	・NDI 超音波分科会オープンシンポジウム開催 ・NDI の事務所秋葉原に移転 ・IAEA 委託ラウンドロビンテスト実施	・高速増殖炉「もんじゅ」臨界 ・製造物責任(PL 法)成立 ・関西新空港開港
H7 (1995年)	会長:丹羽登, 副会長:高田喜正 ・阪神淡路大震災で建築鉄骨の問題点が明るみとなった。千葉工業大学建築工学科教授羽倉弘人氏に「阪神大震災と鉄骨構造物」と題した特別講演を戴く	・JIS Z 3104(鋼溶接継手放射線透過試験方法)改正 ・長崎県非破壊検査技術研究会発足	・阪神淡路大震災発生 ・地下鉄サリン事件発生 ・「もんじゅ」ナトリウム漏洩事故発生
H8 (1996年)	会長:丹羽登, 副会長:今関重義 ・丹羽会長の特別講演「千葉と超音波との 50 年」ご講演の内容は本ホームページで別載しました ・CNDI が協力した JSNDI の「裏当て金付完全溶込み T 継手のルート部からのエコー判別に関する指針」	・神奈川県非破壊試験技術交流会発足	・病原性大腸菌 O-157 による食中毒発生 ・東京ビッグサイト開場

	1995 改正版が研究発表会で報告された		
H9 (1997年)	<p>会長:丹羽登, 副会長:今関重義</p> <p>・新しい JSNDI の認証制度について, JSNDI の委員を務めておられる当研究会会員の福原熙明氏が解説した</p> <p>・非破壊検査技術者認証の国際整合化について, 岸上守孝氏による特別講演が行われた</p>	<p>・NDI ホームページ開設</p> <p>・NDI 支部規則が改正される</p> <p>・MT・PT 機器製造者協議会発足</p>	<p>・動燃再処理工場で爆発事故発生</p> <p>・秋田新幹線, 長野新幹線開業</p> <p>・東京湾アクアライン開通</p> <p>・消費税5%にアップ</p> <p>・京都議定書採択</p>
H10 (1998年)	<p>会長:星川洋, 副会長:今関重義</p> <p>・丹羽登先生が会長職を勇退され, 第三代会長に日本大学生産工学部教授, 星川洋先生が就任</p> <p>・特別講演で JFE テクノリサーチ中野昭三郎氏による超大型浮体式構造物(メガフロート)についての特別講演を開催。この構造物の一部は, 後の福島原発事故で廃液の一時貯槽として使用された</p> <p>・川崎製鉄(株)千葉製鉄所の熱延設備を見学</p>	<p>・AWA 認証機構設立(建築鉄骨溶接検査関連の認証機構)</p>	<p>・冬季五輪長野大会開催</p> <p>・郵便番号7桁化</p> <p>・明石海峡大橋開通</p> <p>・米英軍イラク空爆</p>
H11 (1999年)	<p>会長:星川洋, 副会長:風戸裕侑</p> <p>・藤盛紀明清水建設(株)研究所長のご尽力で, 同研究所において総会及び研究施設の見学会を実施。藤盛氏の研究所長就任を祝う</p> <p>・超音波フェーズドアレイシステムについて R/D Tech Japan のドミニク・ブラコニエ氏による発表</p>	<p>・NDIS J001 資格者の NDIS 0601 への移行規則制定</p> <p>・検査機器ニュース, 創刊40周年</p> <p>・日本溶接協会, JAB 認定取得</p> <p>・ISO 9712:99 改正</p>	<p>・新幹線コンクリート剥離事故多発</p> <p>・東海村の核燃料工場で臨界事故発生</p>
H12 (2000年)	<p>会長:星川洋, 副会長:鈴木義衛</p> <p>・国立歴史民俗博物館副館長白石太一郎氏による「エックス線が見つけた鉄剣銘文が語るもの」と題して, 古墳から出土した鉄剣に纏わるご講演を戴く</p> <p>・フリーディスカッション「NDI認証・認定問題を考える」が行われた</p>	<p>・NDIS 0601 改正(極間法磁粉探傷検査及び溶剤除去性浸透探傷検査の2種資格新設)</p>	<p>・三宅島噴火</p> <p>・2000年問題が危惧された</p> <p>・2千円札の発行</p>
H13 (2001年)	<p>会長:白井越朗, 副会長:齋藤博之</p> <p>・星川会長が会長職を勇退され, 白</p>	<p>・JIS Z 2305(非破壊試験-技術者の資格及び認証)制定</p>	<p>・省庁再編</p> <p>・独立行政法人誕生</p>

	井越朗氏が第四代会長に就任・研究会創立 20 周年記念行事を鴨川市ホテル海光苑にて開催 ・創立 20 周年記念誌の発行 ・東北大学教授三原毅助氏による TOFD 法に関する特別講演&装置の展示	・浸透探傷試験関連 JIS 規格4件制定 ・非破壊検査振興協会が「日本非破壊検査工業会」へ改称	・アメリカで 9.11 同時多発テロ発生
H14 (2002 年)	会長:白井越朗, 副会長:齋藤博之 ・建築鉄骨製造現場で話題となった入熱・パス間温度管理問題について, パネルディスカッションを開催 ・神奈川 NDT 技術交流会との共催による自動探傷技術講習会及び JSNDI の認証に関する講習会を開催し, 両研究会の交流が盛んとなる	・日本圧接協会が要員認証機関として JAB 認定取得	・欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始 ・住民基本台帳ネットワークがスタート ・小柴昌俊氏, 田中耕一氏ノーベル賞を受賞
H15 (2003 年)	会長:白井越朗, 副会長:今関重義 ・原子力設備と非破壊検査の将来性(東電問題等と今後の検査の方向性)東京工業大学教授小林英男氏(NDI会長)の特別講演 ・事務局の千葉県機械金属試験場が千葉県産業支援技術研究所に組織変更	・日本 LP ガスプラント協会と非破壊検査技術者の相互認定協定に関する協定書及び覚書締結 ・認定広報誌「インスパート」を廃止し, 機関誌巻末に「NDT フラッシュ」を掲載	・スペースシャトル「コロンビア」大気圏突入事故 ・小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ ・アメリカ・イラク戦争 ・六本木ヒルズオープン ・地上デジタル放送開始
H16 (2004 年)	会長:白井越朗, 副会長:今関重義 ・千葉県非破壊検査研究会, 神奈川県非破壊試験技術交流会との合同研究発表会を君津にて開催 ・研究会ホームページの開設 <a href="http://www.cndi.jp/">http://www.cndi.jp/</a>	・非破壊検査総合管理技術者の諸規則制定 ・JIS Z 2305 の移行試験・再認証試験が始まる ・「支部規則」及び「支部の設置と運営に関する規則」制定	・養鶏場で鳥インフルエンザ発生 ・美浜原発で蒸気漏れ事故 ・新潟県中越地震発生
H17 (2005 年)	会長:白井越朗, 副会長:木島栄 ・国立歴史民俗博物館歴史研究系助教授高橋一樹氏による非破壊分析と古文書の「真偽」の特別講演 ・TOFD 共同研究スタート ・千葉・神奈川研究会の合同研究発表会が大田区産業プラザで開催。JAL 羽田整備場の見学会	・東北支部及び九州支部が設立 ・インターネット上で書籍・試験片の受注開始 ・PD 認証運営委員会発足させ, PD 認証機関立ち上げ ・ビデオ「非破壊検査入門」を DVD 化する	・JR 福知山線脱線事故 ・耐震強度偽装問題が発覚
H18 (2006 年)	会長:岸上守孝, 副会長:木島栄 ・丹羽登 元会長逝去木村勝美氏に	・PED(欧州圧力容器指令)NDT 認証制度を立ち上げ, 第 1 回 PED サ	・第 1 回 WBC で王監督の日本が優勝

	<p>よる追悼講演が行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連団体との意見交換会平成 18 年 11 月 6 日協同組合千葉県鐵骨工業会との意見交換会</li> </ul> <p>出席者鐵骨工業会 古橋久 会長 武藤明義 事務局長</p> <p>千葉県非破壊検査研究会 岸上守孝 会長 藤盛紀明 顧問 立川克美 事務局長</p>	<p>プリメント試験を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PD 資格試験を実施, PD 技術者 3 名を認証・超音波分科会, セミオープン化実施</li> <li>・JSNDI 仕様デジタル探傷器導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市職員の飲酒運転死亡事故発生</li> <li>・秋篠宮紀子さま「悠仁(ひさひと)」さまをご出産</li> </ul>
H19 (2007 年)	<p>会長:岸上守孝, 副会長:山本修一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスポランド事故より, 「最近の金属疲労の事故について」と題し, 非破壊試験との関連について横浜国立大学教授小林英男氏の特別講演を開催</li> <li>・資格取得者を対象としたスキルアップ講習会の開催を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本非破壊検査工業会及び CIW 検査事業者協議会との合同懇談会開催</li> <li>・アジア諸国との非破壊試験に関するワークショップを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスポランドのジェットコースター車軸破損事故発生</li> <li>・マリナーズのイチロー氏日本人初の MVP</li> <li>・食品関係の偽装問題が発覚</li> <li>・郵政民営化スタート</li> </ul>
H20 (2008 年)	<p>会長:岸上守孝, 副会長:三戸茂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波探傷の日本建築学会規準が改正され, 倉持貢氏(元 清水建設(株))による講演を開催</li> <li>・横浜国大名誉教授関根和喜氏による石油タンクの検査について特別講演を開催</li> <li>・神奈川 NDT 技術交流会との共催で, (株)東京エネシス総合技術センターを会場として TOFD 探傷技術講習会を開催</li> <li>・新規事業の講習会(後の検査テクノ談話室)が開催された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術組織再編(分科会と特別研究委員会を再編)</li> <li>・大阪分室を西日本支援センターに改称</li> <li>・亀有センターから瑞江センターに移転</li> <li>・協会機関誌のカラー化</li> <li>・非線形超音波研究会発足</li> <li>・日本非破壊検査工業会がコンクリート構造物の配筋探査技術者資格認証制度開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国製餃子から農薬検出</li> <li>・野島崎沖でイージス艦「あたご」と漁船の衝突事故</li> <li>・公益法人改革に関する「公益法人改革三法」施行</li> <li>・南部陽一郎氏, 益川敏英氏, 小林誠氏, 下村脩氏がノーベル賞を受賞</li> </ul>
H21 (2009 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:三戸茂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI が探傷器メーカーに発注した NDI 仕様の探傷器が認証試験で適用されることになった。探傷器の特長について, 説明とデモを実施</li> <li>・検査テクノ談話室は道路橋の UT 及び浸透探傷試験の 2 テーマを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI 仕様デジタル探傷器の講習会及び資格試験への移行を公表</li> <li>・NDIS 0604 赤外線サーモグラフィ技術者の資格及び認証制定</li> <li>・イメージキャラクター「ノンディ」登場</li> <li>・JIS Z 2305 と ACCP 資格取得制度について, ASNT と合意書締</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 45 回衆議院議員選挙で民主党政権発足</li> <li>・裁判員制度がスタート</li> <li>・事業仕分けが話題となる</li> </ul>

		<p>結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非破壊試験技術者登録件数 7 万件を超える</li> <li>・日本溶接協会創立 60 周年式典</li> </ul>	
H22 (2010 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京工業大学教授廣瀬壮一氏による超音波伝搬シミュレーションに関する講演</li> <li>・アレイ探傷に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術再編に伴う会員登録事項の変更開始</li> <li>・技量認定・認証制度 40 周年</li> <li>・電界計測に基づく非破壊評価応用研究会発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小惑星探査機「はやぶさ」帰還</li> <li>・地上アナログから地デジに移行</li> <li>・羽田D滑走路供用開始</li> </ul>
H23 (2011 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズドアレイ法の現状と規格案について, 富山大学教授三原氏の解説及びアレイ装置メーカー4社の協力で展示を実施</li> <li>・創立 30 周年記念行事を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI/ACCP サプリメント試験開始</li> <li>・東日本大震災により, 関東, 東北地区の春期一次試験延期</li> <li>・第 68 通常総会において, 一般社団法人への移行が承認された日本エルピーガスプラント協会創立 50 周年</li> <li>・鉄骨建設業協会創立30周年</li> <li>・非破壊試験技術者登録件数 8 万件を超える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地で鳥インフルエンザの感染</li> <li>・3.11 東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災)</li> <li>・福島原発水素爆発</li> </ul>
H24 (2012 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東日本大震災からの復興を目指して」震災後の街づくりについて藤盛紀明会長の特別講演・守井隆史氏による「厚鋼板と超音波探傷の因縁」で, 製鉄・製鋼から制御圧延まで, 最新の製鋼技術について講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生を対象としたイベント「ヒハカイ星からやってきたノンディ」市川市の千葉県現代産業科学館にて開催</li> <li>・EN 473 と ISO 9712 整合化に伴う JIS Z 2305 改正に伴う説明会の開催</li> <li>・創立 60 周年記念式典の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京スカイツリー開業</li> <li>・日本で金環日食</li> <li>・関西電力大飯原発再稼働</li> <li>・原子力規制委員会発足</li> <li>・東京駅丸ノ内駅舎改修</li> <li>・山中伸弥氏ノーベル賞を受賞</li> </ul>
H25 (2013 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中部支部事務所を移転</li> <li>・東京地区の新センターを亀戸の立花アネックスビルに設置</li> <li>・秋季講演大会(広島)にて改正 JIS Z 2305(2001→2013)の開始時期を説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・J-PARC で放射性同位体漏洩事故が発生</li> <li>・2020 年五輪の開催地が東京に決定</li> </ul>
H26 (2014 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:中田裕之</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋工業大学名誉教授川嶋紘一郎氏による非線形超音波(高調波)法の講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS Z 2316-1:2014「非破壊試験-渦電流試験-第 1 部~第 4 部」(制定)</li> <li>・東京本部事務所を秋葉原から亀</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京駅開業 100 周年</li> <li>・赤崎勇氏, 天野浩氏, 村修二氏, ノーベル物理学賞受賞</li> </ul>

		戸に移転(MBR→立花アネックス) ・「春季講演大会」を「非破壊検査総合シンポジウム」に名称変更	・はやぶさ 2 打ち上げ ・消費税 8%にアップ
H27 (2015年)	会長:藤盛紀明, 副会長:中田裕之 ・宇宙航空研究開発機構 松嶋正道氏による複合材料の特質と非破壊評価に関する講演 ・トモグラフィ・SAFT に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施	・NDIS 1204:2014「工業用 X線フィルム寸法の制定」の制定 ・東北支部創立 30 周年記念行事を開催仙台サンプラザ ・大阪堺筋ビルを大阪の新センターに決定 大阪堺筋ビル5階:呼称「堺筋センター」 ・「特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」及び「一般社団法人日本非破壊検査協会特定個人情報取扱規則」の制定	・北陸新幹線開業 ・選挙権年齢が 18 歳に引き下げ ・ラグビー日本代表が活躍 ・大村智氏が生理学・医学, 梶田隆章氏が物理学でノーベル賞を受賞 ・日本郵政グループが上場 ・金星探査機「あかつき」が金星周回軌道に投入
H28 (2016年)	会長:小井戸純司, 副会長:森文彦 ・日本大学生産工学部 小井戸純司氏による電磁気を利用した非破壊試験に関する講演 ・インフラ調査士 資格認証制度に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施 ・藤盛会長, 立川事務局長が退任 ・千葉県産業支援技術研究所材料技術室長を事務局長の持ち職とし, 石川事務局長が就任	・サーモグラフィに基づく機械状態監視診断技術者(サーモグラフィ)の認証制度を開始 ・NDIS 3435:2015「コンクリートの非破壊試験—鉄筋平面位置及びかぶり厚さの試験方法の種類とその選択」を制定 ・ISO 18436-7 機械状態監視診断技術者(サーモグラフィ)資格試験を開始 ・関西支部創立 60 周年記念式典開催	・マイナンバーの運用開始 ・民主党解散 ・北海道新幹線開業 ・8月11日が「山の日」として祝日となる ・大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞受賞 ・113 番目の元素の名前がニホニウムに決定 ・高速増殖原型炉もんじゅの廃炉決定
H29 (2017年)	会長:小井戸純司, 副会長:森文彦 ・宇宙科学研究所 津田雄一氏による太陽系探査技術に関する講演 ・検査テクノ談話室で見学会を実施	・JIS Z 2305:2013 による認証制度が本格始動 ・JIS Z 2306「放射線透過試験用透過度計」の原案作成団体が(一社)軽金属溶接協会から JSNDI に移管 ・米国非破壊試験協会(ASNT: ACCP 資格)と日本非破壊検査協会(JSNDI:JIS Z 2305 資格)の非破壊試験技術者資格の相互承認協定締結	・プロ棋士の加藤一二三九段が現役引退を表明。また藤井聡太 四段が 29 連勝を達成。 ・カズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞を受賞
H30 (2018年)	会長:小井戸純司, 副会長:根本正志 ・電気通信大学 教授 庄野逸氏によ	・NDIS 資格制度から JIS Z 2305 資格制度への移行を決定	・千葉駅 駅ビル全面開業 ・平昌冬季五輪で冬季過



	<p>るディープラーニングを用いた医用画像識別に関する講演</p> <p>・デジタルラジオグラフィに関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノロジーにて実施</p>	<p>・NDIS 0604(赤外線サーモグラフィ試験:TT)</p> <p>・NDIS 0605(漏れ試験:LT)</p> <p>・NDIS 2431:2018「圧縮水素スタンド用鋼製蓄圧器の超音波探傷試験方法」制定</p> <p>・日本非破壊検査協会規格の制定</p> <p>・NDIS 2432:2018「角形鋼管溶接角部の超音波探傷試験方法」</p> <p>・NDIS 2433:2018「裏当て金付完全溶込み溶接 T 継手のルート部からのエコー判別方法」</p> <p>・北海道胆振地方を震源とする地震の影響により 9 月実施(千歳・札幌地区)予定の秋期再認証試験の振替実施</p> <p>・JIS Z 2345-「超音波探傷試験用標準試験片 1 部~4 部(制定)」</p>	<p>去最多13個のメダル獲得</p> <p>・探査機「はやぶさ 2」の探査ロボットがリュウグウに着陸</p> <p>・東京豊洲市場が開場</p> <p>・本庶佑氏がノーベル生理学・医学賞受賞</p>
H31-R1 (2019年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <p>・事務局長に材料技術室長 篠田清が就任</p> <p>・東芝電力検査サービス株式会社 唐沢博一氏によるポータブル 3D 超音波検査装置の講演</p>	<p>・研究委員会の発足</p> <p>・「コンクリートの含水率に関する試験方法研究委員会」(鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門)</p> <p>・研究会の発足</p> <p>・「先進超音波計測に関する萌芽技術研究会」</p> <p>・「<math>\cos\alpha</math> 法及び二次元検出器による X 線応力測定法研究会」</p> <p>・認定・認証事業 50 周年記念式典開催(於 神田学士会館)</p>	<p>・はやぶさ 2 がリュウグウに着陸</p> <p>・元号改定 平成から令和へ</p> <p>・キログラムをはじめとした SI 定義改定</p> <p>・令和元年房総半島台風発生</p> <p>・消費税が一部 10%にアップ</p> <p>・吉野彰氏がノーベル化学賞受賞</p> <p>・首里城焼失</p>
R2 (2020年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <p>・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため、各事業を自粛</p> <p>・UT 実技試験対策講習会は、感染防止対策を徹底して開催</p>	<p>・「新型コロナウイルス(COVID-19)への本会の対応について」第1報、第2報を本会ホームページに公示</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言の発出により 4 月から 6 月までの講習会を全面中止</p> <p>・新型コロナウイルスのため「非破壊検査総合シンポジウム」を中止</p>	<p>・地質年代のひとつに「チバニアン」と命名</p> <p>・高輪ゲートウェイ駅(山手線/京浜東北線)開業</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令</p> <p>・虎ノ門ヒルズ駅(日比谷線)開業</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本非破壊検査協会規格の制定</li> <li>・NDIS 3436-1:2020「コンクリートの非破壊試験」第I部～第5部(制定)</li> <li>・秋季講演大会(於 名古屋)をZoomによる初のオンライン講演で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・としまえん閉園</li> </ul>
R3 (2021年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため, 各事業を自粛</li> <li>・UT 実技試験対策講習会は, 感染防止対策を徹底して開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緊急事態宣言の再発出を受けた本会の新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について」第6報、第7報を本会ホームページに公示</li> <li>・アジア・太平洋非破壊試験連盟(APFNDT)のExecutive Committee(AEC)会議をオンライン開催</li> <li>・四国支部の設立</li> <li>・JISの制定報告</li> <li>・JIS Z 2359:2021「ひずみゲージ試験通則」</li> <li>・日本非破壊検査協会規格の制定</li> <li>・NDIS2002:2021「フェーズドアレイ超音波探傷試験用語」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京五輪開催 過去最多58個のメダル獲得</li> <li>・真鍋淑郎氏がノーベル物理学賞受賞</li> <li>・新五百円硬貨 発行</li> <li>・大谷翔平氏が米大リーグのMVP受賞</li> </ul>
R4 (2022年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局長に材料技術室長 細谷昌裕が就任</li> <li>・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため, 各事業を自粛</li> <li>・MT/PT 及び UT 実技試験対策講習会は, 感染防止対策を徹底して開催</li> <li>・創立40周年記念式典を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSNDI 創立70周年</li> <li>・JSNDI 創立70周年記念ロゴ(2種類)を作成</li> <li>・JSNDI 創立70周年記念事業-マラソン方式-</li> <li>・非破壊検査総合シンポジウム 特別講演を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北京冬季五輪で冬季過去最多18個のメダル獲得</li> <li>・成人年齢が18歳に引き下げ</li> <li>・安倍晋三元首相が応援演説中に遭難</li> <li>・エリザベス英国女王逝去</li> <li>・1ドル150円超え</li> </ul>
R5 (2023年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創立40周年記念誌発行</li> </ul>		

## 編集後記



事務局長 細谷昌裕

昨年 11 月に 40 周年記念式典、今年は記念誌の発行と、大忙しの毎日でした。ご協力いただいた研究会会員の皆様、40 周年記念事業 WG の皆様及び事務局のメンバーに感謝いたします。記念誌を編集することにより、事務局一同、改めて会の歴史の重さを認識した次第です。

当研究会は 40 年と永きに渡り活動を行ってきましたが、今後の会の運営には会員の皆様の積極的なご参加が不可欠です。「研究会」のまま継続できるのか、あるいは変化して発展をめざすのか、皆さんと考えていきたいと思えます。

事務局の一員として責を担い、歴史あるこの研究会記念誌が無事発行でき、またお手元にお届けすることができましたことに感謝とともに安堵しています。発行に際し、原稿を寄せてくださいました皆様に心より御礼申し上げます。この発行に際し、より良いものを作成しようと、(手前味噌ながら…) 会長及び事務局長の指示のもと、この編集委員及び事務局で進められたことに感謝申し上げます。これまでの歴史と重みのある研究会活動の姿がお伝えできれば大変嬉しく思います。



書記 吉田浩之

研究会の皆様、40 周年記念式典から記念誌の発行まで、ご協力いただきありがとうございます。研究会書記として 1 年目から、長い歴史を持つ研究会の 40 周年記念事業に携わることができ、大変光栄でございます。

50 年、60 年と研究会が続きますよう事務局の一員として、皆様のお役に立てるよう誠心誠意努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



書記 太田大貴

本誌を編集するなかで、「川向こうの会」から始まった千葉県非破壊検査研究会の 40 年の歴史を、写真や活動実績などから体感することができました。講演や各講習会の参加者数を見ると、非常に多くの方との縁によって活動が続いてきたのだと感じております。

記念誌の発行にあたってたくさんの人に御協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



書記 山本貴之

---

# 千葉県非破壊検査研究会 40周年記念誌

令和5年7月 発行

編集 千葉県非破壊検査研究会 40周年記念誌WG

編集委員 会長：小井戸純司 監事：守井隆史 幹事：立川克美, 高橋厚志, 高橋英司  
事務局長：細谷昌裕, 書記：吉田浩之, 太田大貴, 山本貴之

発行者 千葉県非破壊検査研究会

〒263-0016 千葉県千葉市稲毛区天台6-13-1

千葉県産業支援技術研究所内

TEL：043-252-2106 FAX：043-254-6555

印刷所 株式会社キョウシン

〒110-0003 東京都台東区根岸3-18-20 2F

TEL：03-6240-6655

転載・複製を禁ず

---